資 料

社会に開かれた魅力ある商業教育の実現に向けて

－Society5.0時代の新しい商業教育の実践例－

令和３年10月

全国商業高等学校長協会

目　　次

はじめに …… 1

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

北海道　北海道札幌東商業高等学校【情報処理】 …… 2
北海道　北海道小樽未来創造高等学校【商品開発】 …… 3
青森県　青森県立青森商業高等学校【課題研究】 …… 4
青森県　青森県立三沢商業高等学校【課題研究】 …… 5
岩手県　岩手県立水沢商業高等学校【ビジネス情報】 …… 6
岩手県　岩手県立北上翔南高等学校【電子商取引】 …… 7
宮城県　仙台市立仙台商業高等学校【簿記・財務会計Ｉなど】 …… 8
宮城県　宮城県大河原商業高等学校【広告と販売促進】 …… 9
秋田県　秋田県立大館国際情報学院高等学校【課題研究】 …… 10
秋田県　秋田市立秋田商業高等学校【財務会計Ｉ】 …… 11
山形県　山形市立商業高等学校【広告と販売促進】 …… 12
山形県　山本学園高等学校【ビジネス基礎】 …… 13
福島県　福島県立保原高等学校【総合実践】 …… 14
茨城県　茨城県立水戸商業高等学校【簿記】 …… 15
茨城県　茨城県立土浦第三高等学校【財務会計Ｉ】 …… 16
栃木県　栃木県立宇都宮商業高等学校【プログラミング】 …… 17
群馬県　群馬県立伊勢崎商業高等学校【プログラミング】 …… 18
群馬県　群馬県立高崎商業高等学校【ビジネス情報】 …… 19
埼玉県　埼玉県立浦和商業高等学校【ビジネス基礎】 …… 20
埼玉県　埼玉県立大宮商業高等学校【簿記】 …… 21
千葉県　千葉県立千葉商業高等学校【簿記】 …… 22
千葉県　千葉県立千葉商業高等学校【ビジネス情報】 …… 23
山梨県　甲府市立甲府商業高等学校
　【ビジネス経済・課題研究（株式学習）・ビジネス基礎】 …… 24
山梨県　甲府市立甲府商業高等学校【財務会計Ｉ・マーケティング】 …… 25
東京都　東京都立江東商業高等学校【ビジネスアイデア】 …… 26
東京都　東京都立江東商業高等学校【財務会計Ｉ】 …… 27
神奈川県　横浜市立横浜商業高等学校【課題研究】 …… 28
神奈川県　神奈川県立厚木商業高等学校【原価計算】 …… 29
新潟県　新潟県立佐渡総合高等学校【経済活動と法】 …… 30
富山県　富山県立富山商業高等学校【情報処理】 …… 31

石川県　石川県立金沢商業高等学校【観光地域学】…… 32
石川県　石川県立小松商業高等学校【課題研究】…… 33
福井県　福井県立敦賀高等学校【総合的な学習の時間】…… 34
福井県　福井県立若狭東高等学校【課題研究】…… 35
長野県　長野県諏訪実業高等学校
【簿記・ビジネス基礎・原価計算・マーケティング・ビジネス情報など】…… 36
長野県　長野県穂高商業高等学校【簿記・ビジネス基礎・情報処理】…… 37
静岡県　静岡県立沼津商業高等学校【ビジネス情報】…… 38
静岡県　静岡県立浜松商業高等学校【課題研究（観光)】…… 39
愛知県　愛知県立愛知商業高等学校【課題研究（地域協働ビジネススキルアップ探究)】…… 40
愛知県　愛知県立東海商業高等学校【簿記】…… 41
岐阜県　岐阜県立岐阜商業高等学校【ビジネス基礎】…… 42
岐阜県　岐阜県立大垣商業高等学校【簿記】…… 43
三重県　三重県立四日市商業高等学校【総合実践・課題研究（未来の教室)】…… 44
三重県立津商業高等学校
三重県立松阪商業高等学校
三重県　三重県立津商業高等学校【電子商取引】…… 45
三重県　三重県立宇治山田商業高等学校【ビジネス経済応用】…… 46
滋賀県　滋賀県立八幡商業高等学校【課題研究（観光基礎講座)】…… 47
京都府　京都府立大江高等学校【ビジネス実践】…… 48
京都府　京都府立京都すばる高等学校【ビジネス基礎】…… 49
大阪府　大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校【情報処理】…… 50
大阪府　大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校【ビジネスマネジメントⅠ】…… 51
兵庫県　兵庫県立神戸商業高等学校【ビジネス経済応用】…… 52
兵庫県　兵庫県立豊岡総合高等学校【簿記】…… 53
奈良県　奈良県立奈良朱雀・奈良商工高等学校【電子商取引】…… 54
奈良県　奈良県立奈良情報商業・商業高等学校【情報処理】…… 55
和歌山県　和歌山県立和歌山商業高等学校【電子商取引】…… 56
鳥取県　鳥取県立鳥取商業高等学校【情報処理】…… 57
鳥取県　鳥取県立米子南高等学校【ビジネス情報】…… 58
島根県　島根県立情報科学高等学校【プログラミング】…… 59
島根県　島根県立松江商業高等学校【総合実践】…… 60
岡山県　岡山県立倉敷商業高等学校【課題研究】…… 61
岡山県　岡山県立笠岡商業高等学校【ビジネス基礎】…… 62
広島県　広島市立広島商業高等学校【電子商取引】…… 63
広島県　広島県立広島商業高等学校【ビジネス基礎・情報処理】…… 64
山口県　山口県立防府商工高等学校【総合実践】…… 65

山口県　山口県立柳井商工高等学校【電子商取引】 66
香川県　香川県立坂出商業高等学校【総合実践】 67
香川県　香川県立高松商業高等学校【原価計算】 68
徳島県　徳島県立徳島商業高等学校【課題研究】 69
徳島県　徳島県立つるぎ高等学校【原価計算】 70
愛媛県　愛媛県立松山商業高等学校【マーケティング】 71
愛媛県　愛媛県立新居浜商業高等学校【ビジネス情報】 72
高知県　高知商業高等学校【ビジネス経済】 73
高知県　高知商業高等学校【原価計算】 74
福岡県　福岡県立小倉商業高等学校【マーケティング】 75
福岡県　福岡女子商業高等学校【ソフトウェア活用】 76
佐賀県　佐賀県立佐賀商業高等学校【財務会計Ⅰ】 77
長崎県　長崎県立諫早商業高等学校【マーケティング】 78
長崎県　長崎県立佐世保商業高等学校【ビジネス基礎】 79
熊本県　熊本県立球磨中央高等学校【簿記・管理会計】 80
熊本県　熊本県立北稜高等学校【マーケティング】 81
大分県　大分県立中津東高等学校【ビジネス基礎・マーケティング・経済活動と法】 82
大分県　大分県立国東高等学校双國校【ビジネス情報】 83
大分県　大分県立大分商業高等学校【ビジネス経済】 84
宮崎県　宮崎県立宮崎商業高等学校【ビジネス情報管理】 85
宮崎県　宮崎県立富島高等学校（実践校：宮崎県立都城商業高等学校）【課題研究】 86
鹿児島県　鹿児島女子高等学校【課題研究】 87
鹿児島県　鹿児島情報高等学校【全科目】 88
沖縄県　沖縄県立具志川商業高等学校【総合実践】 89
沖縄県　沖縄県立南部商業高等学校【課題研究】 90

ＩＣＴを活用した授業の実践事例一覧 92

おわりに 94

資料　本部提案テーマ年度別一覧 95

はじめに

商業教育対策委員会は、新しい魅力ある商業教育の実現を図るために、毎年、全国の学校がかかえる様々な課題に関するテーマを設定し、本部提案を行っています。

令和３年度は、春季研究協議会用に「新学習指導要領に基づく教育課程の実施に向けた諸課題－Society5.0時代の新しい商業教育の実現のために－」をテーマとし、全国の学校を対象にアンケート調査を行い、その分析及び考察をまとめた冊子を全国の会員の校長先生方に届けました。春季研究協議会はコロナ禍により中止となりましたが、多くの学校にとりまして、その冊子が新学習指導要領による教育課程の実施にあたり、少しでも参考になれば幸いに存じます。

秋季研究協議会の本部提案のテーマは、春季研究協議会のテーマとの関連性を考えて「社会に開かれた魅力ある商業教育の実現に向けて－Society5.0 時代の新しい商業教育の実践例－」としました。秋季研究協議会では、全国からＩＣＴを活用した授業の実践事例を収集し冊子にまとめ、その内容に基づいたシンポジウムを開催いたします。

ＩＣＴの活用については、昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあって、国のＧＩＧＡスクール構想が前倒しで進められ、学校ではＩＣＴ環境の整備が一気に加速しました。コロナ禍ではじまったオンライン学習は、十分な準備が整わない中でのスタートとなり、多くの学校が、その準備や研修に多くの時間を費やしたことと思います。また、多くの教員は、ＩＣＴを効果的に活用してよりよいものを生徒たちに提供したいという思いがありながらも、できることから取り組んでいくしかないという思いで、現在も必死に取り組んでいることと思います。

今回のシンポジウムでは、全国の学校がかかえる様々な課題に対して、その解決策のヒントを得られるような進行になればと考えています。全国の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

多くの学校がこの冊子を有効に活用していただき、今後の商業教育の充実・発展につながることを強く願い結びといたします。

【本冊子で使用した学習場面の分類】

本冊子では、文部科学省「教育の情報化に関する手引（令和元年 12 月）」にあるＩＣＴを効果的に活用した学習場面の１０の分類例を参考にしました。

○Ａ　一斉授業

Ａ１　教員による教材の提示：画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用

○Ｂ　個別授業

Ｂ１　個に応じる学習：一人一人の習熟の程度等に応じた学習

Ｂ２　調査活動：インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録

Ｂ３　思考を深める学習：シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習

Ｂ４　表現・制作：マルチメディアを用いた資料、作品の制作

Ｂ５　家庭学習：情報端末の持ち帰りによる家庭学習

○Ｃ　協働学習

Ｃ１　発表や話合い：グループ学習全体での発表・話合い

Ｃ２　協働での意見整理：複数の意見・考えを議論して整理

Ｃ３　協働制作：グループでの分担、協働による作品の制作

Ｃ４　学校の壁を越えた学習：遠隔地や海外の学校等との交流授業

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	北海道	学校名	北海道札幌東商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	Windows10 デスクトップパソコン40台、CaLabo、書画カメラ（エルモ）、		

１　科目名「情報処理」
　履修学年：１年次（情報処理科）　単位数：５　履修形態：必修
２　授業概要
　第４章　ビジネス文書の作成
　文章の表現及び文書作成ソフトウェアの活用を取り扱い、基本となる情報を基に、ビジネス文書を作成するための基礎的な知識と技術を習得させる。
　ＩＣＴを活用したロールプレイングを行うことにより、コミュニケーション力が向上し、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。
[授業の流れ]
(1) 基本的なビジネス文書の作成方法を学んだ後、社長、上司、部下２名の役割でグループ編成を行う。
(2) 社長役が上司役にイメージ図を示し、ビジネス文書の作成を指示する。
(3) 上司役は部下役２名に口頭で社長役からの指示を出し、部下役がビジネス文書を作成する。
(4) 指示後は画面共有やチャット機能を使いながら、部下⇔上司⇔社長の間でやりとりを行い、報告・連絡・相談を繰り返しながらビジネス文書作成のロールプレイングを行う。
(5) 文書完成後、部下役は書画カメラ等を使用し発表会を行い、社長役の指示に対して適切に文書が作成されたかを生徒間で評価する。
(6) 作成する文書の指示とメンバーの役割を変え、ローテーションしながら文書作成とコミュニケーションのスキルを向上させる。
３　授業実施上の工夫
○　コミュニケーションを円滑にするため、WebやDVDを使用した事前学習を実施した。
○　作成中の文書は共通のフォルダに保存させ、上司役の生徒は部下役の進捗状況を把握させた。
○　実際の企業をイメージさせるため、三者の伝達方法は、口頭だけではなくＰＣにインストールされている CaLabo を使用した。このことにより、グループ毎の画面共有やチャット等でのやりとりが可能となり、効果的なコミュニケーションを意識させることができた。
○　ＰＣで反省日誌を作成させ、自己評価を行った。
○　教師は書画カメラを活用しＰＣ画面からグループごとに指示を行った。
○　文書完成後は、発表会を実施し文書作成や作成に至るまでのコミュニケーション方法について他己評価を行った。
４　評価方法

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	ビジネスにおける情報活用の意義と役割を理解するとともに、それを実践するための知識を身につけているか。	情報をビジネスに活用するために、情報を活用しやすい形に加工する工夫を行うとともに、情報モラルを踏まえた適切な判断ができるか。	ビジネスにおける情報の活用に関心を持ち、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用しようとするか。

５　成果と課題
　ＩＣＴを活用することによりコミュニケーションをより円滑に行うことができた。また、他の生徒の内容や進捗状況をＰＣ上で簡単に確認できることにより、競争意識や意欲に繋がり、積極的・主体的に取り組む姿勢が見られた。チャット等の機能を使用することにより、話が苦手な生徒も積極的に授業に関わるとともに、直接コミュニケーションを図る上での重要性を認識させることができた。授業前・授業後のアンケートにおいても 95%以上の生徒がコミュニケーションの重要性に対する意識が向上したという結果となった。
　現在、ＩＣＴ機器を使用しオンライン授業を展開しているが、教員のスキル不足、通信環境、セキュリティ、モラル等様々な課題がある。しかし、ＩＣＴの活用は情報活用能力の育成や生徒の学習意欲、表現力・想像力の向上に繋がるとともに、教員の意識改革など様々メリットあることから、今後も積極的に活用の幅を広げていきたい。
６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○				○		○			

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	北海道	学校名	北海道小樽未来創造高等学校
授業で活用しているICT機器など	生徒端末：Microsoft® Surface 40台、Apple iPad 40台 教材提示：SHARP BIGPAD(タッチディスプレイ70V型) 接続中継：Apple TV、Chromecast、SHARP Mirror Op		

１　科目名「商品開発」

履修学年：２年次　　単位数：３　　履修形態：選択

２　授業概要

第１章　商品と商品開発　　第２節　商品開発の意義と手順

商品の成り立ち、何を商品として考えるのかについて理解させ、技術革新、経済の国際化、消費生活の変化、地球環境の保全などによる多様な商品提供の現状について認識させる。

その上で、現代社会における商品開発の観点から、企業の社会的責任や法令遵守についてWebを利用した調べ学習の実習（CSRやコンプライアンスに関する調査）を行い、全体の前で発表を行うことでプレゼンの能力を高め、学習内容の深化を図る。

ＩＣＴを活用した実習を通し、商品開発の手順と考え方について、その骨格を理解させる。

３　授業実施上の工夫

Webを利用した調べ学習は、これまでも据置のPC実習室で行ってきたが、携帯情報端末という機動性を活かし、他生徒との比較、検討が容易に行えることから、コミュニケーションが増え、他生徒の内容、進捗状況の理解、重複防止等に繋がり、より中身の濃い発表内容に繋がるよう努めた。また、発表時には、生徒自身に他者評価を行うことで、緊張感のある発表、自己の発表の反省、振り返りをさせている。

生徒は、日常的にニュース等でのテレビ視聴時間が少なく、新聞購読を行っていない生徒も多く、社会情勢について日常的に問題意識をもたせるために、Web上のニュース（LINE NEWS、Yahoo!ニュース等）を積極的に目を通すように働きかけを行っている。

４　評価方法

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	企業の社会的責任についての基礎的・基本的な知識を身につけているか。 また企業の社会的責任に関する資料を収集する技能を身につけているか。	商品開発の意義、企業の社会的責任について思考を深めているか。	商品開発の意義、企業の社会的責任について関心を持ち、意欲的に取り組む実践的な態度を身につけているか。

５　成果と課題

課題に取り組んでいる最中から、取り組みの“見える化”により、他の生徒の内容や進捗状況を簡単に公開し合うことが可能であり、互いにより良い作品を作成しようといった意欲の向上、より積極的に調べようとする意識の向上が見られた。また、これをきっかけに同じテーマに基づく小グループに分けての共同学習への移行についてもスムーズに繋がることがわかった。作品を端末から自分たちの操作で直接大型ディスプレイにダイレクトにペアリング、ミラーリングすると、生徒たちからは必ずと言っていいほど歓声が上がり、興味関心が高まる。直接接続により、発表準備がよりスムーズに行われ、ネットワークに関する実践的な知識、技術の向上により、機器の活用スキルが高まった。

本校は、学校統合というタイミングでこれらの機器を揃えることができたが、これらの機器の整備には多額の予算が必要である。一斉授業等40人がWeb接続を行うことで生じる通信環境（通信トラフィック）の悪化も十分な授業時間の配置や、時間差で接続させるなど授業方法の工夫が必要である。また、スムーズな調べ学習へ繋げるために適切なフィルタリング設定も課題である。

タブレット等のＩＣＴの活用は、現在も試行錯誤が続くが、授業での積極的な活用を通して、外部市場調査アンケートのアプリ開発や個々人で行う新入生への学校案内など様々な用途において今後も積極的に活用の幅を広げていきたい。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
	○	○		○		○			

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	青森県	学校名	青森県立青森商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	Webカメラ、ノート型PC、液晶ディスプレイ、プロジェクタ、スクリーン		

１　科 目 名

「課 題 研 究」（３学年商業科商業コース、３単位、必修）

２　授業概要

〈単元名〉「AOMORIと世界をビジネスで繋ぐ高校生チャレンジ(台湾編)」

〈内　容〉　海外輸出を視野に入れた「商品開発と流通」の先進的な実践

〈特　色〉　(1)同じ商業教育を学ぶ台湾の高校生との協働学習

（交流校：台北市立松山高級商業家事職業学校）

(2)海外進出支援コンサルタントの活用

(3)商品開発協力企業もWeb上で参加

〈学習指導計画〉

４～10月：商品開発(青森商業)　パッケージデザイン制作(台湾松山)

11月：試作品のテストマーケティング(青森商業)

12月：第１回Web会議

(1)テストマーケティングの結果報告(青森商業)

(2)商品パッケージ及び開発商品試食(台湾松山)

２月：第２回Web会議『台湾での共同開発商品試食イベント』

(1)台湾松山生徒による会場案内(オンラインリポート)

(2)試食提供リポート(双方向質問)

３　授業実施上の工夫

第１回　(1)体育館で実施したため、生徒画面と通訳画面を分離して、台湾側がわかりやすいようにした。

(2)Web会議ツールは、Live Onを利用。

(3)海外との通信安定のため、有線で対応。

第２回　(1)台湾側の会場でWi-fiを利用せざるを得なかったため、オンラインリポート(単方向通信)の受信PCと試食提供リポート(双方向通信)の送受信PCを分けて対応。

(2)オンラインリポート(単方向通信)のツールは、Facebook Live。試食提供リポート(双方向通信)のツールは、Google Meet。

４　評価方法

・進捗状況レポート、発表内容、実習日誌

・Web会議については、ふりかえりシートの提出

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・資料収集を多角的に行ったか。 ・プレゼンテーションソフトを有効に活用し、的確にまとめているか。	・商業の見方･考え方ができているか。 ・収集した資料を有効に利用したか。 ・発表原稿が論理的に構成されているか。	・自ら積極的に問題解決に努力したか。 ・発表に向けて計画的に学習を進めたか。 ・班員と協力をして学習をしているか。

５　成果と課題

(1)商品開発を通して、より密度の高い交流が実現できた。

(2)開発商品の市場への流通を実現するために、現地との継続した取り組みが必要である。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
				○		○			○

開発商品

第１回Web会議

第２回Web会議

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	青森県	学校名	青森県立三沢商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	コラボノート（ソフト）、タブレット、実物投影機 プロジェクター、グループウェア		

１　科目名「課題研究」

本校では総合的な探究の時間を課題研究で代替している。３年生で３単位必修と設定している。

２　授業概要

コラボノート（ソフト）を使って、グループ協議内容を同時に記入、整理・編集することで、研究活動が視覚化され、研究への共通理解と深めさせている。

テーマ設定の際のグループ協議、課題発見学習、活動内容の報告などに活用している。なお、活動内容の報告にはグループウェアを利用している。

３　授業実施上の工夫

① グループ内の意見を整理しやすいように、大きな編集画面に付箋カードを表示させ入力する。
② 入力された付箋カードにコメントをつけて移動・整理させる。
③ 話すよりも入力していくことにより、他の意見に左右されないように自分の思っていることを記入させる。
④ グループウェアにより共通で利用する書類を提供している。

４　評価方法

完成したシートで自己評価・相互評価を行っている。協議発表は相互評価を行っている。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	課題発見の解決に必要な知識や技能を身につけ、課題研究の学習の意義や価値を理解している。	現状を把握し自発的に、具体的に課題を発見し情報を集め、整理・分析してまとめ・表現している。	主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いの良さを生かしながら積極的に参加しようとしている。

５　成果と課題

成果：グループ協議で、話し合いをまとめるより、アイディアを多く整理することができた。ＫＪ法で容易にまとめることができた。グループウェアを活用することで統一した活動ができ、データが可視化できる。

課題：コラボノートで協議内容を整理・編集した作成例が少なく、協議内容の図式化は難しい。また、入力する時間は話し合いではないため、考えつかなければ入力が進まない生徒も出てくる。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○		○	○	○		○	○	○	

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	岩手県	学校名	岩手県立水沢商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	ＰＣ、タブレット端末、スマートフォン		

１　科目名「　ビジネス情報　」
履修学年：２学年　　単位数：３単位　　履修形態：必修

２　授業概要
単元名：表計算ソフトウェアの活用
内　容：集計処理の導入
特　徴：業務を分担しての協働制作や生徒同士の意見交換を通して、情報処理で学んだ関数の確認、集計処理の導入として「Microsoft Teams」を活用した。

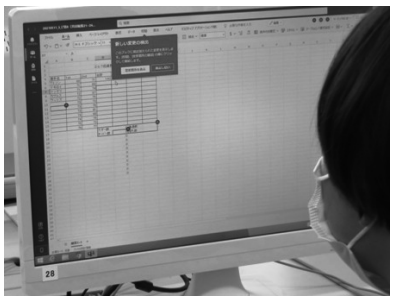
３　授業実施上の工夫
「Microsoft Teams」を活用し、生徒が個々にオンライン上でのExcelファイルの共同編集を行った。作業をするにあたり、オンラインでの業務分担だけでなく進捗状況に応じた業務分担の再構築など、グループ内でコミュニケーションを図りながら、効率的に学習を進めるよう指示をした。授業後も家庭でＰＣやタブレット、スマートフォンを用いて学習の振り返りを行わせた。

４　評価方法
オンライン共同編集では、誰がどのセルをどのように編集したか変更箇所が詳細に記録されるため、グループでの協働活動（コミュニケーション）だけでなく、変更履歴より個人の理解なども詳細に評価した。

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	Ａ：効率良い制作のための関数の利用ができる。（複合参照など） Ｂ：それぞれの関数を利用できる。 Ｃ：関数が利用できない。	Ａ：処理条件から正しい数式を考え、解答に至った理由を他者に説明できる。 Ｂ：処理条件から数式を考え、説明する。 Ｃ：処理条件から数式を考えている。	Ａ：不明な箇所は教科書等を活用し他者と協働しながら、解決しようとする。 Ｂ：分からないところは教科書等を活用しながら、解決しようとする。 Ｃ：解決する努力をしない。

５　成果と課題

成果　生徒からは前向きな感想が多く、主体的に学習に取り組む態度を育むことができた。また、ＩＣＴを活用した共同編集により、グループでの活動だけでなく、個別の評価も効果的に行うことができた。



課題　個別の理解度に関する評価をする際、すべての変更箇所の確認にかなりの時間を要するため、取り組みを継続する場合には、評価シートを活用し、生徒による相互評価を行うなど、効率的に進めていく必要がある。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○								○	

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	岩手県	学校名	岩手県立北上翔南高等学校
授業で活用しているICT機器など	パソコン（インターネット活用、表計算ソフト）		

１　科目名「　電子商取引　」
履修クラス：３年１組（情報系列）単位数：２単位、履修形態：選択

２　授業概要
「電子商取引」の中の「コンテンツの制作」の単元において、統計グラフの要素を取り入れ、基本図形の取り込みやイラストの編集、データの収集や分析を行い、問題解決能力を育てる取組を行っている。統計グラフのテーマは自由とし、基本的にＷｅｂサイトからデータを収集する。４～５人のグループに分かれて、ブレーンストーミングを実施し、収集・分析・統計的問題解決を行う。

３　授業実施上の工夫
表計算ソフトウェアを使用して表やグラフの作成方法について指導した。Ｗｅｂサイトからデータを収集・整理させ、目的に応じた適切なグラフが作成できるように、グラフの種類や用途についても指導した。キャッチコピーやデザイン、イラスト等を加えて、集めた情報を見る人たちに伝わるように工夫させた。作成後、その問題と解決するための提案についてプレゼンテーションを行った。

４　評価方法
グループ内での役割分担や作業の進捗状況を常に把握し、時間ごとに５段階の評価を行い集計し評価を行った。発表の際は生徒ごとに相互評価をさせ、授業の評価に組み入れている。

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	情報を効果的に伝えるための基礎知識や分析、制作、発表の手法を身につけている。 図形や静止画を利用した情報発信に必要な機器やソフトウェアの利用ができる。	目的に応じた機器やソフトウェアを選択して利用したり、見る側の立場でデザインを工夫して加工するとともに、分かりやすい情報発信ができる。	情報通信技術を活用しようとする意欲を持って、作成に必要な知識や技能を積極的に学ぼうとしている。

５　成果と課題
テーマ決定にかかる時間がグループにより差が出るため、均一のテーマで作成し、グループ発表後に順位を付けた方が評価しやすいと感じた。授業時間内での作成が間に合わず放課後等を使ってポスターを完成させるグループが多く見られた。
プレゼンテーションの際は、見ている生徒に評価用紙を配布し、良かった点や改善点を記入させ、発表グループに渡し、各グループが整理して振り返ることができるよう工夫を行った。
統計グラフの実習について、非常に積極的に取り組んでいた。生徒の自己評価も高く、いろいろなテーマについて様々な表現をお互いに確認できたことは、問題解決能力を養うにあたり有効な手段ではないかと感じた。今後の指導も継続して行いたいと思う。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○		○	○	○		○	○	○	

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	宮城県	学校名	仙台市立仙台商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	PC・タブレット・プロジェクターなど		

１　科目名「簿記」・「財務会計Ｉ」など
・「簿記」（１年生）４単位　２クラス同時並行、教員３名体制で指導（習熟度別学習）
・「財務会計Ｉ」（２年生）３単位　TT（習熟度別学習）

２　授業概要
〇単元名・内容・特色又は学習指導計画などについて
・年間を通して簿記や財務会計などの授業で、適宜ICTを利用し授業を行っている。
〇オンライン授業やICTを活用した事前学習や事後学習について
・事後学習においては、Googleフォームを利用して、授業内容の定着確認を行うためにアンケートの実施、小テストを行っている。

３　授業実施上の工夫
〇ICTの活用状況や工夫している点について
・本校では、全ての普通教室にプロジェクターを導入し、全職員がパソコンを利用した授業が展開できるように整備を行った。
・Googleドライブを活用して、簿記や財務会計で使用する共通教材を共有ドライブに保存し、適宜各教員が共通教材ファイルを利用できるようにしている。このことにより、生徒に対して指導内容の共通化を図ることが実現でき、教材内容による指導格差が最小限になるように工夫している。
・簿記の導入授業は、大会場を利用して学年全体でオリエンテーション的に行った。
・簿記のリーダー教員が、タブレットを使用し、デジタル教材を利用しながら、簿記の授業に興味がわくような意識付けを行った。
・授業内容の定着を確認するにあたり、定期的に学年全体で確認授業を行い、生徒たちに対して指導の標準化をできる限り行えるような工夫を行った。
・授業内容によっては、グループで学習を行い、共同で考える授業を行ったケースもある。

４　評価方法
〇評価方法や評価について工夫している点
・現在、評価などについて、工夫している点は特にありません。
※以下の内容が、簿記の観点別評価の評価規準である。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・簿記に関する基礎的･基本的な知識を身に付け，その基本的なしくみについて理解している。 ・簿記に関する基礎的･基本的な技術を身に付け，適正な会計処理を行うことを合理的に計画し，その技術を適切に活用している。	・適正な会計処理を行うことを目指して思考を深め，基礎的･基本的な知識と技術をもとに，ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し，表現する創造的な能力を身に付けている。	・簿記について関心を持ち適正な会計処理を行うことを目指して主体的に取り組もうとするとともに，会計処理を行う実践的な態度を身に付けている。

５　成果と課題
・ICTを活用した実践事例として上記の内容を挙げたが、本校ではPCやプロジェクターなどの整備、導入はなされているものの、情報や技術の有効活用をいった側面では、まだまだICTを実現した授業実践まできていないのが現実です。今後、学校全体でICTの活用方法を検討していきたい。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○						○			

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	宮城県	学校名	宮城県大河原商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	iPad（2人に1台），Apple pencil（2人に1本）AppleTV（1台），プロジェクター（1台）		

１　科目名「広告と販売促進」

履修学年：第3学年　単位数：2単位　履修形態：必修

２　授業概要

単元名：第2章　広告　2節　広告計画の手順と内容

内　容：実際の広告を取り上げ，広告コンセプトの背景やそれに伴う社会の反応や反響を推測した。さらに，広告コンセプトを踏まえて，他社の類似する広告コンセプトはどのよう表現方法をとっているかの分析や，自分たちならどのような広告を作成するか思案した。

その他：本時に使用するスライド(資料)を，Google Classroom で事前に配信し予習を行った。なお，事前に提示した広告は授業とは別のものを使用し，授業で行う流れをイメージさせた。授業後，各生徒の授業に関するアンケートを実施し次の授業の導入につなげた。

３　授業実施上の工夫

使用したサービス：旧 G-Suite for Education より（Google Classroom，Jamboard，Google Drive）

［ＩＣＴ活用事例］

・Jamboard（旧 G-Suite for Education より）

オンライン上で編集・閲覧しているため，各グループの活動状況をリアルタイムで把握しながら，面白い考えや発想についてはスクリーンに映し出して発問することで，話し合いの活発化をスムーズに行うことができた。（教員側）

生徒が自分たちのグループの意見だけではなく，その場にいながら他の班の意見を閲覧して参考にしたり，インターネットで調べて話し合いを深めたりと，今までのグループ活動では到達しにくい段階まで活動レベルを引き上げることができた。（生徒側）

４　評価方法

・評価材料：各グループの Jamboard，授業後のアンケート

［Jamboard の評価について］

・各生徒が事前に自分が使用するペンの色を決め，その色を使って記入させることで，どの生徒の意見かを把握しやすくした。事前に Jamboard のテンプレートを作成し生徒に記入させることで，目的に沿った意見を書けているかを評価した。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	今までの授業内容の知識を生かして事例の広告を捉えられているか。	ボード毎に，テーマに沿った意見を発案できているか。	自分の意見としてボードに記入したり，グループの意見を踏まえたりしているか。

５　成果と課題

成果：生徒が受け身の姿勢で受講せず，ICT を活用し主体的に授業に取り組む形を作ることができた。今回のテーマ自体が答えのないものであったが，グループごとに話し合い自分たちにとっての答えを導き出せたことが広告に関する理解をより一層深めることにつながったとの声が，授業後に生徒から挙がっていた。

課題：ファシリテーターとしての技量や資質が不十分であった。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
		○	○		○	○	○		

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	秋田県	学校名	秋田県立大館国際情報学院高等学校
授業で活用しているICT機器など	電子黒板、スライド		

１　科目名「課題研究」

２年３単位選択

２　授業概要

ＦＰについて学習（相続と事業承継）しているが、教科書がないため、学習内容をスライドにまとめている。

３　授業実施上の工夫

具体例や例題について電子黒板を活用し、特に重要なことは板書している。スライドをそのまま印刷して配布することも可能だが、生徒の理解度を高めるために、自らノートにまとめる作業をさせている。

４　評価方法

全体として明確にできていない。観点別についてはこの科目では以下のように考えている。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	相続・事業承継に関する要点を理解している。	相続税や贈与税の計算に関して親族関係図や他の資料を活用して納付額を求める。	スライドの内容を自分なりにわかりやすく、ノートにまとめている。

５　成果と課題

成果としては、電子黒板を用いることで相続や贈与の際の親族関係図や他の資料を、その都度、板書する必要がないため、様々なパターンを生徒に示すことができる。

課題としては、欠席した生徒に対して、スライドデータを配布して授業の遅れを取り戻させたいが、まだタブレットが配付されていない。

また、電子黒板を中心に、様々な機器と連携して活用していきたいが、機材が納入されたばかりで、システムとしての構築・運用がこれからの課題であり、現段階ではこのような使い方である。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○			○			○	○		

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	秋田県	学校名	秋田市立秋田商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	ＰＣ・プロジェクター・ｉＰａｄ		

１　科目名「財務会計Ｉ」

履修学年：２年　　単位数：４単位　　履修形態：必修

２　授業概要

「連結財務諸表の作成」

親会社・子会社などから形成される企業集団の財政状態と経営成績を総合的に報告するための連結精算表、Ｂ／Ｓ、Ｐ／Ｌなどを作成する。

連結会計の基礎・支配獲得日における処理：1時間

連結１年目の処理：2時間

連結２年目の処理：2時間

連結財務諸表の作成：3時間

３　授業実施上の工夫

授業の内容が生徒にとってわかりにくいためPower Pointを活用し、説明を行う。Power Pointに沿った授業プリントを生徒に配布し、わかりやすくかつ効率よく生徒に内容を説明する。

問題演習を行う際にiPadを活用する。あらかじめiPad内に授業で使う問題をスキャンし、PDF形式でGood Notesアプリ内に保存しておく。その画面を投影し、様々なアプリ内の機能を使い、色などを工夫しながら解答やメモを書き込んでいく。

４　評価方法

Power Pointに投影されている説明と教師の説明を上手にプリントへまとめることができているか。

iPad で映した問題の解法を参考に自分なりの解き方を考えることができているかなど、ICT を活用した結果、生徒がどのように取り組んでいるかを重視している。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	連結修正仕訳等、財務諸表作成に必要なスキルを身につけ、正確な連結財務諸表を作成できる。	なぜその連結修正仕訳が必要なのかを考え、自分の考えを周りの人に説明することができる。	教師の話とPower pointの説明等をよく聞き、他者と協力しながら、自分に必要な情報をまとめることができる

５　成果と課題

・成果

生徒と同じプリントに書き込むため、生徒も大事なところやメモすべきところが正確に判断でき、多くの色や機能を使用することができるため、比較的わかりやすく授業することができている。また、Power Pointで説明を行っているので板書の時間が削減され、時間効率の良い授業展開となっている。

・課題

まだまだ教員からの教材提示のみに特化した授業になっているため、定期考査までの生徒の理解度を測ることが困難である。また、iPadに直接書き込む際に文字の大きさ等後ろの生徒への配慮がかなり必要になる。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○									

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	山形県	学校名	山形市立商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	学校のパソコン、生徒のスマホ、プロジェクター、ＣＡＩ		

１　科目名「　広告と販売促進　」
履修学年：２学年　単位数：２単位
履修形態：２学年総合ビジネス科「流通ビジネスコース」１クラス必修

２　授業概要
単元名：第２章２節「広告計画の手順と内容」
内容：２節の広告制作の手順などを基に校内の食堂もしくはメニューのポスターを作成する。
キャッチコピーやキービジュアルの重要性を学んだうえで、ＣＡＩやプロジェクターを利用していくつかの既存のポスターなどを見せ、最初にどこに視点がいくのか、色使いはどうか文字の大きさや印象に残る部分などについて考えさせる。その後、各自で食堂の商品（唐揚げ、サンドウィッチ、かき氷など）の写真をスマホで撮影。その画像を校内のパソコンに取り込み、ワードを使用し加工してポスターを生徒一人一人が作成する。

３　授業実施上の工夫
生徒のスマホを活用している。（所有していない場合は学校のデジカメを貸し出す）事前に食堂メニューのどの商品をポスターに取り入れるか検討させる。当日は各自でそのメニューを注文し、それを題材としてスマホで撮影をする。ただ撮るだけでなく、ポスターとして活用できるように商品をカットして中を見せたり、皿に乗せて美しく見せたり、美味しそうに食べている所を撮影したり各自で工夫している。加工アプリなどの使用は生徒に任せている。

４　評価方法
評価については、教員による評価と生徒同士の評価を実施している。取り組みから完成された作品までの部分を担当教員２名で評価している。知識や技術においては、スマホから取り込んだ写真をどのように加工しているか、色づかいやキャッチコピーを工夫しているかなどを重点的に観察している。完成されたポスターについては全て張り出して、各生徒に上位作品５点を選出させ、具体的な選出理由も記入させている。また、教員が高い評価をした作品についてはＣＡＩを活用して生徒一人一人に見せながら評価した部分を具体的に説明している。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	キャッチコピーやキービジュアルなどを活用して効果的な広告を制作する手順を理解しているか。また制作する技能を身に付けているか。	広告の目標やターゲットなどを正しく判断しているか。自分でしっかりと考え構想を練り、アイディアを表現しているか。	広告制作に対し関心を持ち、効果的な広告を制作しようとしているか。

５．成果と課題
成果：教科書で学んで得た知識を、簡単なポスター作りではあるが実際に自分自身で活用することにより、更に深く考え工夫する姿が見られる。また、他の生徒の作品を多く見ることで新たな視点を広げることができた。
課題：限られた時間数（３時間程度）で作成することもあり、もう少し時間をかけて取り組みたいと思う生徒もいる。
生徒の投票と教員の評価を踏まえ、上位１０枚を廊下や食堂に掲示している。掲示したことで利用者数は一時的には増えている。今後は、実際にどのくらいの人数が増えたのか、ポスターのどういう部分に効果があったのかなどを一般生徒にも調査していき、作成しただけで終わらせずに事後の検証を含めて学習していく必要があると考える。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○		○		○		○			

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	山形県	学校名	山本学園高等学校
授業で活用しているICT機器など	プロジェクター（電子黒板）、書画カメラ、Chromebook		

1　科目名　　ビジネス基礎（　第１学年：3単位：商業科必修　）

2　授業概要　単元名　企業活動の基礎

この単元では、経営理念や企業の社会的責任について学習をしている。日々変わりゆく現代社会の問題点に対し理解を深めることを目的とし、生徒の興味・関心がある社会問題を研究テーマとしてグループワークを行った。統一した研究テーマとしては「豊かな社会の実現」を掲げ、「10年後の未来」が目指すべき姿や自らが取り組むべきことを考え発表している。企業がどのような価値観で社会貢献活動を行うのか、多角的な視点を持ち分析・理解できるよう日々の授業でも「Society5.0」「5G」「SDGs」「地域観光（山形県）」などについて取り上げている。今回も単元の導入やまとめで再確認し、特に「SDGs」に関しては、山形県内企業・大学・自治体などの取り組み事例を具体的に紹介しながら理解を深めた。その他、企業倫理や雇用・納税、資金調達（クラウドファンディングの仕組み）などについて学習をしている。（経済産業省・経団連・山形県などのHPやYouTubeを教材として活用）

3　授業実施上の工夫

・Chromebookの活用

本校は、ひとり１台のタブレット端末（Chromebook）を所有しており、日々の授業で活用している。今回も情報収集から資料作成までを各自のChromebookで行った。今回の授業では、双方向（教員と生徒、生徒と生徒）でのデータ交換を容易にし、活発にディスカッションが出来る環境を作るため、ロイロノート（アプリ）を活用した授業計画を立て実施した。（ロイロノートでの資料作成含む）

・テーマ選定・資料作成・発表

個人とグループ、２回のテーマ設定と発表（プレゼンテーション）を行った。個人としての興味関心を掘り下げ、調べた内容を自らの言葉で主体的に発表する力をつけること。グループワークでは、アプリや機器の操作方法を互いに教え合い、企業情報などをディスカッションすることで、協調性やコミュニケーション能力を養うことを目的とした。また、プレゼンテーションを繰り返すことで、正確な内容が聞き手に伝わるよう、発表内容を何度も考え整理させ、論理的思考を身に付けさせたい。

・Formsの活用

Formsを活用し、各種アンケートを行った。事前学習として興味・関心のある山形県内企業の集計、プレゼンテーション担当グループを選ぶための授業内投票、事後指導としての授業アンケートなど。Formsは視覚的に分かりやすく、簡単に集計ができるため、様々な場面で活用している。

4　評価方法

自己評価と他者評価（他グループのプレゼンテーションを見て）をFormsにて集計した。（授業アンケートと同時配信）自己評価に関しては、事前作業からプレゼンテーションまで、いくつかの項目を設定している。プレゼンテーションに関しては、内容（資料・説明）・視覚的効果・言葉遣い（自分の言葉で表現・未来への提言など）などの評価項目を作成し、評価している。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	経営理念の社会的目的を理解し、企業の社会貢献活動を調べ、視覚的に分かりやすくまとめることができる。	社会的貢献活動に対して、多角的な視点から思考し、自らの意見を論理的に表現、伝えることができる。	企業活動に対して興味・関心を持ち、意欲的に調べることで、企業の想いを理解しようと取り組むことができる。

5　成果と課題

・成　果　　教科書の知識だけではなく、身近に起きている技術革新（5G）や現代社会の問題点（SDGs）などを知り、自分事として興味関心を持つことができた。

・課　題　　視覚的に分かりやすい資料を作るためには、PowerPoint やスライドによる資料作成を検討する必要がある。（他授業との連携を踏まえた、指導計画の立案含め）

6　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○		○	○	○	○	○	○	○	

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県	福島県	学校名	福島県立保原高等学校
授業で活用しているICT機器など	書画カメラ、教材提示モニタ、ノートＰＣ、プロジェクタ		

１　科目名　「総合実践」

学年：第３学年　　単位数：３　　履修形態：必修

２　授業概要

テキスト「ビジネス実践　起業家になろう（実教出版）」に沿って「起業」について学習したのち、「高校生ビジネスアイディアグランプリ」を参考に、個人でオリジナルビジネスプランを考案し、プレゼンテーションを行う。その後、１社４名（社長・仕入・販売・経理）でＢｔｏＣをビジネスモデルとした模擬株式会社を設立する。アマゾンや楽天のＷｅｂページに掲載してある実際の商品の中からストアコンセプトに基づいた商品を選び、電子メールで「見積依頼書」「注文書」等の書類を教師とやりとりし、商品カードを用いた模擬的な仕入を行う。販売価格を各社で設定し、ワープロソフトを活用して商品のチラシを作成した後、自分が授業内で受け取った給料で、他社の商品を購入する。弥生会計を利用した会計処理・決算を行う。

また、７月の全商ビジネスコミュニケーション検定試験の合格に向けて、課題プリントや Google Classroom を活用した家庭での問題演習を行い、ビジネスマナーについても身につけるようにしている。

３　授業実施上の工夫

１・２年次で学習した内容（ビジネス基礎・簿記・情報処理・マーケティング）を総合的に演習すると同時に、ノートＰＣでビジネスソフト（Word,Excel,PowerPoint,Access,IMailServer,ホームページビルダー）を生徒が主体的に活用する。授業内で自分が働いて手にした給料（基本給・税金・保険料は実社会の金額を元に算出）で、商品を購入する。社長・仕入・販売・経理といった役職ごとに異なる業務で仕事への責任感を認識させるとともに、ストアコンセプトの設定や開店セールやクリスマスセールに向けた話し合いや反省会などのディスカッションが必要不可欠な場面を設定し、コミュニケーションの重要性を認識させるようにしている。給与明細書・稟議書・見積依頼書・電子メール送付文など、実社会の書式を利用している。

４　評価方法

定期考査、営業日誌、服装・頭髪・執務状況、提出物、プレゼンテーション

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	ビジネスマナーを身につけている。ビジネス文書を正確に作成できる。	オリジナルビジネスプランを創造し、聞き手に立ったプレゼンテーションを行える。	ＩＣＴツールを積極的に活用している。社内のディスカッションに主体的に参加している。

５　成果と課題

（成果）電子メールを利用したビジネス文書のやりとりは、これまで学習したことがなく、実社会に繋がる演習であった。Word での各社趣向を凝らした広告作成や PowerPoint でのビジネスプランのプレゼンテーションでは、社員の話し合いによってまとめた内容を表現するツールとして活用することができた。また、全商ビジネスコミュニケーション検定試験に向けた学習に GoogleClassroom を取り入れて、家庭学習を主軸に置いた取り組みは、家庭学習の定着や問題演習、反転授業といった新たな可能性に繋がるものであった。

（課題）アクティブラーニングを取り入れた学習への効果的なＩＣＴ活用を今後さらに検討していきたい。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○		○		○	○	○	○		

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	茨城県	学校名	茨城県立水戸商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	iPad アプリ（Good Notes）		

1　科目名「　簿記　」　　履修学年　１年　　単位数　　４単位　　履修形態　必修

2　授業概要

単元名　　第５章「仕訳帳と総勘定元帳」　第６章「試算表」

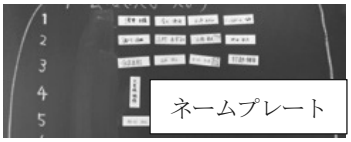
内容　　①基本的な知識を身につける場面では、大型スクリーンへ iPad 画面の投影を行う一斉授業。
②問題演習では、個別学習及びグループ学習において発表の場合は iPad にて生徒に記入させる。
③記帳する際の注意点等を iPad の画面を大型スクリーンで共有し、生徒個人に発表させる。
④生徒の進捗状況を黒板にネームプレートを添付させて把握する。

学習指導計画　　１年時　日商簿記３級　　２年時　全商簿記１級・日商簿記２級

特色　　毎時間 iPad と大型モニターを利用し、板書時間の短縮をする。
つまずき箇所を写真に撮り、大型スクリーンに投影し、全体説明にリアルタイムに利用する。

オンライン授業　　欠席者に向けての ZOOM の画面共有を利用した授業展開。

事後学習　　Google フォームを利用し、振り返りを記入。

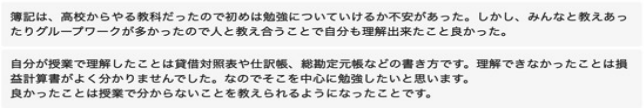

ネームプレート

3　授業実施上の工夫

ICT 活用状況　　iPad 画面の大型モニターへの投影
ZOOM を利用したオンライ授業

工夫した点　　机間巡視中にも気づいたことがあれば、その場でモニターに投影し解決させる。
生徒個人やグループで疑問に思ったことを、その場でモニターに投影し共有する。
全体へ解答を伝える場合は、生徒に iPad を渡し直接記入させる。
iPad 上の入力データは、全てデータで出力が可能なので、欠席者や復習をする生徒に向けて Google クラスルームへ配布しスタディ・ログとする。

生徒の振り返りコメント


簿記は、高校からやる教科だったので初めは勉強についていけるか不安があった。しかし、みんなと教えあったりグループワークが多かったので人と教え合うことで自分も理解出来たこと良かった。

自分が授業で理解したことは貸借対照表や仕訳帳、総勘定元帳などの書き方です。理解できなかったことは損益計算書がよく分かりませんでした。なのでそこを中心に勉強したいと思います。
良かったことは授業で分からないことを教えられるようになったことです。

4　評価方法

黒板へのネームプレートの添付、Google フォームを利用し振り返りの記入、テストの点数等

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	簿記の原理について理解するとともに、関連する技術を身につけている。 （テスト等）	取引を記録することと決算の意義について、企業活動の展開と関連づけて課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を身につけている。（振り返り等）	簿記の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 （黒板へのネームプレートの貼り付け等）

5　成果と課題

成果　ICT を活用することで、リアルタイムなつまずきを拾い全員で共有し、学びを深めることができる。前回の復習もデータとして残っているので、前回とのつながりを意識しやすい。

課題　生徒たちが無料で利用できるＰＤＦに直接書き込めるようなアプリの提供等があれば、先生方の課題提出から課題回収もさらにしやすくなると思う。一人一台の端末が揃えば、ミラーリングを利用し発表する生徒の画面を投影し自分自身でまとめたものを発表する視覚効果を利用してみたい。

6　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○	○					○	○		

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	茨城県	学校名	茨城県立土浦第三高等学校
授業で活用しているICT機器など	電子黒板・タブレットPC		

１　科目名「　財務会計Ｉ　」

履修学年：２学年　　単位数：４単位　履修形態：必修

２　授業概要

単　元　名：第６章流動資産　（PART2　棚卸資産・その他の流動資産 ）
学 習 計 画：１時限　全体像の把握及び商品有高帳作成について
２時限　棚卸資産の期末評価の概要（ 本時 ）
３時限　棚卸資産の期末評価と損益計算書の作成
内容及び特色：処理が複雑になるため仕訳と処理結果がどのように決算書に表示されるのかを理解させること。

３　授業実施上の工夫

仕訳の処理がどのように決算書に反映されるのかを理解しやすく説明するために自作ノートを活用しながら処理を３つの段階に細分化した。Step1 においては、繰越商品及び売上原価の計算を行うことを復習し Step2 では商品評価損及び棚卸減耗損の計上を行う必要性と処理の行い方を説明した。また、売上原価に反映させる場合のみ Step3 の処理を行うことを伝え一連の処理の流れを理解させた。その後、数値を変更した問題を解くことで、処理が行えるのかを確認した。

口頭だけではどの数値を伝えているのかが分かりづらいため、タブレット PC に自作ノートを表示させその内容を電子黒板に投影させながら説明を行った。また、全てを電子黒板で対応してしまうと後ろの生徒には見えづらく全体に共有することが出来ないため、重要な計算や仕訳についてはすべて黒板に記載し全員が見えやすいように工夫を行った。

《授業風景》

４　評価方法

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	財務諸表の作成に関する基礎的･基本的な知識を身につけ，財務会計の意義や制度について理解している。	様々な処理法や記帳法，財務諸表の作成方法について，なぜ，そのように行うのかなど自ら思考を深め，基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し，創意工夫する能力を身につけている。	財務会計に関心を持ち，その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに，ビジネスの諸活動を計数的に把握する実践的な態度を身につけている。

５　成果と課題

ICT 活用をする上では投影をすることで理解度促進を目指して活動をしている。成果として今やっていることを映像で伝えることで理解度が向上された。しかし、ICT を通して双方向での活動はできていないため、今後は活用方法をさらに研究していきたいと考えている。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○			○	○					

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	栃木県	学校名	栃木県立宇都宮商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	コンピュータ・タブレット		

1　科目名「プログラミング」

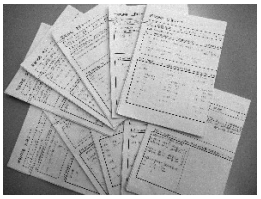
履修学年：情報処理科　１年生（80名）　　単位数：５単位（必修）

本校情報処理科で学んだ生徒が、「将来スペシャリストとして地域産業界の活性化を担うことができる人材」の育成を目指している。そのため授業では実習に多くの時間をかけ、実務を意識させた考え方をとおして問題発見・課題解決の機会を与えている。データについてその構造と意味を学び、処理や分析結果を考えさせるアプローチを実践している。

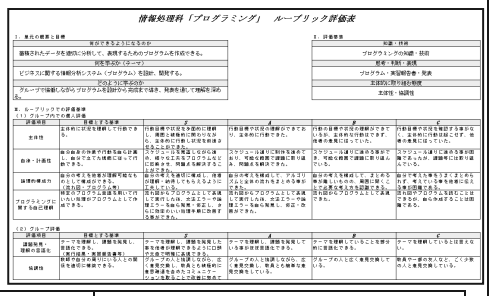
2　授業概要

○自宅でJavaプログラミングの予習や復習ができるように、Progateを活用（Webラーニング）
○家庭での実習環境（Eclipse）の構築
○日常や実務でのデータ処理を意識させるため、全商情報処理検定プログラミング部門１・２級のJavaプログラムと検証用データを作成させることで、データ構造やデータが持つ意味を考察
○実習ごとの個人レポート作成
○気象庁のホームページより過去の気象情報をダウンロードし、分析（集計と予測）の協同作成
○タブレットを用いて処理内容と分析結果等の発表

3　授業実施上の工夫



○下記を改善するためにグループワークを実施
　・レポートに書かれた疑問点や未だ理解できていない点
　・アルゴリズムの工夫（効率性向上）
○グループ検討後に全体を通して情報共有
○学科としての継続的な学習到達目標を設定
　・２年次：データベースの設計と実装
　・３年次：Javaとデータベースの連携



情報処理科「プログラミング」　ルーブリック評価表

1．単元の概要と目標

単元でできるようになるもの
提供されたデータを適切に分析して、表現するためのプログラムを作成できる。
対応学習のテーマ
ビジネスに関する情報分析システム（プログラム）を設計、開発する。
プロとしに求められる
グループで協働しながら、プログラムを設計から完成まで諸手、発表を通して機能を深める。

2．評価要素

知識・技術
プログラミングの知識・技術
思考・判断・表現
プログラム・実装解答書・発表
主体的に取り組む態度
主体性・協調性

3．ルーブリックでの評価要件

（1）グループ内での個人評価

評価項目	目標とする要求				
主体性	主体的に目的を理解して行動できる。	行動目標や目的を全体的に理解し、課題と終始的に関わりながら、主体的に行動し目的を達成する。	行動目標や目的の理解ができており、主体的に行動できた。	行動の目標や目的の理解はできているが、主体的な行動はできず、他者の指示に従っていた。	行動目標や目的を確認する事がないため、主体的に行動はこなせず、他者の指示に従っていた。
自律・計画性	自分自身で作業の行動を組む計画し、自分でまとめ作成に従って行動できる。	自分自身で作業の行動を組む計画し、自分でまとめ作成に従って行動できる。	コラリーは自己の行動を決めており、可能な範囲で課題に取り組み、問題を解決できた。	コラリーは自己の行動を決めており、可能な範囲で課題に取り組んでいた。	コラリーは自己の行動を決めず、可能な範囲で課題に取り組んでいる。
論理的構成力	論理的に考えることができ、問題の解決、納得してもらえるように説明できる。	論理的に考えることができ、問題の解決、納得してもらえるように説明できる。	論理的に考えることができ、コリ問題の解決に対する考えを示すことができた。	論理的に考えることができ、コリ問題の解決に対する考えを示すことができた。	論理的に考えることができ、コリ問題の解決に対する考えを示すことができた。
プログラミングに関する自己理解	適切なプログラムを選択して作成できる。	適切なプログラムを選択して作成できる。	適切なプログラムとして表現して誤りもなく、かつエラーや論理エラーなく処理、修正しかつ効率的な処理を考慮して表示できた。	適切なプログラムとして表現して誤りもなく、かつエラーや論理エラーなく処理、修正・改修ができた。	適切なプログラムとして表現できたが、エラーや論理エラーなく処理、修正・改修ができた。

（2）グループ評価

評価項目	目標とする要求				
課題発見・理解の協議を	テーマを理解し、課題を発見し、提議できる。	テーマを理解し、課題を発見して解決理解が理解できるように口頭や文章で明確に表現できる。	テーマを理解し、課題を発見している事が提議提議はできる。	テーマを理解していることを提示的に提議できる。	テーマを理解していることは提議はない。
協調性	相手の話を傾聴しながら、人との関係を協同に構築できる。	相手の話を傾聴しながら、人との関係を協同に構築できる。	コミュニケーションを取ることで、全員で共同作業をしている。	グループの人と近くで意見交換している。	教員で一番の友だちと、ごく少数の人と意見交換している。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	流れ図をプログラムに置き換えて実行し、エラーなく実行させることができる	プログラムやデータの意味を考え、適切に分析して発表することができる	テーマを理解し、課題を発見し、グループ内において自己表現を行うことができる

4　評価方法

○Progateの進捗状況
○プログラムの実行結果と実習ごとのレポート
○小テスト、定期テスト、ルーブリックによる評価

5　成果と課題

【成果】生徒はグループワークでの協同作業とプログラム実行の PDCA をとおして、知識・理解が深まり、プレゼンテーションにより表現力が向上した。教師は、生徒の深い学びへのアプローチが行え、教科間のつながり（カリキュラムマネジメントの推進）の重要性が理解できた。

【課題】ICT機器やインターネット接続などの家庭環境により、全員が同様に実施することができなかった。今後は配備されたタブレット等の活用により改善する。

6　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○	○			○	○	○	○	○	

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	群馬県	学校名	群馬県立伊勢崎商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	本校実習室デスクトップパソコン、県貸与ブック型パソコン(ChromeBook)、生徒各自所有の携帯型通信端末(ｽﾏｰﾄﾌｫﾝ)		

１　科目名「プログラミング」

履修学年：第３学年、単位数：３単位、履修形態：必修選択

２　授業概要

クラウドIDEを活用したプログラミング学習及び作品制作。
JavaScriptとHTML5という動的Ｗｅｂページ作成する技術を用いてスマホアプリの開発を目指す。

３　授業実施上の工夫

ブック型パソコンでＷｅｂに公開されている動画コンテンツを視聴させながら、デスクトップパソコンでプログラミング実習を行っていくことで、各自のペースで学習を進めることができる。また、サンプルコンテンツや連携サービスを参照することで、アプリ開発への興味関心を持たせることができる。

４　評価方法

クラウドサービスを活用し、毎時間ごとに授業日報を送信させ、各自の進歩状況などを把握する。
実習課題が終了ごとにクラウドサービスを活用した小テストを行い、理解度の把握に用いている。
作成したスマホアプリについてプレゼンテーションを行い、生徒による相互評価を行う。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	スマホアプリにおけるユーザインタフェースの設計の手順、コンテンツの処理に関する技術を身に付け、その技術を適切に活用している。	使いやすいスマホアプリを作成するための技法について思考を深め､知識と技術を基に適切に判断し、表現している。 コンテンツの処理について思考を深め､プログラムを作成するための知識と技術を基に、適切に判断し､プログラムとして表現している。	スマホアプリの作成について関心を持ち、必要なユーザインタフェースの設計について探究しようとしている。 コンテンツの表記技法について関心を持ち、その技法について自らすすんで取り組もうとしている。

５　成果と課題

今年度より始めた取り組みであり、作品としての成果物は今後である。生徒の取り組み状況は、２年時にアルゴリズムについて学習しているため、スムーズに実習に取り組んでおり強い関心を持って取り組んでいる。
今年度の生徒は、２年時に資格取得などの目標を達成しており、意欲や関心が高い状況で導入することができている。今後は、２年間継続したプログラミング学習としていくことが課題である。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
	○	○	○	○	○				

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	群馬県	学校名	群馬県立高崎商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	※ChromeBook　プロジェクタ		

１　科目名

２年情報ビジネス科「ビジネス情報」３単位（必修）

２　授業概要

NIE（News　Paper　In　Education）の一環として新聞記事を読み、ブレーンストーミングを行い、新しいビジネスを考案する授業を行った。Google 社のアプリケーション「Jamboard」と「スプレッドシート」の共同編集機能を活用しブレーンストーミングを行った。

３　授業実施上の工夫

グループ（1 班４～６人）に分かれ、JamBoard とスプレッドシートを活用した授業を行った。シートをグループ毎に作成したスプレッドシートで共同編集を行った。これにより他のグループがどこまで進捗しているかを確認しながら進めることができた。また進捗状況を自由に確認することにより発表せずとも全てのグループの意見を取り入れたブレーンストーミングを行うことができた。また順番に意見を言う必要が無く、思いついたままに記述を進めることによって多くの意見を集めることができた。
スプレッドシートは２ファイル作成し、グループ作業用と個人作業用にわけ提出をすることによって、グループで話した内容を自分自身でいかに発展させるかを確認した。

４　評価方法

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	ブレーンストーミングのルールを理解し活用できる。	ブレーンストーミングで集めた意見から新しいビジネスを考案できる。	ブレーンストーミングにおいて４つ以上の意見を出せる。

５　成果と課題

成果として共同編集機能の活用により、クラスメイトが何をしているのかリアルタイムで知ることができ、ブレーンストーミングを有効に進めることができた。
課題として全員の共同作業では雑然としてしまい、入力係の設定や人数制限を設ける必要があると感じた。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○	○		○			○	○		

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	埼玉県	学校名	埼玉県立浦和商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	パソコン、タブレット、プロジェクター、アプリ（クリッカー、電子黒板、グループウエア）		

１　科目名「ビジネス基礎」

○履修学年：１学年　　○単位数：２単位　　○履修形態：必履修

２　授業概要

知識伝達型講義（一斉授業）において、教員の一方通行的な授業とならないように、教員と生徒、あるいは生徒同士の相互通行が行われるように工夫している。このことにより、授業を教授パラダイムから学習パラダイムへと転換し、生徒に学びに向かう力を涵養する。

例えば、パソコンとプロジェクターを利用することで黒板の記入時間を節約し、その間、個別最適な学びを促す机間指導を行う。また、生徒が記載したノートや問題集などをタブレット等で撮影し、電子黒板アプリで黒板に投影することで、クラス全体で知識を共有する。

さらに、授業をモジュール化し、１モジュールの知識伝達終了後、オンライン上で小テストを実施する。生徒はＢＹＯＤ端末から解答することで主体的に学ぶ姿勢を育める。教員は解答を即座に集計し表示することで、生徒の理解度をタイムリーに評価し次の指導に生かす、指導と評価の一体化を推進する。

また、ＢＹＯＤ端末を通じて、生徒にＲ８０※1やＰＲＥＰ※2で短文解答させる問題を課すことで、思考力・判断力・表現力を育成する。さらに、他の生徒の短文解答を黒板に表示することで、知識の共有・統合を図ることができる。

※1　Ｒ８０　「アール・エイティ」と読む。２文を接続詞でつなぎ８０文字以内で表現することで、論理力を育成できるツール。進学・就職の際の面接指導にも生かせる。

※2　ＰＲＥＰ　「プレップ」と読む。Point（主張・考え）、Reason（理由・根拠）、Evidence（例・証拠）、Point（１文目とは違った切り口の主張・考え）の４文を１６０字以内で表現することで、Ｒ８０よりもより長文的な論理力を育成できるツール。進学・就職の際の小論文対策にも生かせる。

加えて、グループウエアを活用することで、コロナ禍においても、生徒がＩＣＴを通じて主体的・対話的で深い学びを進めることができ、主体的・多様性・協働性等の涵養を図ることができる。

３　授業実施上の工夫

校長が、無料でかつ操作が簡単なアプリを紹介することで、教員が容易にＩＣＴをつかった授業を展開できるよう工夫をしている。また、教員が作成したＩＣＴをつかった学習教材をグループウエアの「教材ルーム」に蓄積し、誰でも利用できるようにしている。「教材ルーム」は全教科の教員が利用するので、教員に教科等横断的な視点が生まれる。

４　評価方法

ＢＹＯＤ端末をつかって生徒が解答するので、サーバ上に生徒の解答が蓄積され、ポートフォリオ評価の実施につながる。学習者主体の授業の実施によって生徒主体の学びの比重が高くなるので、教員は評価者として生徒の取組状況を観察する時間が生まれ、パフォーマンス評価の実施にもつながる。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	文章や発言等で文脈的に使用できるようになっている。	他者の発言や文章等を整理して理解し、自分の考えを筋道立てて説明できる。	自分の学びを調整することに粘り強く取り組むとともに、実施前後で変容を見取れる。

５　成果と課題

成果としては、生徒の主体的な学びが引き出せることが挙げられる。課題としては、教員によってＩＣＴのスキル差があるので、ＩＣＴスキルをまんべんなく向上させる必要がある。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○	○		○			○	○		

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	埼玉県	学校名	埼玉県立大宮商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	プロジェクター、パソコン、（個々の生徒の）スマートフォン		

１　科目名「簿記」

１年次必修科目　４単位。対象クラスは男子１５名、女子２５名の計４０名。

２　授業概要

（１）単元「為替手形」「為替手形の記帳」

本単元で知識構成型ジグソー法による協調学習を実施した。授業導入部分及び為替手形取引における「振出人」「支払人」「受取人」のそれぞれのエキスパート資料を自作の動画で学ばせた。作成した動画は各生徒のスマートフォンから視聴できるようにした（本校の会員専用ホームページにログインしてからYouTubeにリンクする形をとった。これ以降の本事例もすべてここからリンクしている）。

（２）単元「財産法による純損益の計算」（全商簿記実務検定試験３級の解法解説）

計算に関する問題の解法が説明されている動画を複数用意し、個々の生徒の理解度に応じて必要な動画を選択させて自由に視聴して学ばせる形式の授業を実施した。以下が該当時間のおおまかな流れである。なお、本時は「発話・対話を用いて生徒同士で教え合いながら進めてもよい」という話をしたうえで実施した。

●財産法を用いた計算問題「A」の解説を視聴する。

→内容が理解できた生徒は、自力で別の問題「B」や「C（応用的問題）」に挑戦する。

●上記の動画で問題「A」が理解できなかった生徒は、❶問題「A」の解説動画を再視聴する　❷問題「A」を別の解き方（違う考え方）で解説した動画を視聴する　の中から最善の学習方法を選択し、問題「A」が理解できるまで挑戦する。内容が理解できたら、別の問題「B」、「C」に挑戦する。

●問題「B」についても解説動画が用意してあり、必要に応じて視聴したい生徒は自由に視聴する。

（３）単元「有価証券の取引」「固定資産の取引」

これらの単元前に反転学習を導入した。反転学習用の教材として、自作の動画を用意した。

３　授業実施上の工夫

動画の視聴だけでは理解しきれない生徒も中にはいるため、常に机間巡視をして個別対応が必要な生徒には適宜対応することを心掛けた。また、反転学習時はGoogle ClassroomのFormを応用して、動画の視聴をしたかどうかのチェック（アンケート回答）を実施した。

４　評価方法

観点	知識･技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	単元の内容が正しく習得できていて、その背景や流れについて文章や発語で具体的に説明ができる	問題や課題を解決する中で、自分の考えが形成でき、かつ他人と協働しながら多様な考えを理解しようとしている	よりよく学ぼうとする姿勢が見られ、動画ツールを活用して自身に適した最善の学習ができている

５　成果と課題

各自のスマートフォンから自由に視聴できるようにしたことにより、同じ動画（解説）を繰り返し見ることが可能なことや、自分のペースでの学習がしやすい等の理由から、生徒からの評判は概ね好評であった。解説画面をスクリーンショットして画像として保存し学習に役立てている生徒もおり、「学習の幅が広がった」と喜んでいた生徒もいた。ただ、配布プリントの作成に加え、動画の作成や編集といった作業にもそれなりの時間がかかるため、実施の機会が限られてしまうことが課題である。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○	○					○	○		

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	千葉県	学校名	千葉県立千葉商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	パソコン・プロジェクター・実物投影機		

1　科目名「簿記」　　第１学年（商業科・情報処理科くくり募集）、５単位、必修科目。

2　授　業　概　要　　商品有高帳（先入先出法、移動平均法の意味と記帳方法、払出単価の決め方について理解する。）

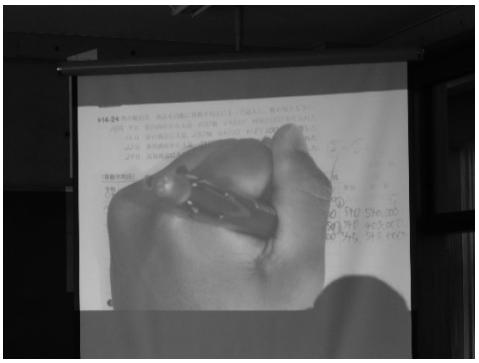
3　授業実施上の工夫　　授業時間を確保するため、板書に時間を要する単元で活用している。パソコンやプロジェクター（実物投影機）等、様々なＩＣＴ機器の活用を試みている。

パソコンの活用例（Microsoft Excel を利用）
（先入先出法の指導）

（移動平均法の指導）

プロジェクター（実物投影機）の活用例
（先入先出法の指導）

（移動平均法の指導）



4　評価方法
「商品有高帳」の記帳に関する基礎的・基本的な知識・技術を身に付けているか、授業内では机間巡視(指導)で、授業の終了時には問題集、自作プリントを回収し、理解の到達度を確認し評価する。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	商品有高帳に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、その基本的な仕組みについて理解している。	適正な記帳を行うことを目指して思考を深め、適正に判断し､表現する創造的な能力を身に付けている。	適正な記帳を行うことを目指して主体的に取り組もうとするとともに、記帳を行う実践的な態度を身に付けている。

5　成果と課題
授業時間の確保については、成果と考えられる。課題は、すべての教員にＩＣＴ機器が行きわたっていないため、活用したくてもできない教員がいる。従来の指導方法で板書に時間を割いている。

6　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○									

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	千葉	学校名	千葉県立千葉商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	デスクトップPC(生徒用)，タブレット(教員用)，Webカメラ，イヤフォン		

１　科目名「ビジネス情報」

２学年４単位で実施している。情報処理科に設置されている情報ビジネスコース及び情報システムコースの必修科目。

２　授業概要

第３節　表計算ソフトウェアによる開発　３項システムの作成

実社会での利用を想定した請求書や売上管理，労務管理を円滑に行うためのテンプレートとなるＥｘｃｅｌファイルを作成する。令和２年度は具体的な事例をもとに下記の処理について，学習した。

・半角全角が混在しているデータの統一（ASC，JIS）・POSシステムのデータ利用・名前の定義
・エラー値を無視して集計（AGGREGATE）・電話番号及び郵便番号におけるハイフンの挿入（REPLACE）
・英字の大文字，小文字，先頭のみ大文字等の表記の統一（UPPER，LOWER，PROPER）
・ウィンドウ枠の固定　・氏名等における不要な空白の削除（TRIM）・重複データの削除
・テンプレートファイルの作成・年齢および勤続年数の算出（DATEDIF）・ふりがなの表示（PHONETIC）
・ブックのパスワード設定・シートの保護（セルのロック解除）など

３　授業実施上の工夫

実務を想定したアクティブラーニング型の授業で学習を進めた。生徒は４人前後のグループを形成している。基本的に作業は個人単位で行うがグループ内の相談は自由であり，資料は何を見てもよい。また，グループでわからないことについては，他のグループに聞いてもかまわない。１つの課題をグループのメンバー全員が終了したら，上司役の教員に報告する。

◇　ＩＣＴの活用方法

教員（上司）や他のグループとの対話についてはＺＯＯＭを活用し，オンラインで実施した。

※ＺＯＯＭの様子（生徒の顔にはモザイク処理を施しています）

４　評価方法

評価対象は作成したファイル、リフレクションカード，グループ内の取組み方とする。また、適切なタイミングで報告・連絡・相談を行えているかなど、ビジネスマナーについても評価する。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	実務を想定した具体的な事例と、必要とされる処理方法について理解しているか。	利用者の視点に立って、使いやすい便利なシステムが設計されているか。	課題解決に向けて、自らで考え行動しているか。

５　成果と課題

成果としては２点あります。１点目が学習内容の理解と習得が図れたこと。２点目が将来に繋がる学びを実現できたことです。課題としては，教員と生徒は別室で実施したほうが良いが，その場合，授業中に生徒だけの時間が発生してしまう。今回は生徒の作業時間のみ隣の教室に移動し，生徒の様子を窺いながら実施することで対応したが，近くの教室を確保できない場合には実施方法の検討が必要となる。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
						○	○	○	

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	山梨県	学校名	甲府市立甲府商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	ｉｐａｄ（無印）プロジェクタ　アダプター　MacbookAir　書画カメラ(MacMini)		

１　科目名「ビジネス経済」「課題研究（株式学習）」「ビジネス基礎」
「ビジネス経済」３学年選択　３単位
「課題研究（株式学習）」３学年
「ビジネス基礎」１学年

２　授業概要
上記の全ての科目において活用しており、オンライン授業は株式学習にて実施している。一斉授業や個別指導、グループ討論など、様々な場面でICTを活用し、スクリーン上に掲示しながら、説明したものをビデオで配信などもした。多くは、事前に（Keynoteに即した）学習資料と書き込み用教材を配布し、ビデオを視聴しながら考察して、解答記入していく形式をとっている。

３　授業実施上の工夫
知識・理論の説明に使用している。教科書を加工しKeynoteに部分的に入れ込み、かつ要点を書き込んだスライドを説明に用いている。また電子教科書を掲示し、ライン掲示・書き込み等を行っている。
効果として、口頭のみで説明するよりも伝わりやすく聞き逃しがほとんどなく、自らメモを取るようになった。
経済関係では、データやグラフの説明、解釈する際に掲示することで授業がやりやすくなる。また、生徒も配布資料と突き合わせながら、具体的に視覚で確認できるので、学びやすいとの意見であった。データは経済学をはじめ、社会を見ていくうえで必需となる。さらに写真や動画も効果的である。
あまり時間は割くことはないが、問題の解き方を説明する際は、書画カメラを使用することもある。

４　評価方法

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	テキスト・配布資料にある理論､データを理解しているか。	データや知識を活用し（複数の場合もある）、論理的に社会的な様々な事象を考察し､分析判断しながら､それを自分の言葉で表現しているか。	（理解は意欲につながるので）積極的に知識やデータを取集し､整理しながら活用（情報処理）していこうとしているか。

５　成果と課題
知識や理論的なことが分かってくると、生徒は自然と意欲的に取り組むようになる。簿記会計分野においても問題解説はほとんど行わないが、きちんと自らが所有するテキストを活用しながら補足してくと、家庭学習においても振り返ることが可能となり、自己学習力が自然と身についていくのではないかと感じている。分からない問題を質問し、その問題だけを試験や検定試験前に解説する程度でも十分対応できるようになる。
プレゼンテーション能力は、授業を通して生徒にも自然と身についていくように感じている。授業者がICTを活用することにより、生徒も様々な手法を学ぶことができる。
ICTは道具であり、どのように授業を構築するかが重要である。最も気を付けていることは、生徒の反応であり、１度作成した教材が次年度に使えないなどは頻繁に起こる。よって、修正を加えながら進めていくことや、必要があれば大幅に刷新することが重要である。経済データは特に刷新や状況のチェックが必要である。ICTは必要に応じて活用すべきで、背伸びして使用することは避けるべきである。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○	○	○	○	○		○	○		

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	山梨県	学校名	甲府市立甲府商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	プロジェクター・I pad・apple pencil		

1　科目名　　「財務会計Ⅰ」　　対象学年：2年次　単位数：3単位　履修形態：必修
　　「マーケティング」　　対象学年：2年次　単位数：3単位　履修形態：選択

2　授業概要　　一斉授業と個別学習を併用しながら授業を行っている。

3　授業実施上の工夫

「財務会計Ⅰ」毎時間使用

・テキストをスクリーンに表示し、注意点や補足事項を書き込みながら説明している。
　口頭だけでは伝わりにくいものを、生徒と同じテキストを表示し書き込むことで補足している。

・Ipad のカメラ機能を使用して投影することで、書画カメラのように使用することができるため、動きによる説明が必要な作表では、カメラ機能を利用している。

・プロジェクターとタブレットを無線で繋いでいるため、タブレットを持ったまま机間巡視を行い、メモ書きや解答に独自性があり、かつ模範となりそうなものは、本人に承諾を得てその場で投影し、その情報を共有している。

「マーケティング」毎時間使用

・テキストの内容から身近な例や思いつく内容を発表させ、その対象製品・事例などをその場で調べ、投影している。その写真や記事から気付いたことを更に生徒に質問して発言させている。

・テキストの事例紹介として、関連するニュースや製品の写真、企業の HP などを事前に用意し、できるかぎり最新のデータを用いながら、学びと社会とを結びつけている。

・教室にパソコンがないため、調べ学習などは家庭学習にて対応しているが、その課題を写真に撮り、投影して紹介や説明を行っている。

4　評価方法

・教師が指示したメモ書きだけではなく、口頭で行った説明やテキストの欄外の情報、生徒本人が補足で調べたデータなどがどのようにテキスト・ノートに描き込まれているかを評価している。
（授業の際、教師が用意した資料や、口頭にて各自で調べるよう指示したものもあるため、それらを中心に評価し、創意工夫がみられるかなども評価のポイントとしている。）

・「マーケティング」の課題では、事実を調べてまとめるだけではなく、生徒自身の意見やその根拠となるデータが活用できているか、色使いや写真の活用など分かりやすい資料であるかを評価している。

【マーケティング】

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	毎時間、授業の冒頭で行っている質問形式の復習に対し、質問に沿った解答ができているか。	課題に対する自身の意見が、根拠をもとにまとめられているか。伝わりやすさを意識したまとめ方になっているか。	課題に対し、テキストで学んだ知識や事例をもとに取り組めているか。積極的に調べ学習を取り入れているか。

5　成果と課題

【成果】・グラフや写真などを使用することで視覚的な理解を促すことができる。
　　・板書時間の短縮、生徒への指示出し時間の短縮につながる。
　　・最新の事例や高校生に身近なテーマを扱うことで、授業と社会を結びつけて考える手助けとなる。

【課題】・一人一台 PC や全員がタブレットを所有している環境でないこと。
　　・以前に、スマートフォンを利用した生徒の授業理解度調査を行ったが、通信料やスマートフォンの扱いについて、学校での見解や教員間での意識の差があり、継続実施が難しいと感じることもある。

6　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○	○	○	○			○	○		

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	東京都	学校名	東京都立江東商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	ＩＣＴタブレット、プロジェクター		

１　科目名「　ビジネスアイデア　」

２学年、３単位、必修

商品開発ワークを通じて、新商品・新サービスの開発を行っている。

新商品・新サービスのテーマは「お菓子」

２　授業概要

・高大連携授業「産業能率大学教授･大神先生との連携授業」[2020年９月～2021年２月]

①産業能率大学の教授による、マーケティング・商品開発に関する講義［ 全５回　10時間 ］

Zoomを使った双方向授業、教授⟷江東商業８教室を結んだ同時授業

②産業能率大学の教授による、商品開発ワークの視察および助言［ 全２回 ２時間 ］

商品開発ワークの進行状況についてZoomを使って視察および助言を行っていただいた。

テスト的な意味合いもあったので、教授　　１教室だけを接続し授業を行った。

③ICTタブレットによる情報収集・成果物の作成

商品開発ワークで、既存商品の調査やアンケートの実施などを行った。

３　授業実施上の工夫

・各教室の機器接続準備や実施中のトラブル対応など、事前に何回か練習した。

４　評価方法

・ICT機器やZoomはあくまでも、リアルな授業の補助的な道具として使用した。したがって、ICT特有の評価は行っていない。

５　成果と課題

・ICT機器とZoomを活用することで、遠隔地と各教室を結んで、講義を行うことができた。しかし、Zoomでは生徒が商品開発ワークなどで作り出した成果物（模造紙に書き出した商品プラン）を細かく共有することは難しかった。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○		○		○		○	○	○	○

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	東京都	学校名	東京都立江東商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	各自のＰＣ、スマートフォン		

１　科目名「財務会計Ｉ」
第２学年、３単位、必修

２　授業概要
休校中、分散登校での自宅学習での学習

３　授業実施上の工夫
全商簿記実務検定１級過去問題の解法・下書きの書き方などを撮影し、生徒に配信。
定期考査の対策プリントについても同様に撮影し、全員に配信。
※コロナ下での授業時数不足に対応して行った

４　評価方法
解答を写すだけではなく、動画を見ながら解法・下書きについても記述させ、提出させることにより理解の定着を図る。
評価については、通常の対面授業と変わらない。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	簿記検定の答案練習を動画視聴と並行して行うことにより解法を身につける。	問題を解くときの下書きが最終的に自力できちんと書くことができるか。	一時停止することにより、自分のペースで完全に理解しながら進める。

５　成果と課題
動画を見ながら課題に取り組む形式なので、一時停止しながら自分のペースで学習できる。
生徒には大変好評であった。コロナ禍でも簿記１級に対応することができた。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
	○		○		○				

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	神奈川県	学校名	横浜市立横浜商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	カメラ付き Windows10 のノートＰＣをＷｉ－Ｆｉ環境のある普通教室で使用		

１　科目名「課題研究」

２年　２単位　ＹＢＣクラス(２年６組)必修

２　授業概要

認定ＮＰＯ法人･カタリバによる授業

２年生が後輩である１年生に，これまでの人生を振り返った内容を語ることで，１年生の「心に火を灯す」きっかけを与える授業。

授業は，約 20 時間を行なった。カタリバの職員やスタッフとのオンライン授業が中心となっている。

３　授業実施上の工夫

オンライン授業の１例では，２つの教室に各４台のパソコンを設置し，各台に２名の生徒がつく。つまり同時に 16 名の生徒が，カタリバの学生スタッフ８名との授業を行う。

ＺＯＯＭを利用しての授業であるので，相手の顔が見えることで反応もわかる，あるいは即座に質問ができるなど大変効果的である。

４　評価方法

相手側のカタリバの学生スタッフが，後日メールで各生徒個々へオンライン授業時に感じたこと(良かった点や課題点など)を送信してくれている。教員にはその内容に加え，生徒個々の取り組み状況なども担当教員へ伝えてもらっているので，これらの情報を評価に取り入れている。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	ZOOM 機能(パソコン操作)をうまく活用している。	学生スタッフからの質問に，即座かつ的確に答えている。	生徒から積極的に学際スタッフに質問をしたり，自らの課題を伝えている。

５　成果と課題

成果：学校に居ながら外部の人と交流が出来ることで，時間や交通費などが節約できる。

課題：例年は，カタリバのスタッフが本校へ来校してくれたり，カタリバがある東京･高円寺へ生徒が訪問している。生徒は直接指導を受けることができ大変効果的であるが，オンライン授業ではやはり細かな指導が及ばないと感じている。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○	○					○			○

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	神奈川県	学校名	神奈川県立厚木商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	・Chromebook ・短焦点プロジェクター		

１　科目名「　原価計算　」
　２学年　３単位　会計系選択者必修

２　授業概要
　単元名：標準原価計算
　原価計算の目的の一つである原価管理を、標準原価計算も用いて理解させる。標準原価と実際原価を比較することで、原価差異を分析するだけではなく、分析された結果をもとに発生原因を把握し、改善策などを提案できるように計画をした。原価差異の計算方法を指導するときに、どのような差異なのか、どのような要因によって発生するかを説明し、原価差異を計算するだけはなく、それらの結果を分析し活用する知識や技術を身につけさせることを意識した。

３　授業実施上の工夫
　生徒１人につき１台のChromebookを用意し、G Suiteの特徴の一つである共有・共同編集の機能を活用し授業を展開した。新型コロナウイルス感染症に対する対策を意識しながら、生徒が座席の移動や発言をしなくても他社の意見を聞き、自らの気づきを得ながら共同学習を行うため次の工夫を行った。
　〇一つのファイルの中に、グループごとに作成したワークシート上で作業を行えるようにし、役割毎にセルに対して色付けをする等の工夫をした。
　〇他のシートを見ることで、他の生徒がどのように答えているかを把握でき、発表時には、他のグループの内容を見て、コメントを入力させた。

４　評価方法
　授業後のスプレッドシートを用いて評価を行った。編集履歴を活用することで、生徒が入力し直した際にどのような変化があったかを把握することができた。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	原価差異の発生原因を理解し、分析することができる。	分析した結果を用いて、発生原因や改善策等を考えることができる。	原価差異の発生原因を自ら積極的に調べ、授業に取り組んでいる。

５　成果と課題
　成果としては、スプレッドシートを使ったことで進捗状況を随時確認することができたため、フリーライダーの抑止や手立てが必要な生徒に対するフォローを効率的に行うことができた。
　課題としては、教員・生徒ともにG Suiteに慣れていない部分があり操作などに戸惑う場面があった。授業準備等で通常に比べて苦労する場面があるが、定期的・継続的に実施し慣れていく必要性を感じた。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○						○		○	

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	新潟県	学校名	新潟県立佐渡総合高等学校
授業で活用している ICT 機器など	タブレット（もしくは個人端末）、PC		

１　科目名「経済活動と法」

本校は総合学科で２年次より５つのコースに分かれ授業が展開されており、ビジネス情報系列（商業科目）を選択した３年生が週４単位、必修科目として「経済活動と法」を受講している。

２　授業概要

単元名：財産権とその種類　物権（所有権）

内　容：物権の中の所有権を学ぶ際に佐渡市の「歴史的風致維持向上計画」が国から認定されていることを紹介する。また、佐渡市には 408 の文化財が国、県、市から指定されている。彼らの身近に数多くある文化財を学校所有 i pad や個人携帯端末等で撮影し、文化財の諸問題について考えのスライドにまとめ提出させる。Google　workspace　for education 内にある Class　room を活用し、事前にスライドの評価基準を生徒に示し課題の提出を促す。「事前学習用スライド」と、物権の授業を受けた後に作成する「事後学習用スライド」の２回、課題提出をさせる。

３　授業実施上の工夫

１回目のスライド課題（事前学習用スライド）では、インターネットを使い、佐渡島内の国指定、県指定、市指定の文化財を一つずつ調べてもらい、スライドにまとめ提出させる。ここでのルーブリック評価の基準は、課題についての基礎的な知識を得ているかにとどめ、周辺情報や関連情報を集め理解しているかまでは評価しない。

２回目のスライド課題（事後学習用スライド）では、インターネットの他に、自分の足で稼いだ情報、行政の方や身近な大人、専門家からの意見を取り入れ、様々な角度から得た知識を、目の前の課題と関係する知識を俯瞰してつなげ、佐渡市の文化財や古民家問題などの課題に気付き、自分の言葉で人に説明できるレベルにまでなっているかをルーブリック評価の最上位の基準におき、これを判断基準とする。その際、現地の人にインタビューした動画や音声を編集してスライドに入れても構わない旨を伝える。ただし、相手の承諾を得ることを条件に録音、録画させてもらう。その後の知的財産権の話にもつながっていく。４～５人のグループに分かれその中でお互いの資料を見せながら（まとめ・表現）考察を深めていかせる。

４　評価方法

課題提出：スライドで提出、事前に Class　room を通じて評価基準を生徒に示す。

①「事前学習用スライド」２項目×５点＝10 点　　②「事後学習用スライド」４項目×５点＝20 点

①と②に対する取り組み状況をみて、学びに向かう力、人間性等を見取る。10 点

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	スライド作成の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、所有権に関わる概念を形成し、文化財の意義や価値を理解している。	実社会や実生活と自己との関わりから問いを見い出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。	スライド課題に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに，互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。

５　成果と課題

成果：所有権の制限を学ぶ際に、建築基準法や文化財保護法などの事例は、重要文化財が多く存在する佐渡島内では身近に感じる事例であり、ネットからの画像を貼り付けるのではなく、自分たちで画像を撮ってきてもらうことで自分ごととして捉えやすかったと感じてくれた生徒もいた。携帯や家の PC などでも課題に取り組むことができ、評価基準を確認しながらできたのが良かったと答えていた。

課題：評価に関する実践事例がまだまだ少ないので、評価規準や評価方法を教師同士で、事前に検討し蓄積・共有していくことが必要だと感じた。発表資料を作成する際アドバイザーとして専門家や大学生などに伴走してもらうとさらに深まりがでると感じたので今後はそういった人材を授業内で活用していきたい。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○		○		○	○	○	○		

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	富山県	学校名	富山県立富山商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	実物投影機・ＰＣ		

１　科目名「情報処理」　１学年、３単位数、必修

２　授業概要

単　　元：ハードウェアとソフトウェア

内　　容：5大装置を接続しよう

学習指導計画：デジタルネイティブと呼ばれる世代の生徒たちはスマートフォンの操作には慣れているが、パソコン操作には不慣れである。しかし、社会はパソコンを用いた業務が多くあり、対応できる人材を育成したいと考える。今回の授業では、機械トラブルに対処できる知識や技術、姿勢を身に付けることを目標に実施した。授業では、障害のために起動できないＰＣを用意し、生徒にその原因を究明させたい。

３　授業実施上の工夫

全員5大装置が全て接続していないパソコンの状態から授業を開始する。どうすれば接続が正しく行えるのか考えさせ、また気づきや学びを他の生徒と共有しながら最も早くどのグループの4台全てが起動するかを競わせた。グループ分けでは予め、知識や技術おいて各グループで差が大きくならないように工夫した。

また全生徒が使用する備品であるため、作業中の故障が生じないように実施した。特に、電子機器の扱い方や気を付ける点、通電するタイミングなど先に注意すべきポイントをしっかり確認してから開始させた。

４　評価方法

・正しく接続し、5大装置を使用可能状態にできる（知識・理解）

・ＵＳＢの表裏や、ＨＤＭＩがモニタ接続だけでなく音声もつながっている等の判断ができるか（思考）

・グループワークを通し課題解決に積極的に取り組んでいるか（主体的に学習に取り組む態度）

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・正しく接続することができる ・教わりながら接続することができる ・接続できない	・友人への伝え方に配慮がある ・端的に接続方法を伝えることができる ・どこに困り感があるか伝えられない	・積極的にグループワークに取り組んでいる ・グループワークに取り組む姿勢がみられる ・個人で取り組んでいる

５　成果と課題

全員が課題に向き合い、積極的に解決策を探る姿は大きな成果と考えている。生徒たちはモニタの接続が分からない、マウスは繋がるがキーボードが反応しない等、何が解決し何が未解決であるかを、言語活動を通して整理しながら取り組んでいた。課題としては、全て他人に任せきりの生徒や、自分のＰＣを起動させた後に自ら他人を助ける様子が見られない生徒もいたことである。知識や技術を身につけてもコミュニケーション能力や協調性、他人を思いやる心がないと、さらなる発展的学習が難しいと感じた。また、発問や声掛け、机間指導を行うことで今まで以上に生徒間での学び合いを促すことはできた。しかし、最初から主体的に仲間とともに解決する姿勢を持たせた状態でのスタートにはならなかったことから、今後はさらに事前指導の工夫について研究を重ねることでより良い授業を目指したいと考える。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
	○		○			○	○	○	

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	石川県	学校名	石川県立金沢商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	Chrome book 、プロジェクター		

１　科目名「観光地域学」
　対象生徒：総合情報ビジネス科２年生　２４名（男子２名、女子２２名）
　履修形態：観光サービスコース選択必修
　単 位 数：２単位

２　授業概要
　石川県の歴史や文化を学び、地域の魅力を発信する担い手として求められる資質を養成する。また、全国各地の観光資源について学ぶとともに、観光ビジネスの変化や発展について考察する。さらに、観光サービスコース選択者は県外からの修学旅行生に対し、兼六園・金沢城を中心とする金沢市内のガイドも行っている。

３　授業実施上の工夫
・Chrome book を１人１台配布し授業を実施している。Google ドキュメントや Google スライドを利用し、グループになり授業ノートの作成や発表用スライドの作成に共同して取り組めるようにした。
・Google マップのストリートビュー機能を利用し、兼六園ガイドの実践練習に取り組めるようにした。
・Google スプレッドシートに入力したデータから、Google フォームで小テストが自動作成されるよう Google Apps Script でプログラムを設定した。選択肢がランダムで変化する形となっており、繰り返し問題を解くことで学習内容の定着を図った。

４　評価方法
・グループ発表の評価方法として Google フォームを利用し、生徒評価の集計を行った。Google フォームで作成したアンケートフォームには Google Apps Script で、各生徒の評価結果が発表者の G メールに届くようにプログラムを設定し、生徒の評価をリアルタイムで見て、自分自身の発表の改善に繋げられるようにした。
・単元ごとに Google フォームで作成した小テストを実施した。小テストは Google class room から生徒に配布し、採点・集計を自動で行われるように設定した。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	全国各地の観光資源や石川県の地域社会形成の歴史的過程と、生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身につけている。	石川県の歴史的・文化的事象から課題を見いだし、地域社会形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断し、過程や結果を適切に表現する。	石川県の歴史的・文化的事象に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、地域社会の一員としての責任を果たそうとする。

５　成果と課題
（成果）
・Google のクラウドサービスを利用する事で課題の作成や評価の集計が容易となり、教員の業務が大幅に軽減された。また、生徒一人一人の意見や調べた内容を生徒間で共有する事ができ、生徒の学びの質の向上につながった。
（課題）
・調べ学習で動画を視聴する機会も多く、ヘッドフォンの必要性を感じた。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○		○	○	○		○	○	○	

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	石川県	学校名	石川県立小松商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	iPad、Chromebook、大型ディスプレイ		

1　科目名「課題研究」
　履修学年　３年、単位数　３単位、履修形態　必修

2　授業概要
　地域の観光資源を調査し、現状を把握し、地域観光ビジネスに対する課題を解決できる人材を育成する。また、地域の魅力を発信できる語学力とコミュニケーション力を持った人材の育成を目指す。
◇観光地事前調査（インターネット等）
・調査内容を大型ディスプレイやGoogle for Educationを利用して情報を共有する。
◇ハワイの高校生と交流（Zoom等を利用）事前に行う。
・ガイド以外の場面で短い文のやり取りや相手に質問ができるようにする。
・ガイド内容を英語でプレゼンし、発音、表現などについてアドバイスをもらう。

3　授業実施上の工夫
　ZOOM等を利用して、ハワイの同年代の学生との交流を通して、日本人とは違う外国人の視点を知ることにより、外国人にガイドをする際のポイントを知ることができた。また、双方向での交流を通してコミュニケーション能力の向上を図ることができた。

4　評価方法
・情報共有の場面で、適切なICT機器の利用方法を選択することができる知識・技術を評価。
・自分の考えを伝えるためにプレゼンテーションツールを利用し、他者とコミュニケーションをとることができる。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	課題（研究テーマ）の解決に必要な情報、資料を適切に収集、処理することができる。	収集した情報､資料を適切に処理し､その成果を総合的に表現できる。	問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を身につける。

5　成果と課題
【成果】
◇ハワイとの交流経験から英語でのコミュニケーションに苦手意識がなくなり、ガイド以外の場面でも積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢が見られた。
◇新型コロナウイルス感染拡大の影響で当初の計画を大幅に変更せざるを得ない状況でも全員が前向きにＩＣＴ機器を利用した代替案を考えるなど課題解決のために周囲と協力する姿勢が見られた。
【課題】
◇同世代との日常会話は慣れてきてはいたものの、目上の方との会話やビジネスシーンで用いられるような丁寧な表現や言い回しも学習しておくべきだと感じた。
◇実際のガイド経験の少なさから、一方的な説明だったと感じた。

6　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
		○				○	○	○	○

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	福井県	学校名	福井県立敦賀高等学校
授業で活用しているICT機器など	学校内のパソコン室のＰＣ、生徒保有のスマートフォンのアプリ		

１　科目名「総合的な学習の時間」

履修学年２年、単位数１単位、必修

２　授業概要

「生徒が主体的に学び合う授業を通して、専門性を高める」というテーマの下で、グループワークを効果的に取り入れた時間にするために、クラス全員で『観光甲子園』というコンテストへの参加を目標に、観光プランの動画を作成した。地方創生に一躍担うことや観光についての学習、動画作成についての学習を探求的に取り組むことが主な目的である。また『観光甲子園２０２０』では地域課題を SDGs と絡めて考える必要もあり、グループごとに自分たちが挙げた課題が SDGs のどの目標・ターゲットに当てはまるか考えながら作業を進めた。生徒が考えたプラン（例）は以下のとおりである。

・昆布すき体験を取り入れた昆布復興プラン
・北前船関連の観光施設を旅するプランを SNS で発信
・日本遺産に認定された鉄道関連遺産を巡り、SNS を通して人と国がつながるプラン

３　授業実施上の工夫

観光プランが確立後、3 分の動画作りを行った。各グループの生徒が実際に計画したプランの観光地を巡り、素材を集めた。撮影の許可取りや担当の方へのアポイントメント、撮影、モデルなどすべて生徒自身が行い撮影を行った。同時に撮影した素材をパソコンやスマートフォンのアプリを使用し、動画編集を行った。また、編集に関しては敦賀のケーブルテレビ会社の方にも指導をいただき、動画制作の指導を受けて進めていった。

４　評価方法

生徒への振り返りや生徒へのアンケートをとることで、単元ごとや授業の課題設定が適当であったか、生徒が意欲的に取り組めたかなどを確認しながら進めていく。また、観光プランコンテストの予選に応募し、外部機関に評価してもらうことも試みた。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	動画を３分以内に収め、動画を見ている側の立場になって作成できたか。	その観光スポットの魅力を文字や映像でどう表現するのか、現場での声をどう取り入れるかなど独自性を持って表現できたか。	決められた時間外の時間を生徒自身がマネジメントし、スケジューリングも含め、生徒同士で主体的に動けているか。

５　成果と課題

生徒は学校外の大人と関わる経験が少なく、アポイントメントを取るための電話やメールでのやり取り、現地での会話など、最初はぎこちなさや緊張があったが、大人とのコミュニケーションの取り方やビジネスマナーについても学ぶことができた。

観光甲子園２０２０HP（https://www.nexttourism-contest.jp/）

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
	○	○	○	○	○	○	○	○	

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	福井県	学校名	福井県立若狭東高等学校
授業で活用しているICT機器など	Chrome Book		

１　科目名「課題研究」

３年生、３単位、選択必修

２　授業概要

課題研究のあるグループにおいては県から配備された「Chrome Book」を活用している。現在、イベントの企画についてのアイディアを出す際にはSlackを利用している。また、家庭学習においてもChrome Bookを活用してMeetを用いたオンライン会議を計画中。

３　授業実施上の工夫

これまでペーパーに記入していた企画書等の作成を、オンラインで作成できるようになった。また、情報を共有しやすくなった。

４　評価方法

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	イベントを企画するために必要な条件を理解している。	イベントの企画について、さまざまなアイディアを考えている。 メンバーにアイディアを伝えるための工夫がある。	積極的にアイディアを出している。 企画を立てるために情報を収集する姿勢がある。

５　成果と課題

現在進行形である為、成果としてはまだ出ていない。しかし、今までであれば外部の方から話を聞きたい場合は、直接出向くか来ていただくしかなかったが、オンライン会議が主流になったことでチャンスの幅が広がったように感じる。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
	○	○	○	○	○	○	○	○	○

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	長野県	学校名	長野県諏訪実業高等学校
授業で活用しているICT機器など	ＩＣＴ機器の活用より既存のプラットフォームの活用例 生徒連絡や家庭学習支援のためのG Suite やGoogle Classroom やYouTubeの利用		

1　科目名

「簿記」「ビジネス基礎」「原価計算」「マーケティング」「ビジネス情報」など多くの専門科目で利用

2　授業概要

一斉休業を機に、Google Classroom を利用したＩＣＴ活用授業に着手。学級や授業科目ごとのクラスを作成し教師と生徒のアカウントを登録して先生や生徒間でコミュニケーションしたり、ドライブにアップロードした教材や課題の配布、フォームで作成したアンケートや小テストの自動集計や自動採点、課題の提出、質問受付と回答等コミュニケーションしながら学習することができる。

3　授業実施上の工夫

(1) ＩＣＴ教材の特徴と利用方法

単方向型：ＰＤＦ資料（問題演習・解説）　簿記、ビジネス情報、経済活動と法など
授業スライド　原価計算など
動画（教科書に沿った板書での授業）　英語、簿記など
（電卓の使い方）　ビジネス基礎など
スライド＋音声　問題集やプリントの解説 英語、数学、簿記など
双方向型：Google フォーム（問題演習・テスト）ビジネス情報、マーケティングなど
Classroom（質問の解答）　総合実践など
（写真に対するコメント）　家庭科（被服製作）など

(2) Google Classroom 活用

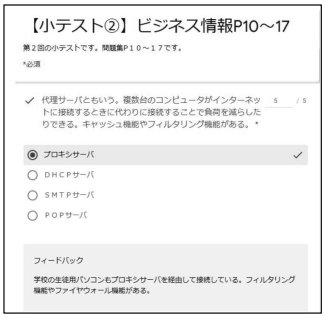
・家庭学習に課題配布し解説 PDF を Google Classroom にアップロード
・１年生に電卓の使い方の実演動画や授業風景を YouTube にアップロード
・個別の生徒にコメントしたり全体にコメントしたり必要に応じたコミュニケーションができる。

(3) Google フォーム活用

・休業中の２年「ビジネス情報」、３年「マーケティング」の教科書や問題集の解説、小テスト
・ビジネス情報の検定試験対策に４択問題作成、回答後に正答と問題解説をフィードバック表示

(4) 質問コーナーの設置

・様々な科目に対する質問を生徒が自由に投稿するコーナーを用意し個別指導をした。
・Google Classroom の活用により、生徒がいつでも課題提出したり質問をしたりする環境ができ、双方向コミュニケーションを図りながら家庭学習を進めることができた。



4　評価方法

具体的な評価方法についての取り組みにはいたらなかったが、昨年度の取り組みを普段の授業でも取り扱うことを想定しながら３観点の評価について考えていくことができると思う。

5　成果と課題

ＩＣＴ活用には様々な方法があり、今回の多くの取り組みは単方向のものであったが、アンケート結果から教員も生徒も双方向の教育になるように指導方法やツール利活用手法を考案していくことが課題になった。個別質問コーナーは、生徒に好評であり多くの投稿があったことは双方向コミュニケーションの糸口になる。今回は休業中の学びを止めないための対応が目的であったが、長期休業や普段の学習にも活かすことができる。今後もオンライン授業の研究や学校間での情報共有・連携が必要。

6　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○	○			○	○				

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	長野県	学校名	長野県穂高商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	電子黒板　タブレット		

１　科目名

「簿記」、「ビジネス基礎」、「情報処理」いずれも１年必履修

２　授業概要

一斉休業中の授業ビデオコンテンツの作成と配信

「簿記」　　入門編

「ビジネス基礎」電卓の利用（タッチメソッドや応用的な機能）

「情報処理」　　ワープロソフトウェアの利用（タッチメソッドや文書編集）

事前に問題集を配布し、家庭で練習をすることにより技術の習得ができるようにする。

（普通教科等も含めた配信コンテンツ一覧）

ビジネス基礎	電卓教材１・２
簿記	簿記入門１・２・３・４・５・６・７・８・９
情報処理	情報処理１
国語総合	古文入門前半・後半、国語教材２、古文入門４
音楽Ⅰ	音楽教材１・２・３・４
学校紹介	生徒会活動、クラブ活動、修学旅行、穂商マーケット
その他	分散登校、R２入学式

３　授業実施上の工夫

今回は、ＩＣＴ機器を活用した教育というより、学校で学べない生徒に対して、初めて高校に入って学ぶ専門科目を各教員がＩＣＴを利活用して、いかにわかりやすく初歩を伝えていくかというところが焦点であった。

単に授業をしているところの録画ではなく、生徒の目線からのコンテンツ作成、テロップによる説明などを加えた。

４　評価方法

今回は、入学した新入生が学校にも慣れない状態で休業となり、初歩の技術的な部分をカバーする緊急措置が目的であった。学校生活に関するビデオ配信や普通科の授業配信と一緒に送信したものであり、評価規準については考慮していなかった。

５　成果と課題

昨年度各校にＩＣＴ機器が整備されたところで様々な教科で電子黒板やタブレットなどを使った授業が増えた。ＰＣを活用した効率的な授業が普及し、教材開発の手法も進化している。

今回簿記で取り組んだものは学校のオリジナルのものであったが、初学者のための簿記教材は大手専門学校が制作したオンライン教材活用も考えられた。オンライン授業でも、生徒と心の通った授業を行うことが必要であり、独自性や創造性のある教材開発が必要であると考えている。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○									

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	静岡県	学校名	静岡県沼津商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	PC・大型ディスプレイ・小型PC・静岡県立大学サーバー		

１　科目名「ビジネス情報」
　　３年、３単位、自由選択

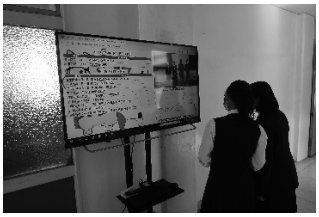
２　授業概要
ビジネスと情報・ネットワークとビジネス
静岡県立大学のサーバーをお借りして、校内用のデジタルサイネージのコンテンツを作成し、実際にアップロードし、校内用のデジタルサイネージにて成果物を発表している。

３　授業実施上の工夫
新しいアプリケーションは買えない状況であったので、既存のプレゼンソフトを活用し、それを動画でエクスポートし活用している。
静岡県商業校長会が静岡県立大学と連携し、県立大のサーバーを活用し、クラウド上で運用できるようになっている。
まず、紙ベースで表現したいプレゼンのアイデアを書き込んでいき（コンピュータで表現できるできないに関わらず)、そのアイデアコンピュータ上で表現できるように知識・技術を習得していく。

４　評価方法
成果物を教員評価と生徒の相互評価によって評価をつけている。
工夫している点は、評価規準に対し、Ａ・Ｂ・Ｃで評価し、形成的評価を行っている。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	考えたアイデアを実現するための技術を適切に使い組み合わせることができる	訴求力のある表現を考え､その過程の中で､そのコンセプトを説明できる	アイデアとコンピュータ上の表現の限界に試行錯誤しながら埋めることができる

５　成果と課題
成果
動画を作成することにより、学校の良さや、部活動の良さを新たに見つけ言語化することが出来た。
ネットワークを通じて配信されることにより､時間と空間を越え、ＩＣＴの可能性を知ることが出来た。
課題
ネットワーク上で他の商業高校のサイネージを見ることができるが、現在まで交流するところまで活用出来ていないので、今後各校の課題研究なので活用し、横のつながりを強化していくことが課題としてある。



６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	静岡県	学校名	静岡県立浜松商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	コンピュータ、プロジェクタ、スクリーン、タブレット（iPad）、書画カメラなど		

１　科目名「課題研究（観光）」
　履修学年：３年生　単位数：３単位　履修形態：必修（各自の興味等に基づき講座を選択）

２　授業概要
　年間を通じて「観光」をテーマに３年間の商業科の学習の総まとめとして授業を展開している。２年次までに学習した主に「マーケティング」の学習内容および本授業で学ぶ「観光」の基礎知識をベースとして、グループで課題を設定し、仮説を立案し、プレゼンする授業を年間を通じて実施している。

３　授業実施上の工夫
　根拠あるプレゼンとするため、行政機関等の出す調査統計資料やリーサスを始めとするビッグデータの活用を推奨している。思い付きでのプレゼンとするのではなく、３年間の学習の成果としてのプレゼンとなるよう工夫をさせている。コンピュータでの検索および情報収集にとどまらず、タブレット機器を活用することで、グループで意見交換をしながらの効果的な情報収集が可能となる。また、プレゼン時も画像などマルチメディアを活用した誰もがわかりやすいプレゼンとするよう工夫させている。

４　評価方法
　評価については、以下の２通り方法を用いている。
　① ３観点の評価ができるような定期テストを実施する。
　単に暗記した知識を答えるのではなく、「知識・技術」に関しても自分なりの言葉で表現しながら説明するような記述式のテストとし、他の観点についても文章で表現させるテストとしている。なお、評価の方法は、どのような記述がどのような評価に繋がるかを事前にある程度生徒へ示し、生徒の納得感を得るように心がけている。
　② プレゼン内容の相互評価
　事前に評価項目を示したうえでプレゼンをさせ、生徒同士の相互評価および教員による評価を同基準で行い、最終評価に加えている。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	観光に関する基本的な知識を身に付けるとともに、ＩＣＴを活用して観光に関する資料や統計的資料を収集、分析することができる。	観光に関する地域課題を発見するとともに、様々な事例を分析し、関係機関と連携して課題の解決に向けた観光プランを企画・提案することができる。	観光施策や街づくりに興味を持ち、持続可能な地域社会の形成に向け、主体的かつ協働的に学習に取り組むことができる。

５　成果と課題
　上述のような評価方法は、教員によってその基準が変わってしまう恐れもあるが、事前に生徒にその基準を示すことで指導内容に応じた評価が可能になると考えている。今後このような授業を展開していくうえで課題となることは、教員と生徒との授業内における信頼関係ではないだろうか。多様性が求められる今般の世の中において、自ら課題設定をし、その課題について説得力を持った形での表現ができることは非常に大切になってくるので、このような授業展開を特別なこととととらえないような状況を作っていくことが大切であると考えている。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○		○		○		○	○	○	

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	愛知県	学校名	愛知県立愛知商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	パソコン・プロジェクター・Webカメラ・卓上マイク・・・２セット 生徒個人用タブレットパソコン		

1　科目名「課題研究（地域協働ビジネススキルアップ探究）」
　３年生、３単位、必修、選択授業

2　授業概要
　愛知県内 13 校と連携をとり、東海地区及び全国規模で継続的に流通・販売可能な商品の開発を目的とした取組を実践し、メーカーや流通業者と連携したマーケティングを構築することにより、本県における商業の学びを深いものとするための研究である。3 年間を通して取り組む研究で、3 年生は最終学年となり、集大成である。県内をいくつかの地域グループに分け、学校ごとに仮想会社を立ち上げる。そこで、市場調査・売場構成会議・経費精算・実店舗陳列まで、実際の会社のような運営をイオン株式会社と協働で進めていき、実際の店舗の売上向上を目指す。年間を通して座学と実習を組み合わせたビジネス体験プログラムとなる。本校は近隣の愛知県立春日井商業高校と連携して活動する。

3　授業実施上の工夫
　新型コロナウイルス感染症対策のため、実際に対面してミーティングを行うことが難しい。よってZoomを使ってコミュニケーションをとっている。また、パソコン１台では全員の顔を撮影することができないため、２台は必ず接続するようにしている。他校やイオンと接続しない場合は、生徒個人用タブレットを活用し、必要な情報を調べながらミーティングを繰り返している。

4　評価方法
　ルーブリック評価により、５段階で評価している。また、提出物での評価は10段階で実施しており、授業後毎回提出させている。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	必要な情報を正確かつ迅速に抽出し、活用することができた。	課題に対し､論理的に表現しながら､解決まで協働して進めることができた。	他者（他校）と協働して活動し、主体的に行動する態度を身に付けることができた。

5　成果と課題
　実際に対面して活動することができず、他校とのコミュニケーション不足を非常に感じている。生徒もZoomでの限界を感じており、対面でコミュニケーションをとることの大切さを肌で感じることができている。そのため、年に数回の対面での協働実習に対して非常にモチベーションが上がっており、集中力・協調性など成長する姿が見える。課題としては、現在は２台しか接続することができていないが、今後は１人１台を接続することができれば、よりリアルにミーティングが行われ、実践的なコミュニケーションへとつながっていくため工夫をしていきたい。

6　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
									○

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	愛知県	学校名	愛知県立東海商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	タブレット、プロジェクター、大型ディスプレイ		

１　科目名「簿記」
　第１学年、５単位、必修、習熟度別展開

２　授業概要
　知識の定着を図るため、毎時間の導入時に小テストを実施している。昨年度までは、すべてペーパーで実施していたが、今年度は一人一台タブレット制を導入できたため、オンラインでの小テストを行っている。

３　授業実施上の工夫
　日商簿記検定がＣＢＴで受験可能になり、パソコンで問題が解けるよう練習している。
　定期考査をＣＢＴで実施するのは難しいが、小テストなら十分対応できる。普段からＣＢＴ形式に慣れさせておくことで、受験時の不安を低減させることが可能となる。

４　評価方法
　従来どおり、ペーパーベースでの定期テスト・小テスト・日頃の学習状況を想定して設定しているが、今年度から導入された一人一台タブレットを活用した観点別評価基準については、現在検討中である。今後より良い評価方法を検討していきたい。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	簿記に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、簿記とビジネスに関する実務との関連性を理解し、適正な会計処理を行うため、その技術を適切に活用している。	適正な会計処理を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	簿記について、関心をもち、適正な会計処理を目指して主体的に取り組もうとするとともに、会計に関わる職業並びに会計担当者の役割を理解し学習に取り組んでいる。

５　成果と課題
　生徒は新しい取組として、一人一台タブレットを積極的に活用している。
　採点や集計が自動的に行われるので、教員にとっても非常に便利である。
　解答の分析が行われ、正答率や誤答の内容も把握できるので、生徒の理解度測定に役立っている。
　課題としては、生徒の意識をより高める必要があることである。生徒の不注意からタブレットを忘れたり、充電が不十分であったことがあり、学校にはタブレットの予備がないため、全員で取り組めず、授業に支障が出たこともあった。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
	○				○				

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	岐阜県	学校名	岐阜県立岐阜商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	タブレット（生徒用、教員用）、プロジェクター		

１　科目名「ビジネス基礎」

履修学年　１年　単位数　２単位　必修

２　授業概要

単元：ビジネスの担い手

この単元では、ビジネスを担う様々な業種について学習する。学校周辺にあるビジネスを探し、そこから、どんな業種であるか、またその業種の特徴や、現在の状況を調べる。

① 事前課題として、リクルート社「スタディサプリ」の動画を配信する。
（未来の教室―よのなか科　経済編の一部）
② 事前課題として、学校周辺にどのようなビジネスがあるかを調べてくる。
③ 授業で、学校周辺の地図をホワイトボードに映し、どのようなビジネスがあるかを記入させる。
④ それぞれのビジネスがどのような業種かを教科書を利用して調べる。
⑤ いくつか挙げられた業種の中から一つを選び、その業種の現状や特徴、課題点を調べる。（タブレット等を活用）
⑥ 同じ業種を選んだ生徒でグループに分かれ、どのようなことを調べたか交流する。
⑦ 選んだ業種について、グループでまとめのレポートを作成する。

３　授業実施上の工夫

ICTについては、事前課題の視聴、業種の課題を調べる時に活用する。まずは教科書をしっかりと読み、基本的なことを理解した上でICTを活用する。また、この課題によって、生徒が探究的に学習に取り組むことができる。

現在は、まだＩＣＴを活用できていないが、今後は生徒同士の交流やまとめについても、ICTを活用できるようにしていきたい。

４　評価方法

まとめのレポートを中心に評価を行う。ICTを活用しつつ、様々な情報源に当たり、信頼性の高い情報を集めることができたか、またその情報をどのようにまとめたかを評価する。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	業種について、その現状や課題を正しく理解する	集めた情報をもとに､正しい情報をわかりやすくまとめる	自ら進んで、様々な情報を調べようとする

５　成果と課題

ICTを活用した探究的な学習を実施できたが、共同での作業でICTの活用をより推進する必要がある。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○		○	○	○	○	○	○	○	

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	岐阜県	学校名	岐阜県立大垣商業高等学校
授業で活用している ICT 機器など	・超短投与プロジェクター（Maxell）　・書画カメラ（ELMO） ・タブレット PC（Microsoft Surface Go）		

１　科目名「　簿記　」
・履修学年：１年生（ビジネス科）　・単位数：５単位　・履修形態：必修

２　授業概要
・教科書：簿記　新訂版（東京法令出版）
・単　元：第Ｉ編　第５章　仕訳と勘定への記入　１　仕訳
・目　標：１　仕訳の意味と役割・必要性を理解させ、その方法を習得させる。
　　２　勘定口座への転記について正しく理解させる。

３　授業実施上の工夫
・岐阜県では、令和元年度に県立高校において、各教室に「超短投与プロジェクター」、「書画カメラ」、教員・生徒全員に「タブレット PC１台」が整備された。
・簿記の授業においては、板書による生徒の待ち時間を短縮し、単元の重要事項の説明と問題演習の時間を十分確保できるよう心掛け、教材準備や授業を実施している。

超短投与プロジェクター

書画カメラ

タブレット PC

授業風景

４　評価方法
・生徒に配布されているタブレット PC を活用する授業においては、「MetaMoJi ClassRoom」にて配布した課題の提出物についての評価を実施している。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	仕訳の意味や勘定口座の転記に関する基礎的・基本的な知識を深め、仕訳と勘定口座への転記の仕方を理解し、適切に行うことができる。	仕訳の意味や勘定口座の転記に関する基礎的･基本的な知識を身につけ､取引を仕訳として表現しそれを勘定口座に転記することができる。	仕訳の意味や勘定口座に転記する方法について関心を示し、自ら進んで調べたりしてその記入の仕方を身に付けようとしている。

５　成果と課題
・成果として、ICT 機器を活用することで、前時までに学習した「取引要素の結合関係」等の資料を容易に提示し復習できるとともに、板書は本時の重要事項のみとすることで、説明時間や問題演習の時間を十分確保することができた。
・課題として、「MetaMoJi ClassRoom」を活用した教材配布だけでなく、「Microsoft Forms」を活用した理解度の確認など、ソフトの活用方法について更に研究する必要がある。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○									

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	三重県	学校名	三重県立四日市商業高等学校 三重県立津商業高等学校 三重県立松阪商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	Chromebook、書画カメラ、Windows10 デスクトップ PC		

１　科目名「総合実践（3 年情報システム科）」履修学年：3 年次、単位数：3 単位、履修形態：必修

「課題研究（未来の教室）履修学年：3 年次、単位数：2~4 単位、履修形態：選択必修

２　授業概要

経済産業省主催の「未来の教室実証事業」の取組として、企業等の実社会が抱える課題解決につながる学習を進めている。ＩＧＳ(株)が作成した年間スケジュールを基に、カリキュラムを整理し、授業を展開することになっている。

学習の進め方としては、SDGs・MaaS・モビリティサービス・ビジネスプラン・エリアマーケティング・地方自治体・マネジメント戦略等について、Google スライドにまとめて Google Classroom に提出し、グループで発表するなど、ＩＣＴ機器を活用しながら取り組む。

また、授業時にＩＧＳの社員の方と Meet を通して、不明点について直接質問をし、ヒントを得て、課題を解決する力を身につける。

（単元設定）

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
1	・ＳＤＧｓの視点 ・ビジネスの視点 ・プレゼンテーション	ＳＤＧｓの視点も取り入れ、社会における課題を学習した上で、新たなサービスを創造し企業に向けた提案を行うためのプレゼンテーションを制作する。	（学習形態） ・講義 ・問題演習 ・プログラム実習 （学びの支援） ・経産省「未来の教室」実施企業による EdTech と STEAM 教材の提供
2	・新しいビジネスを考える	高校生の視点による新たなビジネスを考えることで、創造力や課題の設定、ステークホルダーへの意識など、ビジネスにおいて必要となる知識を習得する。	
3	・成果発表	1 年間の学習の成果を振り返り、成果発表会で発表することで、自己効力感の向上と学んだ知識の再構築を図る。	

３　授業実施上の工夫

経済産業省「未来の教室」を導入。Google classroom や Google drive を活用し、課題や資料について配付、作業（作成および編集）、提出を行う。Chromebook はチーム 1 台で教材の視聴、ドキュメントやスライド、カメラ機能を使用しての提出などに使用。Windows10 デスクトップ PC は各自ログインにより情報の収集、作業用として活用する。

４　評価方法

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に係わる概念を形成し、研究の意義や価値を理解している。	実社会と自己との関わりから問いを見いだし、自分で情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。	課題に主体的・協働的に取り組む姿勢を持ち、互いのよさを活かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。

５　成果と課題

成果としては、国の事業を活用することで、企業の協力が得られ、机上だけでは得られない教育効果が期待できる。課題としては、観点別評価を行う上での題材が適切に集まるか、特に実習での評価(主体的に取り組む態度)が生徒によって差がつくのかが今後の課題である。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○	○	○	○	○		○	○	○	

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	三重県	学校名	三重県立津商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	パソコン、Chromebook、スマートフォン		

１　科目名「 電子商取引 」

３年生、２単位、選択必修１８名、教員２名

２　授業概要

電子商取引サイトの構築
ＣＭＳ（コンテンツマネジメントシステム）によりポータルサイトを構築している。
構築している内容は以下のとおりである。
①授業内容の事前指示
②毎授業時におけるふりかえりフォームへの入力と、提出フォーム内容の生徒へのフィードバック
（学んだ内容、得たものは何か、今後どのように活かせるか、反省、自己評価）
③授業内容等に関する質問（お問い合わせフォーム）とその内容に対するオンラインによる回答と共有
④各種解説資料の閲覧
⑤過去の授業資料の閲覧

３　授業実施上の工夫

パソコンでもスマートフォンでも実施可能な内容にするとともに、デジタル格差をできるだけ生じさせないようにしている。卒業後、テレワークが普通に行えるように、教員と生徒が Chromebook（学校備品）と校内 Wi-Fi を活用して授業展開している。

４　評価方法

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①毎授業におけるポータルサイトの活用度 ②サイト作成のために使われた知識・技能の理解度と活用度	①毎授業におけるふりかえりや質問の内容における理解度 ②利用者側に立ったサイトの作成度（第１印象、見やすさ、使いやすさ、分かりやすさ） ③相互評価のフィードバックに対する感想内容	①毎授業における生徒観察による学びに向かう姿勢 ②新しい知識や技術への興味関心 ③生徒による相互評価（コメント含む）とフィードバック

５　成果と課題
（成果）最新の技術に基づいた実践的な授業展開ができる。
（課題）外部のレンタルサーバーを使用するため、知的所有権等情報リテラシーに関して習得度に応じた指導が必要である。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○	○	○		○	○				

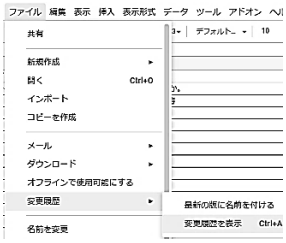
ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	三重県	学校名	三重県立宇治山田商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	Googleclassroom とスプレッドシート		

１　科目名「ビジネス経済応用」
　２年生　３単位　選択必修
２　授業概要
単元名「地域の課題を掘り起こしてみよう」内容「グループワークで地域の課題について、ブレインストーミングを行う」特色「過疎地域ならではの課題を出し合い、自分の地域を見つめ直す」
３　授業実施上の工夫
　共有ドライブにスプレッドシートに図のように、番号（1～100)、内容、の枠を作る。
テーマに地域の課題をあげて、グループで理由や、解決策、そこから関連されることなど自由にブレインストーミングをグループで行って記入していく。
その後、分類・理由を入れて分類分けを行う。最後にその内容の要因を内的要因外的要因に分けていく。
スプレッドシートが完成したら、課題の中から解決に向けたビジネスプランを考えられるモノを結びつけて、プランを考えていく。

	A	B	C	D	E	F	G
1	ブレスト						
2	テーマ４なぜ第1次産業の後継者が不足していくのか。						
3	番号	内容	分類	理由	内外的要因		
4	1	最高に可愛い海女さんを呼ぶ	0	癒し	内	0	癒し
5	2	泳ぎたい	0	癒し	内	1	人口
6	3	高齢化による生産効率の低下	1	人口	外	2	労働条件
7	4	後継者不足	1	人口	外	3	情報
8	5	そもそも農家が少ない	1	人口	外	4	自然環境
9	6	少子高齢化	1	人口	外	5	変化
10	7	キツそうなイメージがある	2	労働条件	内	6	グローバル化
11	8	収入が安定しない	2	労働条件	内	7	メンタル
12	9	他にも農家がいる中で、味、新鮮、品質の良い商品を作れないと売れていかない	2	労働条件	内	8	関わり
13	10	多くの初期費用が必要になるから	2	労働条件	内	9	技術
14	11	バイト感覚で出来ない	2	労働条件	内		

４　評価方法
　スプレッドシートの変更履歴で、いつ、どの生徒が何を書き込んだかをあとで確認することができるので、それを参考に記入を行う。グループワークの時は、自己評価、他者評価、その日一番活躍した生徒などを日誌に記入させる。



（宿題締切前日の作業の状況）

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	多角的に課題を考えることができているか。課題と地域を結びつけて考えることができているか。	課題の本質をとらえているか。	記入量・操作回数など

５　成果と課題
　生徒は自分のスマートフォンでいつでもどこでも作業ができ、学習内容を生活の中で考えることができたので大変好評だった。通信にかかる費用は生徒の負担になるので、家庭での環境に大きく左右されることが課題。
６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○		○			○	○	○	○	

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	滋賀県	学校名	滋賀県立八幡商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	電子黒板、タブレット、パソコン		

1　科目名「 課題研究　観光基礎講座 」

①履修学年：３学年

②単 位 数：３単位

③履修形態：必　修

2　授業概要

①単 元 名：「⑫観光がもたらす経済効果を考察する」

②内　　容：近江八幡市の観光がもたらす経済効果を考察するために、いくつかの観光地の市場調査を実施するとともに、市が公表しているデータを活用して経済効果を考察する。

③特　　色：市場調査はアンケート形式の調査だけでなく、タブレットを使って動画を撮影し、観光客の流れやニーズの把握に努める。調査結果は電子黒板を利用して発表させる。

3　授業実施上の工夫

市場調査の実施時に、近江八幡市の観光地である伝統的建造物群保存地区（八幡堀、新町通り）においてタブレットを使った画像撮影も行うので、生徒の情報活用能力を伸ばすためにパソコンでの編集を行い観光甲子園に参加した。

①電子黒板の利用：教材の提示や、生徒の発表時に撮影動画を再生するのに利用した。

②タブレットの利用：市場調査時にタブレットを使って動画を撮影させた。また、ネットを使って資料等も探させた。

③パソコンの利用：タブレットを使って撮影させた動画を編集するために利用した。

4　評価方法

・出席状況　　・取り組み姿勢

・聞く態度　　・発表態度

以上を総合的に評価している。なお、生徒の発表については相互評価も実施している。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	観光ビジネスにおけるマーケティングに関する知識を、具体的な事例と関連付けて理解している。	観光ビジネスに関する課題を発見し､それを踏まえ科学的な根拠に基づいて、企画･実施し評価・改善することができる。	観光ビジネスについて自ら学び、観光客の動向などを踏まえて、企画に主体的かつ協働的に取り組むことができる。

5　成果と課題

①観光がもたらす経済効果を多方面から考察することができた。特に、市が発表しているデータを利用できたのは良かった。

②タブレットを利用しての動画撮影は、観光客の目線を考えるうえで役に立った。また、観光甲子園への出場参加は生徒に近江八幡市の観光ビジネスを深く考えさせる契機となった。

③４～５人のグループで取り組み、対話的で協働的な学びとなったことは成果であった。

課題としては、動画をタブレットで撮影する技術や、動画編集ソフトを使いこなすことにかなりの個人差があり、特定の生徒に負担がかかったことがあげられる。

6　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○		○		○		○		○	

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	京都府	学校名	京都府立大江高等学校
授業で活用しているICT機器など	iMac・MacBook・iPad・Switcher・デジタルビデオカメラ・一眼レフカメラ・照明機器・レフ板・音響機器・Zoom・モニター・Wi-Fi		

１　科目名「ビジネス実践」

ビジネス科学科３年生３１名が４単位（必須）の授業において、地域との連携を深め、協働活動による地域創生活動を実践している。様々な活動を通して、主体的に取り組める姿勢や活用できる能力を育む。ＥＣサイトでの地域特産品販売をはじめ、各種イベントの企画・運営や販売実習、商品開発、観光ツアー企画・運営、地域課題解決策の提案など、地域社会に貢献できる資質能力の向上を目指している。

２　授業概要

本授業では、ＩＣＴ技術を活用した映像コンテンツの配信による番組制作である。広報活動として必要な観光紹介ビデオやYouTubeライブ配信、地域企業のＣＭや商品説明を配信する上で、映像コンテンツの配信技術や質の向上は欠かせない。そこで、事前学習として映像表現の視点を高めるために、映画監督を招聘して「映像メディアデザイン論」を開講した。また、大学教授からYouTube配信の魅力や注意事項、編集、配信の技術を学び、スキルアップにつなげた。事後学習として、地域経済に貢献するために企業ＣＭや商品紹介の映像コンテンツを配信できるサイトを立ち上げ、検証を重ねる。

３　授業実施上の工夫

番組制作にあたり、全員が主体的に取り組める環境を整えるために４名の教員を配置した。中継地点もあり、各担当が責任を持って役割を果たせるようにＩＣＴ機器の技術サポート体制を充実させた。

４　評価方法

最先端のＩＣＴ技術を使いこなし、一人ひとりが脚本や司会・出演者・カメラマン・照明・音響・配信・編集などの役割を理解し、番組制作に役立つことができたかを評価の観点とする。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	映像コンテンツを配信する方法を理解し、ＩＣＴ技術を活用できる知識とスキルを身につけることができたか。	配信する映像コンテンツについて考察し､視聴者に分かりやすい表現ができているか検証する。	自分自身の役割を理解し、全員で番組制作に協力し、積極的に関わることができたか。

５　成果と課題

YouTubeライブ配信による番組制作を通して、自分自身の役割を理解し、クラス全員で映像コンテンツの配信に貢献しようとする姿勢を育むことができた。また、最新のＩＣＴ技術を活用し、映像による地域社会に貢献できる力を身につけることができた。今後は、いかに地域社会に貢献できるのか検証し、その必要性について理解させることで未来につながる活動を展開していきたい。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
									○

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	京都府	学校名	京都府立京都すばる高等学校
授業で活用しているICT機器など	タブレット端末(教員)、スマートフォン(生徒)、プロジェクター		

１　科目名「ビジネス基礎」
商業に関する学科（起業創造科・企画科）の１年生が全員履修。

２　授業概要
第４章　「企業活動の基礎」１ ビジネスと企業　（２）経営理念や起業家精神を大切に
実在企業の経営理念や、起業家の取り組みなど、関連の内容を調べさせ、共有することで理解を深める。
これからの社会で必要となる前例主義にとらわれない一歩前に踏み出し挑戦しようとしている姿勢を身につける。

３　授業実施上の工夫
・ペアワークの際にはペアの１人がスマホを用いて、ペアで出た意見を事前に用意したWeb入力フォームで入力し、黒板のスクリーンに映し、全体共有を行った。
・授業プリントに参考となるHPや動画のQRコードを掲載し、自宅で振り返るように工夫をした。できるだけ教科書にはないが、関連するものを提示し、社会とリンクした学習ができるように工夫した。
・授業で提示していたスライド資料をクラウドサーバーへアップロードし、自宅で振り返りができるように工夫した。
・ペアワークの際に分からないことやさらに調べたいことなどをスマホで調べさせた。

４　評価方法

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	経営理念の概要について理解出来ると共に、ICTを活用することによる実際の企業の経営理念を共有し、理解を深めることが出来たか。 起業することの重要性が理解出来ると共に、ICTを活用することで、起業家の生の言葉から経営に関する熱い想いを知る事が出来たか。	経営理念の大切さを知る中で、これからの社会で必要となる前例主義にとらわれない一歩前に踏み出し挑戦しようとしている姿勢が身についたか。 起業家精神を理解する中で、生徒自身に何事にも挑戦しようとする姿勢が身についたか。	経営理念の大切さを理解する中で、興味、関心がある企業についての経営理念などを自らが調べようとしたか。 挑戦することの意味を理解し、学校生活全般において様々な事に挑戦しようとする態度が身についたか。

５　成果と課題
成果：ペアワークの全体共有が容易にできるため、多くの意見を一気に共有することができた。調べ学習に関しては自分の使い慣れた端末を使用するため、検索に時間を費やすことなく、スムーズに授業が進んだ。
プリントに参考資料を載せることで、自宅でその単元のことについてさらに詳しく知ろうとする意識が身に付いた。→社会とのリンク
課題：プライベートで使用している端末であるため、SNSを勝手に利用する生徒もいた。使い方についての指導については課題が残る。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○		○			○	○	○		

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	大阪府	学校名	大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校
授業で活用しているICT機器など	iPad　スマートフォン　Wi-Fi 環境		

１　科目名「情報処理」
　１学年　３単位　必履修

２　授業概要
　ビジネスに関する情報を収集・処理・分析、表現する知識と技術を習得し、情報の意義や役割についてして、ビジネス活動において情報を主体的に活用する能力と態度を養う。

３　授業実施上の工夫
　iPad、スマートフォンを用いて、クイズレットなどの学習支援アプリを利用し、知識の定着を図っている。授業形態は反転型授業を行い、アプリケーションの利用によって予習を促す。また、効果音アプリや、早押しアプリケーションの利用によりゲーミフィケーションを行い、教師が生徒のモチベーターとして役割を担い、自ら学習していけるよう工夫していく。

４　評価方法
　ICT 機器を利用した授業形態の評価としては、特別なことは行っていない。従来の授業と変わらない。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	コンピュータのハードウェア、ソフトウェアの活用に関する基礎的な知識を習得し、情報活用の意義と役割を理解する。	目的に応じた機器やソフトウェアを選択、利用し、情報を活用しやすい形に加工する工夫を行い、情報モラルを踏まえた適切な判断ができる	情報の収集、整理・加工、伝達に必要な情報技術を活用し，ビジネス活動において情報を主体的に活用する。

５　成果と課題
　ICT 機器を利用することで、勉学に対する障壁をさげることができ、反転型授業の実施を行うことができ生徒の放課後などの時間確保ができている。（宿題の廃止）検定取得率などからも授業効率があがっていることが実感できる。また、身近なことから ICT 機器を利用することで様々な場面で ICT 機器を利用する態度、技術を学ぶことが出き、ICT リテラシー、モラルも向上も行うことができている。
　課題としては保護者や、教員の ICT 機器への理解が進まないことや、知識、リテラシーの低さがあげられる。ICT 機器や ICT を取り巻く現在の環境について、生徒たちと同じ、それ以上に私たち大人が理解し、学習していくことが必要である。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○	○	○	○		○				

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	大阪府	学校名	大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校
授業で活用しているICT機器など	iPad　Wi-Fi環境　スマートフォン		

１　科目名「ビジネスマネジメントⅠ」
　２学年　３単位　必履修

２　授業概要
　ビジネスに関する知識・技術を用いて、経済社会で役立つビジネスプランを考案し提案する力を身につける科目である。ICT機器を利用し、他県生徒との交流や、パワーポイントなどのプレゼン資料の共同編集、会計監査法人や大学、企業による特別講演の遠隔実施などを行っている。

３　授業実施上の工夫
　授業においてはグループ活動を中心として、グループ毎にiPadを配布。プレゼン資料の提示、作成、アンケートなどの活動を、ICT環境の利用により行っている。またコロナ感染症による遠隔授業の実施などもビデオ通話アプリを利用して行った。
　課題の提出や、ポートフォリオの蓄積もデジタルで行い、いつでもどこでも振り返りや訂正などを行えるようにした。

４　評価方法
　評価方法については、ルーブリックを基本として行い、日々の生徒の活動、デジタル教材の蓄積などで行った。ノートについては日々の授業において作成は必須とし、書き方や内容は自由とした。提出はスマートフォンなどのカメラで撮影し、デジタルで提出させた。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	ビジネスの諸活動およびマネジメントに関する専門的な知識を身に付け、経済社会の一員として望ましい心構えについて理解している。経済社会におけるビジネスの意義や役割を理解している。	ビジネスの諸活動およびマネジメントに関する諸問題を、多面的な角度かつ自分事として捉え、熟考した選択肢から意思決定をおこない、その理由を表現できる。身近な物事に（置き換え･比べる･たどる）考えることができる。	ビジネスの諸活動およびマネジメントに関心を持ち、意義と役割を理解し課題解決に向けて主体的に取り組むとともに、将来ビジネス活動に取り組む一員として望ましい心構えや実践的な態度を身に付けている

５　成果と課題
　iPadを利用したグループ活動を行うことで、教材の共有やプレゼン資料の作成、調べ学習などを行うことができ、授業の幅が大きく広がった。また提出課題や配布物（プリント）などをデジタルで行うことで大きく利便性が上昇し、教材の共有も容易になった。またデジタル教材に拘らず、ノートの作成やメモ、模造紙を利用したプレゼンなども行い、様々な形での授業を行い効果、検証を行えている。
　課題としては、不十分なICT環境（iPadの数、Wi-Fi環境）によるトラブルがある。また家庭学習、提出などにおいても生徒による環境の違いによる個別対応が必要などがある。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	兵庫県	学校名	兵庫県立神戸商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	ＰＣ（ＨＲ教室移動時：携帯端末）、教材提示装置、プロジェクター		

１　科目名「ビジネス経済応用」
対象：情報科　３年生　単位数：３単位　履修形態：自由選択

２　授業概要
ＲＥＳＡＳ（地域経済分析システム）及びｅ－Ｓｔａｔ（政府統計の総合窓口）を活用し、産業構造の変化や経済の国際化など経済に関する知識を習得させ経済社会の動向について理解させるとともに、地域の資源を活用したビジネスプランを作成する。
１学期：第１章　第１節　産業構造の変化と労働　　レポート提出
ＲＥＳＡＳの産業構造マップ、人口マップなどを利用し、産業構造が変化した要因について調査、分析する。
２学期：第５章　ビジネスの創造と地域産業の振興
夏休み課題「自分の住む地域資源や課題について」　レポート提出
グループワーク「地域活性化に向けた新しいビジネスの創造」
①「地域活性化に向けた新しいビジネスプラン作成　②事業予算計画書

３　授業実施上の工夫
第１章　第１節　産業構造の変化と労働
・ＲＥＳＡＳを活用し、都道府県別・市町村別に産業構造・労働市場・消費構造の変化や違いを調査・比較し、産業構造の変化及びサービス経済化が進展した要因について分析したレポートを作成させる。
第５章　ビジネスの創造と地域産業の振興
・ＲＥＳＡＳやｅ－Ｓｔａｔなどを活用し、地域のビジネスの動向やビジネスに役立つ資源についての調査・分析を各自で行い（夏休み課題）、グループごとに発表させる。
・調査結果を基に、グループごとに地域産業の振興のための具体的なビジネスアイディアの考案、その実現方策の立案及び地域への提案を行う。
・大学等の各種コンテストに応募し、モチベーションを高めている。
・地域の課題を解決する新しいビジネスプランは、これまでの情報科の学びを活かしＩＣＴを活用したプランとしている。
・Google Classroom を活用し、グループワークを進めている。

４　評価方法
①　定期考査　　②　提出課題・・・ワーク、課題レポートなど
③　授業活動・・・学習への取り組み、プレゼンテーション（自己評価・相互評価）
観点別の評価基準：第１章　第１節　産業構造の変化と労働　　ＩＣＴを活用した場面のみ抜粋

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	産業構造の変化や労働・消費の変化に関する知識を身に付け、ＩＣＴを活用し、図表などの適切な資料を用いて数値的に示すことができるか。	産業構造が変化した要因と、労働・消費の変化との関連について、ＩＣＴを活用してグラフや地図などのビジュアルデータを用い、他者にわかりやすいレポートを作成しているか。	産業構造の変化や労働・消費の変化に関心を持ち、主体的にＩＣＴを活用し、情報を効率よく収集･分析し、理解しようとしているか。

５　成果と課題
成果：ＩＣＴを活用しデータ分析を行うことで、我が国の産業構造や地域産業に関する理解を深めることができた。また、「個別学習」、「協働学習」を効果的に行うことができた。
課題：各種のコンテストは２学期に提出のものが多く、授業の進め方に工夫が必要であった。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○	○	○	○	○		○	○	○	

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	兵庫県	学校名	兵庫県立豊岡総合高等学校
授業で活用しているICT機器など	Google Classroom・書画カメラ		

１　科目名「　簿記　」

対象：総合学科１年　　単位数：４単位　　履修形態：自由選択

２　授業概要

本校は、１年次に選択で「簿記」を、また２年次から簿記選択者以外でも「財務会計Ⅰ」「原価計算」を選択でき、３年次は「財務会計Ⅱ」となる科目選択になっている。

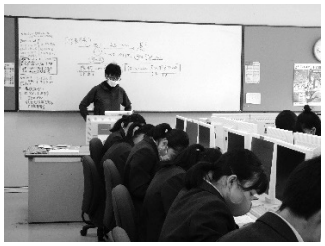
事前学習として、

・Classroom に予習内容を PDF で配信する。　・関連する動画などで予習する。

事後学習として、

・繰り返し演習できるように PDF の用紙を配信しておく。

・授業時に理解が不足していた点を Classroom で質問する。



３　授業実施上の工夫

「簿記」は帳簿記帳の方法や技術を指導するため、帳簿を板書するのに時間を多く取られるが、書画カメラを活用することで板書時間の短縮をし、教材などの書き込みも見せやすくしている。

また、授業時に使用した教材を科目の Classroom で配信することで、繰り返し演習できるようにしている。

あわせて、Classroom で問題演習時の質問もできるようにしている。

４　評価方法

現在は、従来の評価方法と変わりはないが、今後は Classroom で課題配信や理解度などの評価を提出させていく予定である。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・簿記の基礎的な知識を身に付けたか。 ・損益計算書と貸借対照表の作成法を理解し，作成することができたか。	・簿記を学ぶことの意義と必要性を考えたか。 ・進んだ決算整理を含んだ決算について，一定の方法に従って判断処理しているか。	・企業の簿記の意義と役割を知り，簿記の学習に興味を示し，学習しようとする態度がみられたか。 ・貸借対照表と損益計算書の作成に進んで取り組み，作成した財務諸表からビジネスの諸活動を理解しようとしているか。

５　成果と課題

昨年度は、入学時より２か月の休校期間があったため、急遽、商業の基礎となるプリントを郵送、ＮＨＫ高校講座の簿記のＱＲコードを同封して、取り組むようにした。また、簿記選択者の Classroom を通じて、質問を受け付ける双方向のやり取りを行った。この事前学習があったため、例年の授業進度と変わりない内容で進めることができた。

課題としては、Wi-Fi 環境がなく通信時間に制限があるため長時間学習できない、プリンターがなくプリントアウトできず反復練習ができないなど、各生徒の家庭環境によっては、自宅での学習に差が出ている。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○	○						○		

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	奈良県	学校名	奈良県立奈良朱雀・奈良商工高等学校
授業で活用しているICT機器など	タブレット・ＰＣ		

１　科目名

「電子商取引」３年生　３単位　必修履修

２　授業概要

情報コンテンツの制作
・静止画・動画・音声データの取得方法やこれを活用するための技法を習得する。
・科学的な根拠に基づいて、情報コンテンツを制作し、評価・改善を行う。

３　授業実施上の工夫

班ごとに分かれ、中学生の高校見学向けの学校紹介動画を作成することを目標に取り組ませた。
タブレットを活用して、静止画・動画を撮影し編集を行う。ターゲットを明確にすることにより視聴側の立場に立って考えることをさせた。また、撮影許可を取ったり、撮影のアポイントを取ったりと動画編集に至る過程においても学ばせた。学年末には管理職、他教科の教員も参加した発表会を行った。

４　評価方法

毎時間の活動報告書の提出、授業中の取り組み状況の観察、中間発表で完成品の評価、
発表会時の評価シートを使用した相互評価。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	情報発信に必要な機器やソフトウェアの利用および，作品作成の技法を身につける。	目的に応じた機器やソフトウェアを選択して利用したり，顧客の立場に立ったデザインに加工する工夫を行うとともに，分かりやすい情報発信ができる。	電子商取引システムの構築に必要な知識や技能を積極的に学ぼうとしている。

５　成果と課題

主体的に、意欲的に取り組む生徒が多数いた。
動画を編集する技術は、生徒はスマホ用アプリでのものは得意としているが、ＰＣソフトなどでは慣れておらず課題が残った。また、著作権・肖像権などを踏まえた上での撮影・動画編集などが事前学習も更に必要だと感じた。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○		○		○		○	○	○	

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	奈良県	学校名	奈良県立 奈良情報商業・商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	GoogleClassRoom		

１　科目名「情報処理」

第１学年４単位

２　授業概要

・ビジネス文書の作成
・情報の活用と情報モラル
・情報通信ネットワークとセキュリティ管理
・ビジネス情報の処理と分析
・総合演習
・プレゼンテーション

３　授業実施上の工夫

ClassRoom を利用して、動画配信、資料や宿題の配布、テスト機能を用いて小テストを実施。ストリーム機能を用いて、生徒の疑問点をクラスで共有し、教員からの回答を全員で確認させる。

４　評価方法

ClassRoom で実施した小テストや課題を評価に取り入れる。生徒へは、ClassRoom の機能としてあるルーブリックにて評価の基準を示しておく。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	情報活用の意義と役割を理解し、情報の収集や加工など基礎的な知識・技術を身に付けている。	目的に応じた機器やソフトウェアを使って、情報を加工する工夫を行うと共に、情報モラルを踏まえた判断ができる。	ビジネスにおける情報の活用に関心を持ち、情報を主体的に活用しようとする。 情報の収集、加工、伝達に必要な情報技術を身につけようとする。

５　成果と課題

小テストや課題を ClassRoom で自動採点することにより、生徒自身が学習の成果をリアルタイムで知ることが出来、意欲の向上につながった。教員も採点作業を自動化することにより、負担の軽減が出来た。
課題としては、ClassRoom では複雑な記述式の作問が出来ないことや、生徒個人が持つ情報端末や通信環境に差があるため、均一な学習環境の提供が出来なかった。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○		○			○		○		

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	和歌山県	学校名	和歌山県立和歌山商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	ゲームブック		

１　科目名「電子商取引」

３年　必修（情報系）

２　授業概要

電子商取引を学ぶ過程で身につけたウェブページ制作の知識や技術を地域課題解決に向けて応用し、情報発信を行う。

３　授業実施上の工夫

県より貸与された一人１台端末を使用し、チャットツールであるTeamsで活動班別クラスで情報共有や共同作業を進めている。また、校種を超えてTeamsで南海トラフ地震に対する防災減災という共通の地域課題について学習・共同作業を行うことにしている。

４　評価方法

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準		チャットツール上の共有画面において事前に示された項目が反映されているか。	

５　成果と課題

成果

コロナ禍において、人流が制限されている中で、共通のプラットフォームを通して多様な学び方を進めることができる。

課題

接続環境に左右される。バックアップ体制の整備

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○		○	○	○		○	○		○

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	鳥取県	学校名	鳥取県立鳥取商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	Windowsタブレット		

１　科目名「情報処理」
　履修学年：１年生　　単位数：３単位　　履修形態：必修

２　授業概要
　単元名：ビジネス情報の処理と分析　グラフの作成
　学習活動：
　①前時に作成済みのグラフをタブレットで開き、同じ指示を与えられた者同士で、そのグラフを選んだ理由について説明し、意見交換を行う。
　②タブレット端末を活用し、３つの異なる資料を与えられた者同士で一つのグループを組み、その内容をタブレットで見せながら、グループのメンバーに説明する。３人の説明が終わった後、グラフの特性について班のメンバーでまとめ、エクセルのシート上に入力する。

３　授業実施上の工夫
　タブレット端末活用のねらい：
　生徒の課題解決へのプロセスや結果を、効率的に可視化・共有化する。

タブレットＰＣを使って、自分が作成したグラフを示しながら、説明している様子

４　評価方法
　ルーブリック評価表を活用し評価を行った。授業の開始時に、生徒へ提示し、到達目標を明確にした。授業終了後は振り返りシートで目標達成具合を自己評価させた。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	グラフの特徴やグラフを構成する要素およびデータをグラフ化して分かりやすく表現することについて、実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、目的に応じたグラフの作成について関連する技術を身に付けている。	得られたデータからグラフを作成することについて思考を深め，基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し，導き出した考えを表現している。	データをグラフ化することに対して、必要な情報を集め、知識を活用し、自らの学びを振り返りながら、主体的かつ協同的に取り組もうとしている。

５　成果と課題
【成果】
タブレットＰＣを使うことにより、座席移動をしても、自分の作成したグラフをどこでも移動して見せることができる点がメリットである。意見交換をしている中で、指摘されたことをふまえて、その場でタブレットを活用し、グラフを修正する生徒も見られた。
【課題】
現状では、端末の台数が限られているため、授業の進め方に細かな工夫が必要。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
			○			○	○	○	

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	鳥取県	学校名	鳥取県立米子南高等学校
授業で活用しているICT機器など	ＰＣ、書画カメラ、iPad		

１　科目名「ビジネス情報（２年　４単位　選択必修)」

２　授業概要

単元名：表計算ソフトウェアの活用
内　容：全商１級レベルの関数の利用方法の理解
・オンライン授業なし
・事後学習：GoogleForm による問題演習

３　授業実施上の工夫

・Google Classroom の「質問」により、設問ごとの個々の生徒の理解度を把握して、再度詳しい説明をおこなったり、予定していた授業内容を修正したりして、動的に授業を進めた。
・GoogleForm の「テスト」により、リアルタイムで得点がわかるような小テストを行い、学習の到達度をはかった。
・Google サイトに問題の解説を掲載しておき、生徒が自主的に学習できるような環境を整えた。

４　評価方法

・ＩＣＴの活用が授業の目的ではなく理解度の把握のためなので、通常の授業内容に対しての理解や判断などを評価しており、ＩＣＴの活用場面を特に重視して評価を行っていない。

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価規準	情報通信ネットワークの導入やソフトウェアの活用について関心を持ち、ビジネスの諸活動において、コンピュータを主体的に活用する能力や態度を身に付けている。	情報を効率的に処理することの重要性について思考を深め、ビジネスの諸活動においてコンピュータを適切に運用するものとして適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	情報通信ネットワークの導入やソフトウェアの活用に関する知識と技術を身に付け、ビジネスの諸活動において適切な対応を合理的で効率的に計画し、その技術を活用している。	情報通信ネットワークの導入やソフトウェアの活用に関する知識と技術を身に付け、ビジネスの諸活動において情報を効率的に処理することの重要性を理解している。

５　成果と課題

年度の後半で積極的にＩＣＴを利用するようにしたところ、生徒の理解度の把握がとてもよくできることがわかった。年度当初は知識の伝達を急ぐあまり、ＩＣＴの活用が少なかったが、今後は年度当初からＩＣＴを活用して理解度を把握しながら授業を行えるとよい。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○									

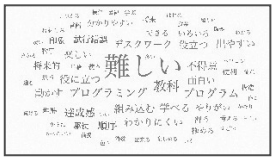
ＩＣＴを活用した授業の実践事例

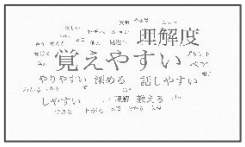
都道府県名	島根県	学校名	島根県立情報科学高等学校
授業で活用しているICT機器など	PC		

１　科目名「プログラミング」
　１年生、４単位、必修
２　授業概要
　教　科：　商業
　　科目名：プログラミング
　　単元名：第３章　プログラミングの応用　２節　配列の利用　配列による順位付け
1)アンケート調査(実態調査)・・・・7月実施
(2)授業の実施
・1学期は、対面式の授業形態
・2学期以降、ペア、グループによる授業形態
・研究授業1回目　チャットを用いたペアによるプログラム作成(12月)
・研究授業2回目　jamboardを使ったグループ学習によるプログラミング(2月)
(3)アンケート調査(ペア、グループ学習による効果の調査)・・・2月実施
(4)検証・まとめ
３　授業実施上の工夫
　ＩＣＴ機器を活用した協働学習を行なった。プログラムを入力する際に、repl.it というサイトを活用し、ペアで協働しながらプログラムを作成する活動を行なった。その際に直接的なコミュニケーションのみではなくチャット機能を活用することで直接的なコミュケーションが苦手な生徒でも取り組みやすくした。また、自席で交流を測れるため席を移動することなく自分のＰＣ上で協働学習が可能な点がメリットである。
４　評価方法

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	一連の手順に沿ってプログラミングを行う技術を身に付けている。	配列の有用性について基礎的・基本的な知識を身に付け、その適切な利用法について理解している。	チャット機能を積極的に活用し、お互いにコミュケーションをとり、プログラムを実行することができる。

また、チャット機能での会話内容を評価に使用した。
５　成果と課題
データテキストマイニングによる分析　https://textmining.userlocal.jp)
　Repl.itやグループで協働しながらプログラミングを行う前と後で生徒にどのような変化があったかアンケート調査をした。その結果、実施前アンケートの結果では、「難しい」「わかりにくい」のキーワードが頻出していたのに対して、実施後のアンケートでは、「覚えやすい」「理解」「深める」「教える」「分かる」といった言葉の割合が多くなっていることが分かる。
　「難しい」「わかりにくい」「不得意」と感じていたプログラミングが「覚えやすい」「理解」「深める」といった感想に変化している点やペアで学習することで「やる気が出る」と感じる生徒が多くいる点を踏まえるとプログラミングの協働学習は、学習意欲を高めること、理解を深めことに一定の効果があると考えられる。また、協働学習によって対話的な活動や機会も増えるため、結果として、自分の意見を伝える能力を高めることにも有効であると言える。





６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
							○		

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	島根県	学校名	島根県立松江商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	教材提示装置、iPad、ＰＣ、プロジェクター		

１　科目名「総合実践」

３年情報処理科、４単位、必修

２　授業概要

IT 人材育成事業

島根県内 IT 産業の持続的な発展に資する IT 人材の早期育成・掘り起こしを図るため、IT 企業との連携により、県内 IT 産業の IT 人材ニーズに応じて企画授業の立案、構築・検証、展開等を行っている。この事業は、平成 27 年度から、県商工労働部、地元 IT 企業との協力により、IT 実践力を習得するための講義・演習等を行い、授業内容の教材化に取り組んでいる。

講義・演習内容は、Ruby on Rails を活用して、チーム単位でプロジェクトマネージャの進捗管理(PDCA)のもと、システム開発を行っている。５月に授業を開始、演習し、２月に成果報告を行っている。

３　授業実施上の工夫

ソフトウェア開発では、プロジェクト管理ソフトウェア「Planio」、バージョン管理・共有ソフトウェア「Subversion」を活用して、演習の効率化を図っている。

また、協力 IT 企業の代表取締役が東京都在住のため、「ハングアウト」を利用したリモートによる講演を行っている。

４　評価方法

営業日誌の記載内容、プロジェクト管理ソフトウェア「Planio」のコメント、バージョン管理・共有ソフトウェア「Subversion」のコミットを回数、内容を評価内容としている。

５　成果と課題

毎年、地元 IT 企業のプログラマ、システムエンジニアに１０名程度、情報に関する大学・専門学校に１０名程度就職、進学している。

授業内でしか IT 企業の方に、質問することができない。今年度は、リモートで質問ができる曜日・時間を計画している。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○	○	○	○			○	○	○	

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	岡山県	学校名	岡山県立倉敷商業高等学校
授業で活用している ICT 機器など	PC（デスクトップ）・プロジェクター・画像転送機能・GWE（Google スライド・フォーム）		

1　科目名「課題研究」講座名「地域経済探究」３年生４０名・２単位・選択

2　授業概要

１学期前半課題「編集力を高めるためのコト POP・新聞作成」

課題①　倉敷美観地区の散策 POP（自分の気に入ったコンテンツ）**右図**

課題②　Web メディア「くらとこ」のコンテンツからコト POP 作成

課題③　「和」の趣を持つ商品やスポットを紹介するコト POP 作成

課題④　他県の観光資源から「和」コンテンツを紹介する新聞を制作する　想定は４時間（2 時間×２）

課題④の授業展開

導入	くじ引きにより、担当都道府県決め	
展開	各県の「るるぶ情報誌」で観光情報全体を把握する。 RESAS（地域経済分析システム）「消費マップ」POS 情報から「各県でよく売れているもの」を把握する。 Google スライドにて作業し、収集した情報を共有する。 「和」コンテンツ・各県売れ筋商品を中心とした記事を編集する。ビジネスとして、成立している視点を重視。 担当都道府県の新聞作成（B4 版・手書きによる）	４０都道府県の編集作業を同時に行う。 他者の作業や編集過程を閲覧し、参考にする。
まとめ	Google フォームによる振り返り	

3　授業実施上の工夫

①　情報探索には、RESAS（地域経済分析システム）を用いて、客観データの把握をし、観光資源や特産品との因果関係をつかむ。

②　Google スライドを協働制作することにより、互いの着眼点を知り、比較、再検討の機会とする。

Google スライド編集中

4　評価方法

ルーブリックにより、点数化し、レーダーチャートを作成している。

学期に２回（年間５回）の評価紙の記述から、変容を把握する。

評価項目と４月末時点の平均（５段階）を以下に示す。「課題発見力 3.075」「知的スキル 2.677」「探究スキル 2.462」「人間関係構築力 2.707」「学びに向かう力 2.775」である。

学習評価の規準として、以下の観点を設定している。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	Google スライドが A 工夫して使用できる。 B 使用できる。 C 使用できない。	G-form 入力　他県観光資源 A　比較しながら、言語化 B　担当県のみ言語化 C　単語による言語化	共有スライド・G-form 入力 A　時間かけ工夫・分量８割以上 B　工夫あり・分量６割以上 C　必要用件のみ単語の羅列

5　成果と課題

RESAS 活用は、１年生「総合的な探究の時間」に習得し、２年生でも科目に応じて活用している。ルーブリック評価の「課題発見力」は高く、１年生からの「総合的な探究の時間」等の積み上げの成果である。一方、「探究スキル」は低く、今後の探究学習の中で鍛えていくべき課題と感じている。GWE などを、生徒が主体的に適切な場面に活用できることが目標である。令和６年度より国際経済科３単位（40 名全員）、商業科２単位（選択・想定として 100 名以上）で「観光ビジネス」が開講される。この課題研究講座はそれらを履修している生徒がいる中、観光をテーマとして展開するイメージで実施している。

6　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○		○	○	○	○	○	○	○	

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	岡山県	学校名	岡山県立笠岡商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	タブレットＰＣ、プロジェクタ、スクリーン、実物投影機		

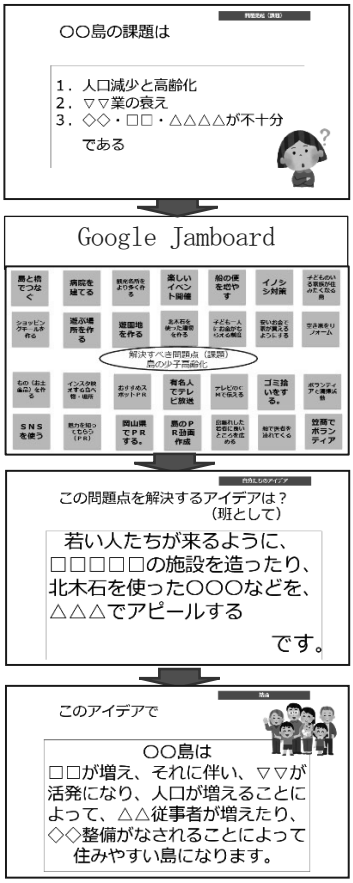
１　科目名「ビジネス基礎」　商業科１年（全員履修）

２　授業概要　高等学校学習指導要領「商業」

（６）身近な地域のビジネス　　ア．身近な地域の課題

※テーマ：笠岡諸島のチェンジ・メイカーとなる・・４時間

主な学習活動	
第１時：笠岡諸島の良さ・魅力を知る。	①○○島はこんなところが素晴らしい ↓ ②○○島の課題は？ ↓ ③この課題を解決するアイデアは？ ↓ ④このアイデアで○○島は？
第２時：笠岡諸島の問題点を見つけ、その中で課題を設定する。	
第３時：課題を解決するためのアイデアを考察、班内で発表し、話し合う。	
第４時：まとめたことを、説得力があるように、根拠を持って発表する。	



３　授業実施上の工夫

（１）RESAS for Teachers「地方のチェンジ・メイカー育成プログラム」の教材を活用し、一人ひとりが「笠岡諸島」のチェンジ・メイカーになりきって、取り組ませる。

（２）授業内容として、

①笠岡諸島の魅力をタブレットＰＣからＷｅｂで調査する。

②ＫＪ法で、タブレットＰＣからGoogle Jamboardを活用、課題や課題解決に向けて個人が意見を出し合い、グループごとに課題を整理・分類し、スライドを作成する。

③グループごとに発表を行う（それぞれで評価）。

（３）学習の基盤となる言語活用能力、情報活用能力、問題発見・解決能力のもと、地域の課題を発見させ、生徒が将来、当事者意識を持って、地域社会に参画できることなどをねらいとする。

４　評価方法

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	笠岡諸島について、班内で調べたこと、考えたことをスライドにまとめ、根拠を持って発表することができる。 <観察><ＰＰ資料>	笠岡諸島の課題から、その課題を解決するための具体的アイデアを多く考え、班内で人の意見も尊重しながら共有することができる。<観察>	笠岡諸島についての良さ、魅力をパンフレットやＷｅｂで積極的に調査分析し、班内で意見を出している。〈観察〉 ＜Google Jamboard内容＞

５　成果と課題

（１）授業を通して、笠岡諸島の課題を知るとともに、タブレットＰＣを活用した操作（Google Jamboard 、Microsoft PowerPoint 含）の習得、また、「グラフや図を使うことでとても分かりやすく表現できる」などの「気づき」があり、今後の意欲につながる授業展開となった。

（２）ＫＪ法では、タブレットＰＣでGoogle Jamboardを利用したことで、意見交換が活発的に行われ、とても効果的であった。付箋紙で実施するよりも、意見が出やすく、分類もしやすかった。多くの場面（他教科も含めて）活用できる。また、オンライン授業でも実施できる（別科目で実施済）。

（３）今後は、発表時に地域の方を招聘し、地域の方からの視点でのアドバイスをいただく。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○		○		○		○	○	○	

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	広島県	学校名	広島市立広島商業高等学校
授業で活用しているICT機器等	デスクトップパソコン、レンタルサーバ、ペンタブ、教材提示装置		

１　科目名「電子商取引」
履修学年：３学年　　履修形態：選択必修（８コース展開、情報企画コースの必須科目）

２　授業概要
（１）電子商取引の概要と関連法規の学習
（２）ビジネスプランの作成
（３）ネットショップの内容の決定
（４）Ｗｅｂ素材の制作とサイト構築
（５）ネットショップの運用
（６）総括会議

３　授業実施上の工夫
・教材提示装置を活用し、画像や図を示し理解が深まるよう、一斉講義形式の授業を展開している。
・自学自習の姿勢が身に付くよう、難解な用語も調べ、パソコンを利用し、まとめさせている。
・体裁良く文書を作成する能力が身に付くよう、取扱希望商品を調べ、まとめる作業を課している。
・社会情勢や地域から自分事として、課題を発見できるよう、自分なりの提案をさせている。
・地域に関心をもつよう、他社との差別化を図っている企業や商品を調べる場面を設定している。
・サイトの魅力が向上する構築ができるよう、色や画像、レイアウト等、焦点を絞り、注目させている。
・教員が意図的に、他者と対話をしながら協力して、意見を出し合う場面を設定している。
・お客さまを喜ばせる力が身に付くよう、生徒が主体的にお客さまとやり取りを行う方針をとっている。
・業務の進捗度を共有できるよう、「報告連絡相談」を徹底し、連絡システムを構築している。
・ＰＤＣＡサイクルで取り組む思考を持たせるよう、次回の取組について意思決定させている。

４　評価方法
教材提示装置を活用し、生徒作成のネットビジネスの企画案についてプレゼンテーションさせた。発表態度、ＩＣＴ機器の活用力や、ＰＣで作成した資料の質、お客さま視点で魅力等を数値化して評価した。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	ネットショップの仕組みを理解し、Ｗｅｂ素材制作やサイト構築に活用できている。	ターゲットや社会情勢、地域の課題を捉え、解決に結び付く方策を考えることができている。	実社会のネットショップに関心をもち、自ら調査し、実習に応用しようとしている。

５　成果と課題
（１）成果
・生徒がＩＣＴ機器を使いこなし、地域や経済社会の実情を調べ、感じた課題を解決するために、ネットショップでできることを協議し、計画からネットショップの実習に結び付けていること。
・ネットショップの実習後に、取り組みを振り返り、ＩＣＴ機器を利用した発表で共有できたこと。
（２）課題
・ネットショップの準備段階において、役割分担により業務遂行の効率化が図れたが、他の業務について知ることができるよう、ネットワーク上の共有フォルダやファイルの利用を推進すること。
・個人情報を取り扱う責任や対面でない相手の立場に寄り添うネットワーク上でも、相手を思いやる笑顔のキャッチボールが実現できるよう、常に最善の対応を考える実践を重ねること。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○		○	○	○		○	○	○	

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

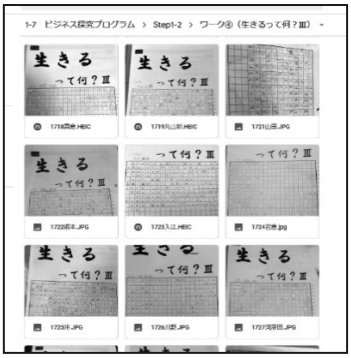
都道府県名	広島県	学校名	広島県立広島商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	Web 会議システム（Zoom）及び，ＰＣ等端末		

１　科目名「ビジネス基礎」,「情報処理」
　履修学年：１年，単位数：各２単位，履修形態：必修

２　授業概要
　令和２年度４月・５月臨時休業中に Zoom を用いたオンライン授業（試行版）を実施。１学級単位（生徒 40 名）の授業で，プレゼンテーションやグループディスカッション等の学習活動を行った。

３　授業実施上の工夫
○授業の進め方
・生徒は，事前に配付済みのワークシートを準備しておく。
・２名の教員で進行（T2→ミーティングの主催者，T2→生徒と同じ環境で参加）
　役割：T1…授業の進行を担当　スライド（パワーポイント）を，画面共有して授業を進行。
　　T2…Zoom 上の“参加者”で出欠管理。チャットによる個別対応（授業内容及び操作）
・生徒は，通信量を抑えるため，音声オフ・ビデオオフで参加した。
　発表等の際には，音声オン・ビデオオンを実施する。

○個別に記入したワークシートを，クラス全員で共有する学習活動
　①記入したワークシートをスマートフォン等で撮影
　②撮影した写真を，Google ドライブ上の指定したフォルダにアップ
　③クラス全員で閲覧 ※1



【※1 ドライブに写真をアップ】

○グループで意見交換する学習活動
　①授業者が，Zoom の機能の「ブレークアウトセッション」で，グループ分けを行う。
　　（※自動的にグループ編成もできる。）
　②生徒はグループ内で意見交換する。

○スプレッドシートに入力させる宿題
　①授業者は，生徒に授業の中で課題の指示を行う。
　②生徒は，授業者が事前に Google ドライブ上に準備したスプレッドシートに入力する。

【※2　授業者の様子】

○その他
　ネット環境等の理由から授業に参加できない生徒，及び授業欠席者への対応として，
　授業の様子を録画して，配信（オンデマンド方式）した。※2

４　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○		○			○	○	○	○	

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	山口県	学校名	山口県立防府商工高等学校
授業で活用しているICT機器など	Windows OS のデスクトップ PC、Windows OS のタブレット端末		

１　科目名「総合実践」
　３年商業科（３クラス）・情報処理科（１クラス）共に必修２単位

２　授業概要
　１・２年で学んだことを活かし、３年の総合実践では「地域連携」「地域活性化」をテーマに、市内民間企業や市役所の協力の下、長期のインターンシップとも呼べる現場実習を伴った授業展開を行っている。原則として１企業につき１グループ５人を配属させている。学習指導計画としては、４月のガイダンスを経て、５月以降それぞれのグループが企業と連携をとり約８ヶ月間実習を行い、１２月にその企業がより発展していけるような「提言」を行う。１月はレビューや反省など年間のまとめを行う。

３　授業実施上の工夫
　各企業との連絡は、電話と平行してできるだけ電子メールその他 ICT 機器を使った方法で連絡を取らせるようにしており、ネット会議やネットミーティングを取り入れる工夫もしている。
　毎回、授業の最後に実施報告書を提出させているが、すべてグループウェア上（ペーパーレス）で行っているので提出期日・時間が分単位で記録され、生徒の提出期限の意識向上につながっている。
　また、各グループは少人数で活動しているので、他のグループの活動状況が見えづらくなっているが、グループウェアの Web 報告に各グループの現在の状況を記載することにより、活動内容が「見える化」され、他グループ（＝他企業）とのコラボ企画のアイディアが生まれるようにしている。

４　評価方法
　この授業の最終的な目標は、地域の活性化を念頭に置いた生徒の意識向上（シビックプライドの醸成）であるので、まずそこに評価の重点を置く。加えて ICT 活用評価も重要であるので、場面に応じて適切に ICT 機器を活用できているかも評価の対象とする。（下記表は ICT 活用評価に絞っての記述）

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	各場面で使用したアプリケーションとその活用方法。	ICT 機器やソフトウェアの特性を活かした表現であるか。	毎回提出させる業務報告書の提出期限の遵守とその内容。

５　成果と課題
　それまで授業の中だけで完結していた ICT の知識について、これを総合実践の授業を通して現場実習に組み入れることにより、ICT 機器の実践的な活用が身についてきたことが成果と言える。
　ただし、生徒・教員双方からの様々な授業アイディアや要望を取り入れると、おのずと伝統的な PC 環境とタブレット環境の両方が必要となってくるが、各場面でこの両者を自分で判断して上手に使い分けられていない生徒が多いことが今後の課題である。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○		○		○	○	○	○	○	○

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	山口県	学校名	山口県立柳井商工高等学校
授業で活用しているICT機器など	デスクトップパソコン		

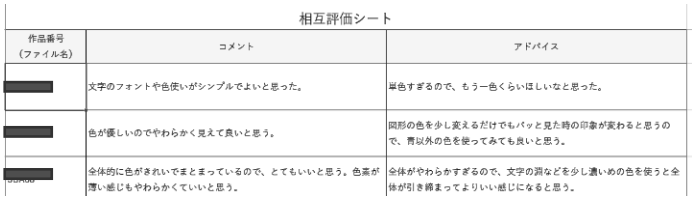
１　科目名「電子商取引」
　３年ビジネス情報科　選択科目　２単位

２　授業概要
　パソコンによる写真の加工、ロゴタイプの作成、Ｗｅｂページの作成などについて実技を中心に授業を行っている。写真の加工・ロゴタイプの作成ではアドビ社のフォトショッププロを活用している。Ｗｅｂページの作成ではジャストシステム社のホームページビルダーを活用している。作成したＷｅｂは校内サーバをＷｅｂサーバに設定しておき、ＦＴＰソフトによるアップロード実習を通して、授業内で公開できるようにした。

３　授業実施上の工夫
　ロゴタイプの作成実習をパソコンで行った。完成したロゴタイプは生徒による相互評価を実施した。その際にＧｏｏｇｌｅＣｌａｓｓｒｏｏｍを活用し、フォームを用いた生徒による評価を行った。評価の際には生徒同士で意見を交換しながら、生徒自身の判断で評価をしている。また、各個人に対して作品に対するコメントをつけるようにした。
　ロゴタイプの作成では、教員も含め受講者全員が評価を行うことから、生徒が高い目標をもってロゴタイプの作成を行えるよう工夫した。また生徒にロゴタイプの評価する観点（判断）を正しく持たせることにより、ロゴタイプを作成するポイントを押さえられるよう工夫した。

○作成したロゴ

○作品評価フォーム



相互評価シート

作品番号（ファイル名）	コメント	アドバイス
[redacted]	文字のフォントや色使いがシンプルでよいと思った。	単色すぎるので、もう一色くらいほしいなと思った。
[redacted]	色が優しいのでやわらかく見えて良いと思う。	同形の色を少し変えるだけでもパッと見た時の印象が変わると思うので、青以外の色を使ってみても良いと思う。
[redacted]	全体的に色がきれいでまとまっているので、とてもいいと思う。色素が薄い感じもやわらかくていいと思う。	全体がやわらかすぎるので、文字の調などを少し濃いめの色を使うと全体が引き締まってよりいい感じになると思う。

○作品評価コメント

４　評価方法

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	ロゴタイプの作成における知識・技術を有しているか。（操作技能・配色）	作品の相互評価（作品を選ぶ観点・思考・判断）が適切であるか。	生徒による相互評価の状況（特に作品評価コメントの内容から評価する）

５　成果と課題
　作品に対して他者の意見を多くとりいれることにより、自らの作品をブラッシュアップでき、よりよい作品に仕上げることができた。特に他社の意見をデジタル化したことはいつでも作品の作成に対して「ふりかえり」を行うことができる効果があった。今後はグループでの作品作成を通して、議論が生まれやすいような教材開発を行っていきたい。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○				○			○		

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	香川県	学校名	香川県立坂出商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	コンピュータ、プロジェクタ、インターネット、実物投影機、てるコーチ　など		

1　科目名「　総合実践　」
　３年、３単位、総合コース：必修

2　授業概要
　2学期：将来の社会人として、会社組織で働く姿勢を養う
　　「模擬取引実践」取引事例を元に、今までの学習を振り返りながら各種書類作成の基本を学ぶ。
　　「電話応対実践」電話応対の基本を学び、「てるコーチ」を用いた実践練習を行う。

3　授業実施上の工夫
「模擬取引実践」
　取引事例を元に、帳簿をはじめ帳票類を実際の現場で使われているワンライティング式の帳票などを利用して実際に自ら考え記入することで、取引を簡潔に記録する力や、必要な情報について考える力の育成をねらいとしている。記入にあたっては、具体的に注意すべき点などを実物投影機などを用いて視覚的に共有できるように工夫している。また、取引文書の作成などにおいては、インターネット等を利用して自ら文面を考えたり、記入のマナーについて学習したりしている。
「電話応対実践」
　具体的な会社組織での電話応対を、「てるコーチ」を用いて練習することで、より実践的な練習ができる。特に、取次場面での切り替えや、録音機能を使っての振り返りなどを他の生徒と共有することで、どのような注意点があるか具体的に理解することができている。

4　評価方法
「電話応対実践」
　会社組織でよくある電話応対の場面を5ケース準備し、二人ペアになって、電話応対の実技試験を行っている。取引先担当の生徒には、場面の設定の原稿をランダムに提示して電話をかけてもらう。受付担当の生徒（評価対象者）は、上司や同僚の名前や動向などを設定した用紙をもとにその応対にあたる。その時に、利用したメモ用紙や応対を観察し、「適切な応答」「言葉遣い」「態度」の観点で評価をしている。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	社会人として望ましい心構えを理解し、場面に応じた応対を身につけている。	電話応対についての場面に応じた適切な言葉づかいや態度を判断し、実践することができる。	電話応対のマナーなどに関心を持ち、実践しようとする意欲がある。

5　成果と課題
　高校生にとって、ビジネスの現場は容易には想像がつかない中で、単純に帳票を書くことや電話応対をするというシンプルな活動を通して知識の落とし込みができる機会となっている。この活動の中で、ビジネスの世界には正解がいくつも存在していることを理解し、自ら考える力を育成できているのではないかと感じている。しかしながら、必修科目でクラスの全員を相手に実施するには目が届きにくい場面もあり、指導方法や評価方法について今後まだまだ工夫が必要である。

6　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

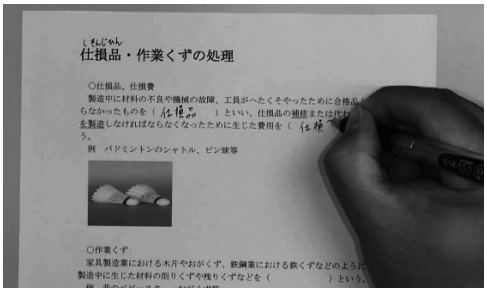
Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○		○	○			○			

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	香川県	学校名	香川県立高松商業高等学校
授業で活用している ICT 機器など	機材：PC、書画カメラ　ソフト：YouTube、LINE		

１　科目名「原価計算」
　２年商業科　進学コース　４単位（必修）

２　授業概要
　昨年度の休校期間中に実教出版の許可をいただき、同社教材を活用した動画配信授業を実施した。
　動画は書画カメラで撮影したものを「YouTube」にて限定公開でアップし、クラスＬＩＮＥにアドレスを送信した。４月～５月中旬の期間、１日に１５分以内の動画を１～３本アップして、普段の授業と変わらない授業進度であった。



(仕損品について解説する際、野球部が使っている公式球と練習球を用いて説明)

３　授業実施上の工夫
　まず、クラス全員が「YouTube」を見る環境が整っていることを確認し、情報担当の教員と協力して学校の Google アカウントを取得した。基本的に１５分以内で収録し、生徒が集中して取り組めるようにしている。すべての問題を解説せず、チャレンジ問題を設定し、自ら問題を解くようにさせた。分からないところや質問がある生徒はクラス LINE に入力し、その解説動画を配信することで、同じ質問を繰り返し解説する必要がなくなった。あらかじめ休校明けに問題集を提出する旨を伝え、答えだけを記入せず、解説した内容等も書き込むことで平常点を加点することを伝えた。

４　評価方法

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	単元の内容を理解できたか。単元の記帳法を理解し、適切に処理できるか。	積極的に質問をしているか。解説された問題だけでなく、チャレンジ問題も取り組み、適切に理解、処理しているか。	積極的に質問しているか。問題集提出の際、しっかり書き込みをしているか。チャレンジ問題も取り組んでいるか。

５　成果と課題
【成果】実施後のアンケートでは黒板を利用した授業よりわかりやすいという生徒も多く、何回でも振り返りができるので良いと感じた。板書をしなくても直接問題集に書き込めたり、机間巡視をしたりする必要がないため時間短縮できた。意識は高いが理解力の遅い生徒には良いスタイルだと感じる。
【課題】全生徒が YouTube を視聴する通信環境が整っていたために実施できたが、通信環境のない生徒がいた場合は厳しい。視聴数について確認できるが、誰が視聴したかまでは分からないので意識の低い生徒は視聴していない場合もある。休校明けのテストでは上位と下位の差がはっきりしていた。生徒同士のやり取りがなく、一方通行の授業になりがちである。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○	○				○				

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	徳島県	学校名	徳島県立徳島商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	パソコン　ヘッドセット		

1　科目名「課題研究」

第３学年　３単位　選択必修　70名

2　授業概要

徳島商業高校では，地域連携に関する校外行事として徳商デパートを実施している。しかし令和２年度は，新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から，オンライン形態での実施をせざるを得ない状況となった。そこで，Webページを作成し，オンライン上でのイベントを実施した。

本授業は，実践体験を行うことを重視している。地域企業等と連携しながらイベントテーマ（令和２年度は「雲より上はいつも晴れ，徳島から繋ぐ５つの輪」）を意識した商品開発を行い，オンライン徳商デパートを開催し，販売実習を行った。

【授業スケジュール】

４月・５月イベント企画，商品の考案（実物をイメージしての案作り）　６月企業向けプレゼン準備　７月企画プレゼン会　９月オンラインによる企業との協議，企画修正　10月Webページ・ポスター作成　11月動画作成　12月オンラインイベント実施　１月振り返り

3　授業実施上の工夫

①ポスター作り，Webページ作り，動画作りなど各ソフトの活用能力向上

②オンライン徳商デパートにおける国内外からの来客の対応，イベント体験（オンライン徳商デパートの各店舗の中にZOOMを埋め込み，来客時に商品説明や接客を実施，「外国人と話をしよう」というコーナーでは徳商生と外国人とのイベント参加者を繋ぎ，日本の観光地や文化紹介などを実施）

4　評価方法

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	ソフトウエアが適切に活用できる	イベントの主旨と自班が行っていることを理解し，ポスターやWebページなどで提言できる	個々が自分の役割を果たすと共にグループのメンバーと協働している。

本授業では，企画書およびプレゼンテーションを評価の中心としている。プレゼンテーションでは，関係企業などから外部の審査員と学校内部の審査員を選定し８名程度で評価を行っている。今年は新型コロナウイルス感染の影響もあり，外部の審査員については一部オンライン参加をしていただいた。

5　成果と課題

生徒たちは対面販売などの実習ができない環境下にもかかわらず，高いモチベーションで取り組むことができた。その結果，教員が想定していた以上に良くできたWebページが作成され，多くの参加（閲覧）者を迎えることができた。その一方，オンラインでの実施が決まったのが９月だったこともあり準備期間が短く，仕上げるために授業時間外の作業も多くなった。また，流通部分でもインターネット販売に不慣れであったことから，NPOなどの協力を得て実施したが，かなり煩雑な作業となり費用が多くかかった。

6　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○	○	○	○	○		○	○	○	○

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	徳島県	学校名	徳島県立つるぎ高等学校
授業で活用しているICT機器など	電子黒板　MetaMoji ClassRoom		

1　科目名「原価計算」
　第２学年　３単位　選択必修　15名

2　授業概要
　第３編「原価の部門別計算と製品別計算」第７章「個別原価計算」の３節「原価元帳と製造勘定の記帳」（教科書：実教出版）の授業において，「MetaMoji ClassRoom」を活用した。授業内容は，最初に電子黒板にワークブックの問題（PDF）を投影し一斉に生徒に説明し，次に配布された問題ファイルを生徒がタブレット上で解くというものである。その間，生徒の学習画面をモニタリングすると同時に，リアルタイムに添削・採点を実施した。事前には，タブレットペンやソフトの扱い方の練習をさせておき，事後には，ワークブックの同問題（紙媒体）を家庭における課題とし復習させた。

3　授業実施上の工夫
　「MetaMoji ClassRoom」では，生徒の理解度を示す表示方法として「できました」は青表示，「わかりません」は赤表示させることができる。この授業では，生徒の意思表示に対して，リアルタイムにアドバイスをすることができた。しかし，複雑な解答の場合，授業時間内での添削時間の確保が難しく，教材の工夫が必要であった。生徒の反応としては，個人の添削画面をそのまま電子黒板に投影しても，嫌がる者は誰もいなかった。反対に映し出されたクラスメイトの答案をじっくり見て参考にし，問題を解くなど，日頃，他者の答案を見る機会がないので教室に新鮮な空気が漂っていた。授業の展開を楽しみにしている様子であった。

4　評価方法

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	原価の部門別計算と製品別計算について理論と実務とを関連付けて理解するとともに，関連する技術を身に付けている。	原価の部門別計算と製品別計算の方法の妥当性と実務における課題を見いだし，科学的な根拠に基づいて課題に対応することができる。	原価の部門別計算と製品別計算について自ら学び，適正な原価の部門別計算と製品別計算による適切な原価情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組むことができる。

　簿記の記帳は本来，正確・迅速・丁寧に行うことが基本であるが，「MetaMoji ClassRoom」はタブレットペンを使用するため，文字入力が雑になる場合が多く，その点は考慮して評価しなければならない。反面，好きな色を使わせたりイラストなども描かせてみたりするなど，自由度の幅を広げ，日頃の会計分野の学習とは違う取組をさせることも評価の一つとした。

5　成果と課題
　成果は，電子黒板や「MetaMoji ClassRoom」の活用により，板書の負担が減り時間短縮が図られた分，授業が円滑に進むようになったことである。また，本来の教えるべきことに集中でき，生徒の学習への関心を集めやすくなったことも挙げられる。課題は，クラウドシステムに伴うタイムラグや機器の不具合による授業の中断など，予定していた展開ができないことである。また，次々と変わる映像は記憶に残らず，その場で理解したつもりになっていても，実際は十分に理解できていないという現状もある。ＩＣＴ機器の活用と口頭だけの説明の両方を適切に判断して，見て取る力，聞き取る力の養成を工夫しながら，個々の生徒の生きる力の育成をはかることが重要である。

6　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○	○		○			○	○	○	

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	愛媛県	学校名	愛媛県立松山商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	電子黒板、タブレット型パソコン、生徒のスマートフォン、学習支援アプリ（ロイロノート）、Ｗｅｂ会議ツール（Ｚｏｏｍ）		

１　科目名「マーケティング」
履修学年：２年生　　単 位 数：２単位　　履修形態：必修

２　授業概要
単元名：販売促進
内　容：広告の計画と実施
①販売促進の中で、広告が果たす役割とその重要性について理解する。また、広告メディアを選定する際には、予算の中で広告効果が最大になるような組み合わせを検討することや、他のメディアとの結びつきが持てるようなメディアの選定が重要であることについてロイロノートを活用した実践を通して理解する。
②広告業を担う広告代理店の業務についてＷｅｂ会議で学習し、実際の業務を確認する。

３　授業実施上の工夫
〈導入〉：実際のＣＭを視聴させ、ＣＭから受けた感想や意見をロイロノートで事前アンケートを通して集約した。

〈展開①〉：ロイロノートを活用して、生徒個人の意見を集約し電子黒板に投影することで、全体で意見の共有を図った。
教材資料として、屋外広告やＣＭを電子黒板に投影した。

〈展開②〉：Ｗｅｂ会議ツール（Ｚｏｏｍ）を活用して広告代理店の方に出演していただき、広告代理店の業務について詳しく説明聞き、質疑応答をオンラインで実施した。

４　評価方法
ワークシートの記述内容と、ロイロノートの記入内容で評価する。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	メデイアミックスとクロス-メディアの違いを理解している。	各メディアの特徴を理解した上で､適切なメディアの組み合わせを考え、表現している。	就職先の選択肢の一つとして広告代理店の具体的業務を理解している。

５　成果と課題
授業におけるＷｅｂ会議ツール（Ｚｏｏｍ）や学習支援アプリ（ロイロノート）を効果的に活用することができた。生徒が地域や産業界と連携することや、実際のビジネスに触れる機会を持つためにＺｏｏｍを活用することは有効であると感じた。しかし、遠隔地との交流には事前準備や打ち合わせが重要になることを改めて実感した。お互いが生徒に何を伝えたいのかを共有しておくことが重要である。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

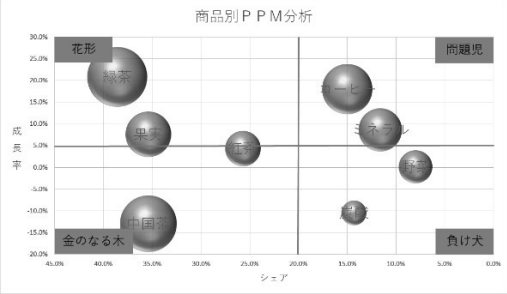
Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○				○	○	○	○		○

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	愛媛県	学校名	愛媛県立新居浜商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	携帯端末によるＢＹＯＤ		

1　科目名「ビジネス情報」
　履修学年　３年生情報ビジネス科
　単 位 数　３単位
　履修形態　必修

2　授業概要
　単 元 名　第３章　表計算ソフトウェアの活用
　内　　容　販売情報から得られる表やグラフを利用して、販売戦略をどのように組み立てればよいのかを考えさせることで、情報活用能力を育成する。
　特　　色　ポートフォリオを利用して、商品の戦略的な位置づけを明確にし、最適な経営資源の配分について考えさせる。事前学習として、ロイロノートにより問題を配布し、分析結果を記入した資料を提出させる。



3　授業実施上の工夫
　ロイロノートにより提出された資料をプレゼンテーションソフトにより提示し、経営資源の配分が最も効率的・効果的になる商品の組み合わせを発表させる。
　ポートフォリオ分析を利用して、商品の戦略的な位置づけを明確にし、最適な経営資源の配分について考えさせる。

ＰＰＭ（Product Portfolio Management）**について**

メリット
商品の戦略的な位置づけを明確にできる
経営資源の最適な配分ができる

デメリット
ある時点における商品の成長率とシェアを評価している
将来的には有望な商品が撤退という戦略的示唆になる場合がある

継続的・多角的な分析が必要

4　評価方法
　ロイロノートから配布した資料をもとに、表計算ソフトウェアを活用して集計、分析、シミュレーションが正しくできているか。
　資料から得た情報を多面的・多角的に分析することができているか。
　プレゼンテーションソフトを用いて、分析結果を具体的に説明することができているか。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	分析結果について、プレゼンテーションソフトを用いて具体的に説明できているか。	マーケティング分野で学ぶ商品ライフサイクルと関連付けて考察できているか。	多面的･多角的な視点から、ポートフォリオを正確に分析できているか。

5　成果と課題
　個人所有の端末を利用することで、生徒が興味・関心を持って事前学習に取り組んでいる。使い慣れた端末を利用するため、操作方法などを熟知しており、迷いなく操作できる生徒が多い。
　情報の保管や管理については、プライベートと授業の切り替えを徹底するために、個人端末で行ってよい作業の範囲を定めることが必要である。

6　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○		○	○		○	○	○		

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	高知県	学校名	高知商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	iPad　プロジェクタ　スクリーン　パソコン　Classi　ロイロノート パワーポイント　Keynote		

1　科目名「ビジネス経済」
　履修学年：２年生　単位数：３単位　履修形態：必修

2　授業概要
⑴　授業の到達目標　なぜ日銀は国債の引き受けが禁止されているのにも関わらず、買い付けを行うのかを論述することができる。
⑵　授業構成(流れ)　講義（25分）⇒記述・論述(15分)⇒ペアワーク・振り返り(10分)
　講義理解力型の大学入試に対応できるよう、記述・論述はペーパーに記入させた。また、Classiを活用して、振り返りを入力させた。

3　授業実施上の工夫
　生徒は、講義後の論述が評価の対象となるため、講義25分の間一生懸命になってメモをとるよう工夫した。また、メモは量を評価し、記述は質を評価することを明確に指示した。講義は、図・表・動画を多用したパワーポイントやKeynoteを用いた。

4　評価方法
　メモをもとに論述を作成するため、メモは量を評価し、論述は質を評価した。また、Classiへの振り返りの内容も評価に加えた。

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	我が国の国債への依存度および日銀が国債の買い付けを行う理由を理解していると記述・論述から判断できる。	我が国の国際への依存度および日銀が国債の買い付けを行う理由を筋道立てて、正確に論述している。	ワークシートに記入しているメモの量や質から、講義を聞いて理解しようとする姿勢が見られる。

5　成果と課題
　パワーポイントや動画を活用することで、生徒が板書を写したものをアウトプットするのではなく、数値やデータを能動的に図式化してメモできる力を養うことができた。今後は、講義とワークショップを融合させた授業の研究をすすめる。

6　このICTを活用した【学習場面】

A1	B1	B2	B3	B4	B5	C1	C2	C3	C4
○					○				

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	高知県	学校名	高知商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	iPad　プロジェクタ　スクリーン　パソコン　Classi　ロイロノート パワーポイント　Keynote		

1　科目名「原価計算」

履修学年：２年生　単位数：３単位　履修形態：必修

2　授業概要

科目「原価計算」における導入部分の授業として実施した。「『原価』が２つの視点から分類できることについて理解している。」ことを授業の到達目標として、生徒が「原価とは何か」についてイメージし、原価が直接費と間接費に分類されることを理解できる授業をめざした。

3　授業実施上の工夫

ブレーンストーミング（以下BS）では付箋紙を活用していたが、本時ではロイロノートを活用した。大型船を造るにはどのような種類の原価がかかるかをBSさせた。付箋紙を使うより多くのメンバーで考えを共有することが容易となった。また、原価の要素をより幅広い視点で考えることができるよう、授業の最初に造船会社のプロモーションビデオをスクリーンに投影し視聴させた。

4　評価方法

原価を直接費と間接費に分類する基準について理解しているかどうかは、授業の終盤に行う演習問題やワークシートの記述から評価した。また、原価を書き出す場面では、書き出したカードの量や気が付きにくい原価要素を書き出している点を評価した。

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	演習問題やワークシートの記述において、原価を直接費と間接費に分類する基準について記述している。	ワークシートの記述やグループワークでの発言において、直接費と間接費に分類する基準について、表現することができた。	ロイロノートのカードに書き出した原価の要素について、10 枚以上のカードを書き出している。また、多様な原価要素を挙げている。

5　成果と課題

成果：生徒全員がiPadを活用する場面を授業構成に盛り込むことができた。

課題：生徒がより能動的になるための課題や発問の研究

6　このICTを活用した【学習場面】

A1	B１	B２	B３	B４	B５	C１	C２	C３	C４
○						○	○		

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	福岡県	学校名	福岡県立小倉商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	電子黒板、スマートフォン		

1　科目名「　マーケティング　」
・履修学年：３年生　　・単位数：３単位　　・履修形態：必修

2　授業概要
・単元名：消費者行動
・内容：現代の大量消費社会問題を取り上げ、私たち消費者が問題と向き合い、持続可能な社会を創造するためには何ができるのかを模索する。その後、現在世界中で取り組まれているエシカル消費やフェアトレード商品の購入など、私たち消費者に課せられている問題解決のためのあらゆる行動をＳＤＧｓの内容も踏まえて考察する。
・学習指導計画
（１）本時の指導目標（到達目標）
○現代の大量消費社会問題を踏まえ、日頃の自身の購買活動の問題点を考察する。グループ活動により意見を共有し、メンバーが提案した問題点について考察する。
○持続可能な社会を目指すために、今の消費者に求められる購買活動手段について、エシカル消費やフェアトレード商品の積極的な活用などの内容を踏まえてグループ全体で考察し、クラス全体で意見を発表し、それぞれのグループの意見を共有する。
（２）本時の手立て
○グループ活動を用いて意見を共有し、発表する時間を設ける。
○ワークシート、電子黒板、生徒個人のスマートフォン（Microsoft Teams）を活用する。

3　授業実施上の工夫
　授業実施学級の生徒全員がスマートフォンを所有しているため、個人のスマートフォンで調べ学習を実施した。さらに、生徒全員がMicrosoft Teamsにおいて授業専用のチャットルームにアクセスできるため、これを利用し、電子黒板にチャットルームを表示し、調べ学習の結果を送信させ、クラス全体で内容を共有する。

4　評価方法

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	現代の大量消費社会の問題点を理解し、エシカル消費やフェアトレード商品の購入などの取り組みを理解するとともに、持続可能な社会を創造していくためのその他の取り組みについて自己で調べ、内容をまとめてTeamsにアップし、他人と情報を共有する。	現代の大量消費社会問題と自己の購買行動を照らし合わせ、問題点を考察し、解決策や持続可能な社会を創造するために取り組むべき新たな取り組みとして、何ができるのかを自己で調べ、写真やイラストなどを用いてわかりやすく表現することができる。	現代の大量消費社会問題に関心を持ち、持続可能な社会を創造するための問題点を主体的に解決しようとする態度を身に付けている。

5　成果と課題
　普段は全体での発言が苦手な生徒でもチャットルームにアップするという発表方法を用いたことにより積極的に自己で調べた内容を全体に伝えることができていた。さらに、生徒の発表内容をリアルタイムで電子黒板に提示することができるため、情報共有が迅速にできていた。持続可能な社会の構築に向け、職業人としての倫理観を持って創造的に解決する力を育成したい。

6　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○	○	○				○	○		

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	福岡県	学校名	福岡女子商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	Chromebook, Google Workplace, Quizlet, Progate, Paiza, Miro, テレビモニタ		

１　科目名「ソフトウェア活用（学校設定科目）」
　履修学年：３年　単位数：３単位　履修形態：必修

２　授業概要
　１学期は「ITパスポート」の取得を主な目標として学習を進めていますが、いくつかの教育機関向けのサービスを活用し、生徒が自立した学習者となるように工夫して授業設計を行なっています。具体的には、生徒一人１台 Chromebook 環境を活かし、①Spreadsheet で自作単語帳（兼 To-do リスト）を作り、②Quizlet で基礎的な知識を隙間時間に繰り返し学習（個別最適化）。データベースなど、実際の使用場面のイメージがつきにくい単元については、③Progate を利用して SQL を実際に操作する場面を設けています。④Paiza については夏休みの家庭学習として HTML&CSS の復習と、Phython の学習を行う予定にしています。

３　授業実施上の工夫
　福岡では３度目の緊急事態宣言が発令され、それに伴い自宅待機となる生徒も複数います。そのような環境でも学びを止めないように、また、現場の先生方の負担を極力増やさないように心がけています。具体的には、Google Classroom のそれぞれのクラスの Meet リンクを利用して家庭と教室を繋ぎ、資料は PDF 化してオンラインで取得可能な状態にしています。また、画面共有した状態で教室のモニタに映すことで、教室の生徒はモニタ、自宅の生徒は各自の Chromebook の画面上でスライド資料を見ながら学習する形をとっています。２学期からは、外部の講師とビデオ会議で繋ぎ、プログラミング学習（プログラミング思考）を通じて興味や学びがどのように深化するかを計測する予定です。

４　評価方法
　Quizlet や GoogleForms を活用して、基礎知識についての小テストを毎回短時間で行ないます。提出物等の課題についての評価は、GoogleClassroom の「課題」にルーブリック付きで配信し、学期成績の平常点として算入しています。また、Progate などのオンライン学習サービスは、登録した生徒の学習の進捗が把握できるので、最終的な締め切りと到達地点のみ提示し、各自のペースで学習を進めています。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	毎回ランダムに生成される択一式問題の正答率	ウェブサイトやコードなどの製作物	自己学習のゴールとして設定された目標の到達度

５　成果と課題
　学習の過程は「理解」「定着」「活用」であると言われていますが、専門用語や英単語などの基礎学力の「定着」と ICT の相性は抜群であると感じます。また、近年は質の高い Youtube の解説動画も多数存在しているので、「理解」の部分に関しても現場の教員が何をどこまですべきかをもう一度考える時期に来ているのかもしれません。しかし、獲得した知識を「活用」する場を提供できるのは授業者だけであり、いかに生徒のアウトプットの場面をデザインできるかが今後の１番の課題であると感じています。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○	○	○	○	○	○	○			○

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	佐賀県	学校名	佐賀県立佐賀商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	生徒用タブレットパソコン、古いスマートフォン 教師用タブレットパソコン		

１　科目名「財務会計Ｉ」

２年生　グローバルビジネス科　５単位　必修

２　授業概要

授業時間は、教授に集中し、演習は自宅でできるように、授業で行った内容の解説動画を Microsoft Stream にアップしている。（撮影は自宅で古いスマートフォンを使用）

３　授業実施上の工夫

授業で実施する内容の解説を、前日にアップしておく。

４　評価方法

※　演習や、復習に ICT を利用しているので特に、特別な評価方法はありません。

５　成果と課題

・演習の時間を授業中に取らないので、より多くのことを授業内で生徒に伝えることができる。
・演習の解説を動画にすることで、いつでも繰り返し確認することができる。
・検定対策を動画で行っているので、授業時間に余裕ができ、実務的な内容や経済・経営に関しての財務会計と関連した広く深い内容を生徒に学ばせることができる。
・モバイル機器等で視聴ができるため、通学時間を有効に使うことができる。
・生徒が、先生を捕まえなくても、オンデマンドに近い状態で自主学習できるので、教師が教材研究に集中できるとともに、働き方改革にもつながる。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○					○				

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	長崎県	学校名	長崎県立諫早商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	ＰＣ、タブレット、教材提示装置、プロジェクタ、スクリーン		

１　科目名「マーケティング」
履修学年：３年生　　単位数：３単位　　履修形態：コース選択科目

２　授業概要

活用例①　Microsoft Teamsを活用した確認テストや質問の受付と回答

各単元または、総合的にMicrosoft Teamsを活用しテストを実施。また、授業で分からなかった内容などについての質問を受け付け、回答している。

活用例②　グループワークの際の学習ツール

販売価格・販売経路の単元において、低価格販売を可能としている企業の事例動画をスクリーンに提示。

活用例③　地域企業とのミーティングツールやポスター等の制作

総合演習として、企業との協働授業を実施しているため、ミーティングや企画書作成、ポスター制作等のツールとしてＰＣやタブレットを活用。（ミーティングはZOOM、Cisco Webex、Teamsなど企業の実態に合わせて活用）

３　授業実施上の工夫

活用例①の工夫

生徒は、出題された問題を家庭で解く。教師は提出状況、解答状況を確認し正答率が低い問題については、後日、授業内で解説。受け付けた質問には、解説動画教材などを作成するなどして回答し、知識の定着を図っている。

活用例②の工夫

どのような企業努力が低価格販売を可能にしているか、動画内から推察されることを学んだ知識を活かして話し合わせ、知識の定着を図っている。また、ジグソー法を用いたグループ学習では、調べ学習ツールとしてタブレットを活用し、対話の活性化を図っている。

活用例③の工夫

コロナ禍の中での協働授業実施となったため活用。実際のビジネスシーンで利用されているアプリケーションを使用したミーティングを行うことで、実践力とコミュニケーション力の向上を図っている。

４　評価方法

課題提出や学習理解度（再テストによる点数の推移）による状況評価、グループ学習による成果物評価を観点別に評価している。

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	定期考査等	グループ学習等の表現活動	家庭学習状況や確認テスト

５　成果と課題

活用例①の成果

教員の仕事効率化と生徒の学習効率向上の両立。質問・回答をクラス全体で共有することで、同じ箇所でつまずいている生徒の悩みも解消している。

活用例②の成果

学んだ知識と実際のビジネスをつなげることで新たな発見や知識の深化を生んでいる。

活用例③の成果

直接会えないまでも、画面を通して表情や熱意が伝わるため、企業からの提案に対して応えたいという気持ちが高まり、責任感が生まれ、実践力を向上させている。

課題　全ての職員が活用できるよう研修を充実させていく。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

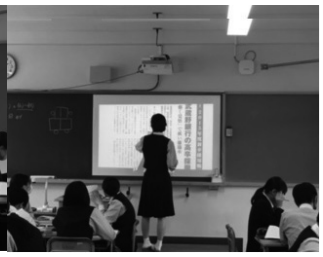
ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	長崎県	学校名	長崎県立佐世保商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	タブレットPC、書画カメラ、電子黒板（電子ペン使用）		

１　科目名「ビジネス基礎」
（学年）１年　　（単位数）２単位　　（履修形態）必修

２　授業概要
（単元名）商業の学習ガイダンス
（内　容）商業を学ぶ目的や心構えを教科書に沿って指導した後、産業と教育（産振中央会発行）に掲載されている「がんばる卒業生」を活用し、なぜ商業を学ぶか、何を学ぶか、どのように学ぶかについて考察させる。また、経済産業省が提唱している「社会人基礎力」を習得するための具体的方法についても考察する。

３　授業実施上の工夫
講義をする際は、タブレットPCや書画カメラを電子黒板機能付きプロジェクタに接続して、教科書や副教材を提示している。また、グループディスカッションの内容を全体に共有する際は、各グループの代表生徒が自グループの記録を電子黒板に表示したうえで発表している。



４　評価方法
自己（あるいは自グループ）の意見を分かり易く他者へ伝えるためには、ICT機器を適切に操作しなければならないため、ICT機器の活用については、「思考・判断・表現」の項目の一部として評価している。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	商業を学ぶ目的や心構え、商業の学び方やビジネスの概要について理解している。	商業を学ぶ目的や何をどのように学ぶかについて、自己のキャリア目標に即して考察を深め、分かり易く発表している。	商業を学ぶ目的や何をどのように学ぶかについて、自ら考え、主体的・協働的にグループ活動に参加している。

５　成果と課題
聴覚だけで情報を得ることが難しい生徒にとっては、情報提示装置を活用した授業やプレゼンテーションは効果的である。また、生徒がICT機器を活用して発表することで、プレゼンテーション能力が向上しているように感じる。課題としては、電子黒板がやや小さいため、後方の生徒に見づらい、快晴の日に電子黒板が見づらいことが挙げられる。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○						○	○		

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

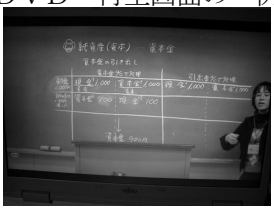
都道府県名	熊本県	学校名	熊本県立球磨中央高等学校
授業で活用しているICT機器など	ビデオカメラ、ＤＶＤ、パソコン プロジェクタ、スクリーン		

１　科目名「簿記」「管理会計」
　実践①「簿記」：熊本県立河浦高等学校（前任校、平成２９年３月閉校）普通科２年Ａコース（４単位）
　実践②「管理会計」：熊本県立球磨中央高校　商業科２年（２単位）総合選択科目

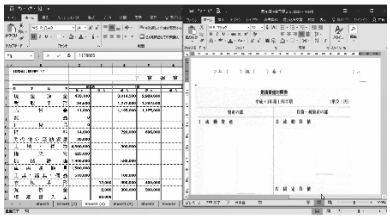
２　授業概要
　実践①「反転授業」指導者による解説ＤＶＤを生徒に渡し、宿題として家庭で視聴する。学校での授業時間を演習時間として確保し、指導する。
　実践②「２展開授業」１名の指導者が同時に習熟度別学習を展開するため、スライドへの録音機能を使用したものを学習教材とし、Ａ教室でスライドを視聴している間に、前時にスライドを視聴したＢ教室を演習の時間として確保し、指導する。

３　授業実施上の工夫
　実践①単元別に１０分程度の動画を収録し、複数単元を１枚のＤＶＤにまとめ、生徒へ渡す。授業計画を配布し、授業日までにその単元を視聴し、ノートにまとめることを宿題としてアナウンスする。学校での授業では、単元の目標の確認を行った後、問題演習を行う。各自で解く時間、答え合わせをする時間、グループで質問する時間の段階を踏む。次の時間には小テストで理解できているかを確認する。

【資料１　　実践①自作ＤＶＤ・再生画面の一例・グループ学習】



【資料２　実践②スライド】



４　評価方法

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①仕訳ができる。 ②見積貸借対照表・見積損益計算書が作成できる。	①動画を視聴し、わからない部分を班員に伝え、教え合いができる。 ②スライド動画を視聴し、わからない部分を同じグループに伝え、教え合いができる。	①動画の内容をノートに記入することができる。 ②スライドの内容を学習シートに記入することができる。

５　成果と課題　（○：成果　●：課題）
○動画を繰り返して見たり、メモが追い付かないときは一時停止をしたり、自分の理解度に応じて進めることができるため、内容を深めることができた。通常の授業では理解に時間を要する生徒が、他の生徒に説明する場面が見られた。（実践①②）
●動画を再生しながら、うとうとしてしまい、ノートなどへの記入内容が抜けていた。（実践①②）
●予習として見るべき単元を誤っていた。（実践①）
●指導者がついていない時間帯の教室において、生徒の指導が不十分になることがあった。（実践②）
○自宅で動画を見るため、家族も一緒に見ることがあり、保護者にとっては、子どもの学習内容を知るきっかけになった。（実践②）
○テスト前などの復習用学習教材としても活用できた。（実践①②）
○指導者自身が授業（説明）を確認でき、課題が見えやすい（撮り直しが可能）。（実践①②）

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
	○				○				

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	熊本県	学校名	熊本県立北稜高等学校
授業で活用しているICT機器など	タブレットＰＣ、教材提示装置		

１　科目名「マーケティング」
　　履修学年：２年生　　単位数：２単位（必修）
２　授業概要
　　使用教科書：東京法令出版　「新訂版　マーケティング」
　　授業単元　：第２章　マーケティングのプロセス
　　第１節　マーケティング環境分析（ＳＷＯＴ分析③）
　　（３）企業の外部環境分析（O/T分析）
　　本時の目標：　新型コロナウィルス感染拡大という社会の変化をＰＥＳＴ分析の手法を用いて分析させ、企業を取り巻く現状について具体的にかつ多面的に捉えようとする態度を身につけさせる。またマーケティングプロセスの第一段階である環境分析の重要性にも触れる。

学習活動	活動の内容
①事前レポート課題	各自ＰＥＳＴ４項目について、インターネットや新聞、書籍等によりコロナ禍による変化を調査しレポートを作成させる。【主体的に取り組む態度】
②グループ編成	ＰＥＳＴ各項目につき２班ずつ担当を割り当てる（計８班）。個人で収集したPEST情報（事前レポート課題）を班内に持ち寄り班員で情報を共有させる。
③班としての情報をまとめる（情報の取捨選択）	担当する項目に関する環境変化を、班の意見として５つ以上準備する。班員間で情報が重複し５つに満たない場合は、新たな環境変化を見つける。【主体的に取り組む態度】
④計８班の情報を集約しクラス全体としてコロナ禍におけるＰＥＳＴ分析シートを完成させる。	③でまとめた自班の情報を班ごとにタブレットＰＣに入力する。タブレットＰＣで入力用のシートファイルを共有することで各班の同時入力を可能にする。これにより他班の入力情報がリアルタイムに自画面で確認できるため、重複する情報は班同士で調整し新たな情報を追加させる。入力が完了した時点でクラス全体のＰＥＳＴ分析が完成する。

３　授業実施上の工夫
　上記学習活動の④の場面でのタブレットＰＣ活用により、班の代表生徒による板書の時間や自分のプリントにその板書内容を書き写す時間が大幅に短縮できた。また同時の書き込みが可能になったため情報の量的増加を実現することができた。またＰＥＳＴ分析入力シートは各班の入力が完了と同時に完成するため、即座にプリントアウトしクラス全員で情報の共有ができた。短縮できた時間で各班の代表者に記載内容についての説明まで行わせることができた。

【事前レポート課題】

【Politics１班】

【タブレット PC の活用により他班の入力情報をリアルタムに確認】

【Politics２班】

４　評価方法
　本時は情報の収集量を【主体的に学習に取り組む態度】の評価対象とした。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	ＰＥＳＴ分析をＳＷＯＴ分析（O/T分析）に活用できる。［次時以降］	インターンシップ先企業に対してO/T分析による自分の考えを伝えることができる。［次時以降］	ＰＥＳＴ分析を用いてビジネスを取り巻く環境の変化を発見することができる。［本時］

５　成果と課題
【成果】タブレットＰＣの活用により「書き写す」という作業時間の大幅な短縮が可能となった。また、リアルタイムな他者の意見確認により自発的な思考の深化を促し、意見の量的増加（ＰＥＳＴ各項目につき１０個以上、合計で６０個のコロナ禍における外部環境の変化に気づくことができた）につながった。
【課題】タブレットＰＣやＷｉＦｉ環境といったハード面の環境整備。
６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
						○	○	○	

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	大分県	学校名	大分県立中津東高等学校
授業で活用しているICT機器など	電子黒板と windows PC		

１　科目名「ビジネス基礎・マーケティング・経済活動と法」
・「ビジネス基礎」　１年、２単位、必修
・「マーケティング」２年、２単位、選択
・「経済活動と法」　３年、２単位、必修

２　授業概要
・すべての単元において、オリジナルのプレゼンテーションデータを作成し、教科書と併用しながら生徒に説明・呈示している。

３　授業実施上の工夫
・授業全般において各単元の内容についてプレゼンテーションソフトを用いて説明している。特に、実務で取り扱われている商品やサービス、または実例（企業の取組や事例、判例など）を必ず取り上げて、生徒たちの理解促進に努めている。授業の後半では、復習問題として一問につき約７秒から１０秒のペースで「フラッシュクイズ（問題）」を出題し、生徒たちの理解力をさらに深ていく工夫をしている。

４　評価方法
・毎時「授業プリント」を配布し、授業内容はもちろん、教師側からの発問に対する回答、そして授業終了５分前には本時の感想と次時に向けた課題（教師側への要望等）を生徒に記入させている。その授業プリントの内容を評価対象の一つとしている。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・授業内容のメモを記入している ・授業内容以外のオリジナルのメモがある	・発問に対して回答している ・発問に対して自分の考えを盛り込んで回答している	・感想を述べている ・感想の中で疑問点や提案内容がある

５　成果と課題
（成果）
・教科書とプレゼンテーションソフトによる内容の呈示により、教科書だけでは教えることのできない実務的な知識や社会・企業での実践例などをリアルタイムで生徒たちに伝えることができるため、生徒たちは新鮮な情報を掴むことができる。
・フラッシュクイズ（問題）を１問７秒から１０秒で出題するため、生徒たちの思考力・判断力のスピードが上がっている。

（課題）
・毎時同じ形（プレゼンテーションソフトでの説明、生徒との意見交換、フラッシュクイズ、発問に対する回答、感想記入）の授業内容が続くと生徒たちも飽きてくるため、グループ学習や一人一台ＰＣを利用した調べ学習などを効果的に入れていくことが必要だと感じている。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○									

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	大分県	学校名	大分県立国東高等学校双国校
授業で活用しているICT機器など	・iPad　・電子黒板		

１　科目名「ビジネス情報」

履修学年　３年　、単位数　３単位　、履修形態（必修）

２　授業概要

・年間を通じ毎回の授業で適宜活用。　※下記【学習場面】は年間を通じたもの
・授業改善（「対話する力」の育成）を推進するツールとして活用

３　授業実施上の工夫

【教員】より分かりやすく、より参加しやすい授業づくりのために活用。
・教科書、問題集を提示し、視覚的に理解が深まるように工夫しながら実施。
・具体例（実務に即した画像や資料）の提示、生徒端末に資料の配布など。
【生徒】「対話する力」の習得、向上のために活用。
・用語の説明や問題の解法などを、考え、まとめ、発表する際のツールとして活用。
・グループ学習時のコミュニケーションツールとして活用。
・「振り返り」として授業内容をまとめ記録するために使用。

４　評価方法

・知識の獲得、定着状況を評価〔各時の振り返りシート、定期考査〕
・各時の「目標」に対する理解度、達成度、取り組み状況などを評価。〔観察、自己評価〕
・表現ツールとしての活用スキルを評価。（知識・技能）
・発表内容、方法、表現力などを評価（思考・判断・表現）。〔観察〕
・発表までの過程で、グループ内で協働する姿勢（自己評価含む）を評価。〔観察・自己評価〕

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	情報処理機器の活用に関する基礎的・基本的な知識を身に付けるとともに、企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	ビジネスの諸問題に関する諸課題や企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	ビジネスの諸活動に関する諸課題について関心をもち、企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

５　成果と課題

１人１台 iPad、電子黒板と短焦点プロジェクターの設置など ICT の活用環境は十分整備されている。授業改善（学習改善）のツールとして、ICT の活用場面を焦点化することで、生徒の学力向上に一定の効果が見られている。今後一層のスキルアップと授業改善を推進し「教師の活用から生徒の活用へ」の目標達成を図りたい。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○		○	○	○		○	○	○	

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	大分県	学校名	大分県立大分商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	電子黒板　ipad		

１　科目名「　ビジネス経済　」

【履修学年】２年（国際経済科）
【単位数】２単位
【履修形態】必修

２　授業概要
　市場における商品の差別化と市場の種類など、近年の状況をとらえながら、差別化の種類や市場形態の種類について理解させる。市場経済の現状を知り、自らの実生活における事象と関連づけながら、将来の生活へのイメージをする。

３　授業実施上の工夫

　コロナ対策の観点から、教室を２つに分けて実施。１つの教室で授業を行い、もう一つの教室にZoomを使って中継し、リモート中継で事業を実施。

４　評価方法

　教室が２つに分かれていたため、googleﾌｫｰﾑにおけるアンケートを実施し、授業後に生徒の感想等で評価を実施。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	市場と経済に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、それを現代社会の諸問題を考察できる水準まで理解を深めているか。	市場と経済に関する知識と技術について関心をもち、それらを習得するために意欲的に取り組んでいるか。	市場と経済に関する活動における諸問題を解決するための手立て等を、意欲的に思考できているか。

５　成果と課題

　授業開始の際にZoomの接続がスムーズに行かずに、多少、時間が下がってしまったが、その後はスムーズな授業が展開できた。授業者がいる教室から、別教室の生徒への質問もでき、教室が分かれてはいたが、通常授業の雰囲気も感じられる授業となった。
　今後、オンラインやリモートによる授業も増えてくると予測される。ネットの環境もあるが、授業者のスキルアップも必要である。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
		○		○	○	○	○	○	○

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	宮崎県	学校名	宮崎県立宮崎商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	デスクトップPC、中間モニタ、プロジェクター、電子黒板		

１　科目名

「ビジネス情報管理」　３年、３単位、必修

２　授業概要

宮崎県では、グローバル化、技術革新等の進展に伴う産業界のニーズの変化に対応するため、令和４年４月から、県立高等学校商業に関する学科改編（全日制）が行われる。情報系学科の情報ソリューション科では、「AIに対応するプログラミング等を学ぶとともに、いわゆるビッグデータを、自ら分析・加工し、実社会で役立てる手法や知識技能等を学ぶ」と謳っている。そこで、データサイエンスの学習内容が「ビジネスの諸活動において情報を管理し、業務の合理化を積極的に推進する能力と態度を育てる」というビジネス情報管理の科目目標に合致していると考え、先攻学習として取り入れた。今後、データサイエンスがビジネスの要になるとも言われており、データ分析もできる高いスキルを持った生徒の育成に力を入れたい。授業はプログラミング言語「Python」によるデータの読み込みから、データの可視化まで、ビッグデータを分析し活用するライブラリの操作方法を重点的に理解させた。年間２５時間の授業であり、課題も多く残ったが、初期の目標は達成できたと考える。県内の他校にオンライン（zoom）で授業を２回配信した。

３　授業実施上の工夫

授業時間数の制約もあり、AI・データサイエンスの理解を深めるために週末課題として、無料で学べるオンライン講座GACCOに登録して、「はじめてのAI」や「高校生のためのデータサイエンス入門」の視聴を奨めた。学習環境は、データサイエンス向けの環境を提供するプラットフォーム「Anaconda」で構築した。ライブラリの基本操作、特に、pandasライブラリを使ってデータ分析の手法を学んでいくための基礎知識を理解させるために、データサイエンティスト協会から無償で提供されているデータサイエンス100本ノックを用いた。その後、データ分析のテーマごとに多数のデータが用意されている国内最大のAI/データ分析コンペティションサイト「SIGNATE」の実課題に挑戦した。今回は、練習問題である①気象や暦、献立等の情報からお弁当の需要予測、②Jリーグの観客動員数予測の２つの回帰問題に取り組んだ。

４　評価方法

知識・理解よりも、グループでの話合い・発表、レポート作成やモデル（AI）作成といった活動を評価するパフォーマンス評価や実技テストに重きを置いている。また、日々の学習を見通したり、振り返ったりできるようにICTを活用したWordpress（ブログ形式）で学習状況を記録して、生徒自身が把握できるように工夫している。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	ビジネスの諸活動に関するデータサイエンスの意義や役割を理解するとともに、モデル（AI）の精度評価を分析する力を身につけている。	適切なデータ分析を用いて、科学的な根拠を用いながら業務の合理化を行い、様々な仕組みやサービスの創出などを身につけている。	実データの活用・分析の取り組みを通じて、統計的な探究活動を繰り返し、科学的思考や問題解決を行おうとしている。

５　成果と課題

生徒の興味・関心は高く、主体的に取り組む生徒が多かった。実データを扱うことでしか得られない「学ぶ楽しさ」が伝わったと考える。今後も「SIGNATE」の実データを用いて、ケーススタディを中心とした実践的な学びの場を通して、生徒同士がお互いにアイデアを出し合い、学び合う授業の構築を目指しながら、効果的にICT活用を通して課題解決能力を育成していきたい。一方、学びを深めるために自分自身が作成したモデル（AI）を投稿して、予測精度を評価させたかったが、時間が足りなかった。また、コロナ禍の中であり、グループでの活発な意見交換が行えず、対話を通した言語活動の充実が図れなかった。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
			○				○		

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	宮崎県	学校名	宮崎県立富島高等学校 （実践校：宮崎県立都城商業高等学校）
授業で活用しているICT機器など	ＰＣ、Google Classroom、anaconda3、python3.8、Jamboard		

１　科目名「課題研究」

履修学年：３年、単位数：２単位、選択必修

２　授業概要

背景

絶え間ない技術革新等により，進化した人工知能（AI）が様々な判断を行い， Society5.0とも呼ばれる新たな時代の到来が，社会や生活を大きく変えていくとの予測もなされている。このような社会的な背景を踏まえながら、科目「課題研究」を通して、求められる人材育成を行う授業を行った。今回は、対面授業に加え新型コロナウイルス感染拡大の影響による学校休校中の遠隔授業でのICTを活用した事例を紹介する。

実践

対象生徒は３年生１５名で、生徒を３班に分けて研究を行った。はじめに「地域企業における課題」を討論させた。討論の結果、「地元の中小企業においては簿記会計ソフトを活用する企業は少ないのではないか。そこで、定型的に行う業務や数値的に表現可能な業務はＡＩによる簿記自動会計システムに代替させることで業務の効率化を図れるのではないか」という仮説のもと研究を行った。授業開始時では、Google Classroomでクラスを開設し、レポートの提出、オンライン会議等の方法を伝達した。さらにAnaconda3でプログラミング言語「Python」の環境構築を行った。その後オンライン会議（Google Meet）を利用してグループの課題解決の進捗状況を確認し、Google Classroomでレポートの提出、プログラムの制作、データの作成を行った。レポートの提出後、グループ内で課題を共有しJamboardを活用しながらブレーンストーミング形式でまとめていくことにした。自動仕訳の構築は、全商簿記１級の問題集を基にデータの作成を担当する生徒とプログラムを担当する生徒で分担した。初歩的な活用方法を伝えた後、グループで試行錯誤を繰り返しながら調査研究を行った。実装するところまでこぎつけたが、正しい勘定が出力されず、精度の低い結果となってしまった。これらの結果を踏まえ、生徒に自分たちで考えさせた。プログラム及びデータを再度作成することで、９７％以上という高い精度を上げることに成功した。

３　授業実施上の工夫

society5.0動画（経済産業省）の視聴や世界の５Gにおける取組等を紹介し知識を深めさせたこと、デジタル庁の設立をはじめとした社会の変化や経済に関するニュースについて考えさせたことは生徒の動機づけに効果的であった。商業の見方・考え方を働かせながら、経済のしくみを学ぶことが、課題研究に深く関連していることに気づかせることができた。また、Google Classroom、Google Meetを活用することで、レポート提出の把握、オンライン会議を進めることが非常に有意義であった。

４　評価方法

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	課題解決を達成するために、関連する適切な資料を集め、幅広い情報を収集している。さらに、学んだ知識を様々な視点から捉え、研究方法を導き出し、それらを活用することができる。	課題に対して仮説を立てている。発言、発表が論理的な構成になっており、様々な手法や視覚的補助資料を効果的に用いながら新たな価値を生み出し表現することができる。	話し合いをリードしたり、意見を整理したり関連付けたりして発言し、課題達成に他者と協働的に取り組もうとしている。課題を次へのステップに繋げ、振り返りながら、学びに向かおうとしている。

５　成果と課題

AIを活用することの意義や役割を理解し、これからの社会について学ぶ機会を増やすことができた。Google Classroom、Google Meetなどの利用により、レポート等の提出物の管理、オンライン会議の活用、グループワークにおけるブレーンストーミングの効率化を進められたことがICT活用の成果としてあげられる。課題としては、PCと携帯電話に登録する時にフィルタリングの規制があることや、wi-fi環境が生徒によって異なることである。この課題は、生徒の家庭の方針や考え方によるものであるため、難しい課題であると感じている。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
						○	○	○	

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	鹿児島県	学校名	鹿児島女子高等学校
授業で活用しているICT機器など	(1)鹿児島まなびやの「あんみせよかみせ」 (2) Life is Tech ！ Lesson（ライフイズテック レッスン）		

１　科目名「課題研究」
履修学年　２年生・３年生　　単位数　２年生（２単位）・３年生（３単位）
履修形態　自由選択

２　授業概要
(1) 鹿児島まなびやの「あんみせよかみせ」
オンラインショッピングモール「鹿児島まなびや」内で鹿児島県内の飲食店を中心に高校生が選んだ美味しい店・お勧めする店「あんみせよかみせ」を掲載している。ホームページ作成技術の向上とコミュニケーション能力の育成を図るために昨年度から取り組んでいる。
(2) Life is Tech ！ Lesson（ライフイズテック レッスン）
この教材を用いる事でWebサイト制作（HTML、CSS）およびデザイン理論を基礎から学習し，最終的にはオリジナルWebサイトの制作ができるようになる。この学習を通してWebサイトの制作技術を習得させ，「鹿児島まなびや」でご契約いただいている企業のオリジナルページを作成する事を最終目標としている。

３　授業実施上の工夫
(1) 鹿児島まなびやの「あんみせよかみせ」
この活動をとおして，掲載した店舗の運営が少しでも上向くよう，掲載店舗と協力し，掲載内容の充実を図り，地元活性化の一端を担っている事を意識させている。
(2) Life is Tech ！ Lesson（ライフイズテック レッスン）
プログラミング学習を意識しなくても，手軽にプログラミング学習ができるように生徒自身の理解度に合わせた授業を行っている。

４　評価方法
(1) 鹿児島まなびやの「あんみせよかみせ」
掲載企業とのやり取りをとおして，コミュニケーション力が向上したかを判断する。また，掲載企業への来店者の増加なども一部評価に入れる。
(2) Life is Tech ！ Lesson（ライフイズテック レッスン）
オリジナルページの作成を行い，その作品をコンテストへ出品し，外部の方に評価をしていただく。また，校内で発表会を実施し相互評価も行う。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	掲載するために HTML 言語やCSSの取り扱いがスムーズにできたか。	オリジナルのページを作り，掲載企業の希望に沿ったものできたか。	掲載企業への積極的な打ち合わせができたか。また，自主的に学習できたか。

５　成果と課題
(1)成果
コミュニケーション能力と論理的思考力が自然と身に付いた。また，コロナ禍の中で，自分自身で地元企業に対してできることを発見し，それを実行する力が身に付いた。
(2)課題
2年生が3年生になり，進路の事に対して意識が傾くため，継続してこの取り組みを選択する生徒がすくない。そのため継続して掲載企業のとの繋がりがもてない。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
	○	○		○		○			

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	鹿児島県	学校名	鹿児島情報高等学校
授業で活用しているICT機器など	1,2年生iPad(令和２年度より年次配布)　３年生スマートフォン(個人所有物) Wi-fi、プロジェクタ、いずれも全教室		

１　科目名「　全科目　」
全ての授業において、ICT機器を活用している（活用しなければ授業が成り立たない仕組みになっている）

２　授業概要
オンライン授業について
　実施期間　　R2.5/11～22、R3.5/6～11
　目　　的　　コロナ禍における生徒・保護者・教職員の安全確保。
　　台風時も休校にせず学びを止めない。大雨等の悪天候で登校できない生徒へ授業配信など
　ア プ リ　　Googleクラスルーム（双方向ビデオ配信 ／ 教師 課題配信や採点 ／ 生徒 課題提出）
　　ロイロノート（生徒同士の課題や作品のシェア、課題提出）など

　通常授業とオンライン授業にあまり違いはない。オンライン授業では、双方向ビデオ配信が加わるだけで、普段の授業でも基本的に課題はアプリを通して教師から生徒へ配信され、生徒はアプリを通して提出する。生徒たちは各自インターネットを使って調べ学習を行い、授業内外で提出する。データによる意見交換が活発で、生徒同士でシェアし１つの作品を作ることもある。
　教師の採点はアプリ内で行い、生徒にリアルタイムで返却される。ただし、教科書はデジタルでは無く紙媒体がほとんどである。授業の出欠はアプリで行い、保護者もそれを見ることができる。指導要録にも連携している。また、授業だけでなく、全校集会、外部講師を招聘した講話はZoom等のビデオ会議アプリがよく使われた。

３　授業実施上の工夫
　チーム内でのチャットやグループでの非同期の会議、ファイルやスケジュールの管理やシェアなど、今までの仕事の在り方を抜本から見直した。そうして削ぎ落された時間は、生徒と向き合う時間や教材研究（従来の教科の研究に加え、アプリの自主研修、先生同士の学びあい）として確保できている。
　それぞれアプリの長短をよく理解し、生徒の学びが最大になるよう日々研究している。

４　評価方法

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	４割（従来の各考査におけるペーパーテスト） 単元終了時に小テスト(googleフォームによる自動採点等)を行い、考査を行わない教科も増えてきた。	３割（授業中の課題や宿題等の提出物） 基本的にプリントは配布せず、データ配信。生徒はデータで課題提出。	３割（授業態度等）

５　成果と課題
　iPad導入時は苦労も多かったが、今ではiPad無しでは授業は成り立たない。授業の事前準備や採点業務などの時間が短縮され、働き方改革にも繋がった。授業中は生徒全員で解答や作品を共有できるため、生徒同士のディスカッションが多く行われるようになった。教師の一方通行な授業は無くなった。
　現在も数多くの課題があるが、チーム全体で難局を乗り越え解決していく雰囲気があるため、今以上の学びを提供できると思うと今後の展開がさらに楽しみである。

６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	沖縄県	学校名	沖縄県立具志川商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	電子黒板・ipad・applepencil・appleTV・プロジェクター・教材提示装置 スキャナー・ビデオカメラ・zoom（ソフト）		

1　科目名「総合実践」（リゾート観光科）履修学年：3年　単位数：3単位、履修形態：必修

2　授業概要

総合実践　オンラインによる交流計画(香港の高校)

日　時	交流内容	交流の目的
12月8日	学校紹介、お国紹介	最初の顔合わせ 地域の歴史・文化を知り伝える 異文化理解の促進
1月29日 ２月５日	ZOOMを活用したオンラインによる小グループ学校交流	外国語活用能力の向上 地域の歴史・文化を知り伝える 異文化理解の促進

3　授業実施上の工夫

①事前授業として、小グループに分かれたのち、「香港について」各々テーマを決め、インターネットを活用し調査を行い、発表することで情報を共有した。

②交流にはzoomアプリを使用することにした。理由は回線の安定感が高いこと、そしてブレイクアウトルーム機能という小部屋を用意できるからである。本校の交流目的である外国語活用能力を高めるためには少人数でできるだけ多くの発話を経験させ外国語での会話に慣れさせたかったためである。この機能を使って日本側4人と香港側1人での交流を複数回繰り返すことができる。自己紹介、グルメやアニメに関する自由テーマについて５分間の会話を経てＳＮＳ交換でひとつのターンが終了となる。

※計画を立て香港側と調整を進め、ZOOMに入り本校生徒がブレイクアウトルームにて交流するシミュレーションは行えた。しかし、香港側でコロナの感染が拡大したことにより、香港の学校が休校になり実際に交流を行うことはできなかった。

4　評価方法

「授業評価用ルーブリック標準」を作成し、自己評価（5段階評価）をもとに、観察法による教師の評価と合わせて評価を行う。また、学校交流への取組に対しての役割に重みを付け、評価を行った。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	必要情報をインターネットから収集し、信憑性（正しさ）のある情報を整理することができる。	立案したプランを計画的に実施すると共に、想定外の事態が起きた場合、他者の援助を受けながら計画を修正・変更し、当初の目標を達成することができる。	チームのテーマや課題に挑戦していく上で、自分のやるべき仕事を的確に判断し、メンバーを率先垂範しながら取り組むことができる。

5　成果と課題

成果：Zoomでオンライン交流を行うことで、ICT機器を多く活用することができ、生徒のスキルアップにつながった。

課題：当初計画していた通りの交流がコロナ禍により行えなくなった。次年度は早いうちに顔合わせを行い、各々の自宅でもオンライン交流が行える環境を構築したい。

6　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
○		○	○	○				○	○

ＩＣＴを活用した授業の実践事例

都道府県名	沖縄県	学校名	沖縄県立南部商業高等学校
授業で活用しているICT機器など	コンピュータ、プロジェクター、スクリーン、デジカメ、インターネットなど		

1　科目名「　課題研究　」
　3年3単位　各分野を自分で選択し取り組んでいる。

2　授業概要
⑴①調査、研究、実験　②作品製作　の中から自分が取り組みたい分野を選択する。
⑵自分の取り組む分野が決まったら、各自でテーマを決め、学期毎の発表に合わせて、自分の学習計画を立てて進めていく。
⑶学期毎に自分の作品の発表を行う。

3　授業実施上の工夫
○テーマを決めたら作品を作るための素材をインターネットから探す。その際、フリー素材を使用して探すように指示をしている。著作権のことを含めた指導を行う。

○ムービーメーカ等のソフトの使用に関しても、まずは自分で色々試しながら作品を作らせる。わからないところはタブレットを使用し、ソフトの使用方法を検索しながら作品製作をさせた。

4　評価方法
○授業ごとの日誌の記入（各自の達成度評価も含め）日誌点の評価
○発表時に作品を色々な観点から点数評価をし、評価をつけた。
○課題研究なのでルーブリックを活用した評価を行った。

観点	知識･技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・現状を分析し、目的や課題を明らかにする力	・現状を分析し、目的や課題を明らかにする力 ・自分の意見をわかりやすく伝える力	・課題の解決に向けたプロセスに応じて計画する力

5　成果と課題
～成果～
○ルーブリック評価取り入れることで、個に応じた力で評価をつけることができる。
○生徒の興味関心をもとに、課題に取り組み、その評価が出せるのはよかった。

～課題～
○まれに、何もしない生徒もおり、テストを実施しないので評価基準がすべてＥランクとなりその生徒には点数がほとんどつかない評価になる。課題提出、中間報告などの対応をする必要がある。

6　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】

Ａ１	Ｂ１	Ｂ２	Ｂ３	Ｂ４	Ｂ５	Ｃ１	Ｃ２	Ｃ３	Ｃ４
				○					

ICTを活用した授業の実践事例一覧

No.	都道府県名	学校名	科目	A1	B1	B2	B3	B4	B5	C1	C2	C3	C4
1	北海道	北海道札幌東商業高等学校	情報処理	○				○		○			
2	北海道	北海道小樽未来創造高等学校	商品開発		○	○		○		○			
3	青森県	青森県立青森商業高等学校	課題研究					○		○			○
4	青森県	青森県立三沢商業高等学校	課題研究	○		○	○	○		○	○	○	
5	岩手県	岩手県立水沢商業高等学校	ビジネス情報	○								○	
6	岩手県	岩手県立北上翔南高等学校	電子商取引	○		○	○	○		○	○	○	
7	宮城県	仙台市立仙台商業高等学校	簿記・財務会計Ⅰなど	○						○			
8	宮城県	宮城県大河原商業高等学校	広告と販売促進			○	○		○	○	○		
9	秋田県	秋田県立大館国際情報学院高等学校	課題研究	○			○			○	○		
10	秋田県	秋田市立秋田商業高等学校	財務会計Ⅰ	○									
11	山形県	山形市立商業高等学校	広告と販売促進	○		○		○		○			
12	山形県	山本学園高等学校	ビジネス基礎	○		○	○	○	○	○	○	○	
13	福島県	福島県立保原高等学校	総合実践	○		○		○	○	○	○		
14	茨城県	茨城県立水戸商業高等学校	簿記	○	○					○	○		
15	茨城県	茨城県立土浦第三高等学校	財務会計Ⅰ	○			○	○					
16	栃木県	栃木県立宇都宮商業高等学校	プログラミング	○	○			○	○	○	○	○	
17	群馬県	群馬県立伊勢崎商業高等学校	プログラミング		○	○	○	○	○				
18	群馬県	群馬県立高崎商業高等学校	ビジネス情報	○	○		○			○	○		
19	埼玉県	埼玉県立浦和商業高等学校	ビジネス基礎	○	○		○			○	○		
20	埼玉県	埼玉県立大宮商業高等学校	簿記	○	○					○	○		
21	千葉県	千葉県立千葉商業高等学校	簿記	○									
22	千葉県	千葉県立千葉商業高等学校	ビジネス情報							○	○	○	
23	山梨県	甲府市立甲府商業高等学校	ビジネス経済・課題研究（株式学習）・ビジネス基礎	○	○	○	○	○		○	○		
24	山梨県	甲府市立甲府商業高等学校	財務会計Ⅰ・マーケティング	○	○	○	○			○	○		
25	東京都	東京都立江東商業高等学校	ビジネスアイデア	○		○		○		○	○	○	○
26	東京都	東京都立江東商業高等学校	財務会計Ⅰ		○		○		○				
27	神奈川県	横浜市立横浜商業高等学校	課題研究	○	○					○			○
28	神奈川県	神奈川県立厚木商業高等学校	原価計算	○						○		○	
29	新潟県	新潟県立佐渡総合高等学校	経済活動と法	○		○		○	○	○	○		
30	富山県	富山県立富山商業高等学校	情報処理		○		○			○	○	○	
31	石川県	石川県立金沢商業高等学校	観光地域学	○		○	○	○		○	○	○	
32	石川県	石川県立小松商業高等学校	課題研究			○				○	○	○	○
33	福井県	福井県立敦賀高等学校	総合的な学習の時間		○	○	○	○	○	○	○	○	
34	福井県	福井県立若狭東高等学校	課題研究		○	○	○	○	○	○	○	○	○
35	長野県	長野県諏訪実業高等学校	簿記・ビジネス基礎・原価計算・マーケティング・ビジネス情報など	○	○			○	○				
36	長野県	長野県穂高商業高等学校	簿記・ビジネス基礎・情報処理	○									
37	静岡県	静岡県立沼津商業高等学校	ビジネス情報	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
38	静岡県	静岡県立浜松商業高等学校	課題研究（観光）	○		○		○		○	○	○	
39	愛知県	愛知県立愛知商業高等学校	課題研究（地域協働ビジネススキルアップ探究）										○
40	愛知県	愛知県立東海商業高等学校	簿記		○				○				
41	岐阜県	岐阜県立岐阜商業高等学校	ビジネス基礎	○		○	○	○	○	○	○	○	
42	岐阜県	岐阜県立大垣商業高等学校	簿記	○									
43	三重県	三重県立四日市商業高等学校 三重県立津商業高等学校 三重県立松阪商業高等学校	総合実践・課題研究（未来の教室）	○	○	○	○	○		○	○	○	
44	三重県	三重県立津商業高等学校	電子商取引	○	○	○		○	○				

45	三重県	三重県立宇治山田商業高等学校	ビジネス経済応用	○		○			○	○	○	○	
46	滋賀県	滋賀県立八幡商業高等学校	課題研究（観光基礎講座）	○		○		○		○		○	
47	京都府	京都府立大江高等学校	ビジネス実践										○
48	京都府	京都府立京都すばる高等学校	ビジネス基礎	○		○			○	○	○		
49	大阪府	大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校	情報処理	○	○	○	○		○				
50	大阪府	大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校	ビジネスマネジメントⅠ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
51	兵庫県	兵庫県立神戸商業高等学校	ビジネス経済応用	○	○	○	○	○		○	○	○	
52	兵庫県	兵庫県立豊岡総合高等学校	簿記	○	○						○		
53	奈良県	奈良県立奈良朱雀・奈良商工高等学校	電子商取引	○		○		○		○	○	○	
54	奈良県	奈良県立奈良情報商業・商業高等学校	情報処理	○		○			○		○		
55	和歌山県	和歌山県立和歌山商業高等学校	電子商取引	○		○	○	○		○	○		○
56	鳥取県	鳥取県立鳥取商業高等学校	情報処理				○			○	○	○	
57	鳥取県	鳥取県立米子南高等学校	ビジネス情報	○									
58	島根県	島根県立情報科学高等学校	プログラミング								○		
59	島根県	島根県立松江商業高等学校	総合実践	○	○	○	○			○	○	○	
60	岡山県	岡山県立倉敷商業高等学校	課題研究	○		○	○	○	○	○	○	○	
61	岡山県	岡山県立笠岡商業高等学校	ビジネス基礎	○		○		○		○	○	○	
62	広島県	広島市立広島商業高等学校	電子商取引	○		○	○	○		○	○	○	
63	広島県	広島県立広島商業高等学校	ビジネス基礎・情報処理	○		○			○	○	○	○	
64	山口県	山口県立防府商工高等学校	総合実践	○		○		○	○	○	○	○	○
65	山口県	山口県立柳井商工高等学校	電子商取引	○				○			○		
66	香川県	香川県立坂出商業高等学校	総合実践	○		○	○			○			
67	香川県	香川県立高松商業高等学校	原価計算	○	○				○				
68	徳島県	徳島県立徳島商業高等学校	課題研究	○	○	○	○	○		○	○	○	○
69	徳島県	徳島県立つるぎ高等学校	原価計算	○	○		○			○	○	○	
70	愛媛県	愛媛県立松山商業高等学校	マーケティング	○				○	○	○	○		○
71	愛媛県	愛媛県立新居浜商業高等学校	ビジネス情報	○		○	○		○	○	○		
72	高知県	高知商業高等学校	ビジネス経済	○					○				
73	高知県	高知商業高等学校	原価計算	○						○	○		
74	福岡県	福岡県立小倉商業高等学校	マーケティング	○	○	○				○	○		
75	福岡県	福岡女子商業高等学校	ソフトウェア活用	○	○	○	○	○	○	○			○
76	佐賀県	佐賀県立佐賀商業高等学校	財務会計Ⅰ	○					○				
77	長崎県	長崎県立諫早商業高等学校	マーケティング	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
78	長崎県	長崎県立佐世保商業高等学校	ビジネス基礎	○						○	○		
79	熊本県	熊本県立球磨中央高等学校	簿記・管理会計		○				○				
80	熊本県	熊本県立北稜高等学校	マーケティング							○	○	○	
81	大分県	大分県立中津東高等学校	ビジネス基礎・マーケティング・経済活動と法	○									
82	大分県	大分県立国東高等学校双國校	ビジネス情報	○		○	○	○		○	○	○	
83	大分県	大分県立大分商業高等学校	ビジネス経済			○		○	○	○	○	○	○
84	宮崎県	宮崎県立宮崎商業高等学校	ビジネス情報管理				○				○		
85	宮崎県	宮崎県立富島高等学校 実践校：宮崎県立都城商業高等学校	課題研究							○	○	○	
86	鹿児島県	鹿児島女子高等学校	課題研究		○	○		○		○			
87	鹿児島県	鹿児島情報高等学校	全科目	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
88	沖縄県	沖縄県立具志川商業高等学校	総合実践	○		○	○	○				○	○
89	沖縄県	沖縄県立南部商業高等学校	課題研究					○					
				A1	B1	B2	B3	B4	B5	C1	C2	C3	C4
合計				67	33	47	37	43	32	62	56	38	18
総合計				67	192					174			

おわりに

今回、商業教育対策委員会から各都道府県の連絡理事校を通じて、ＩＣＴを活用した授業について先進的な取組を実践されている学校に対して、「社会に開かれた魅力ある商業教育の実現に向けて－Society5.0 時代の新しい商業教育の実践例－」の提出をお願いいたしました。コロナ禍への対応や令和４年度からの新しい教育課程の実施に向けた準備等という大変お忙しい中、提出に御協力いただきました校長先生方に衷心より感謝申し上げます。

ところで、昨今、「デジタル敗戦」という言葉が流布しています。我が国においては、2001 年の「ｅ－Ｊａｐａｎ戦略」から始まった様々なＩＣＴ推進の政策が十分に功を奏さずに、今日に至っています。それらを総じて、デジタル敗戦というわけです。そして、そのＩＣＴ推進の遅延の最たる悪影響が、一律 10 万円の給付申請など、コロナ禍における対応の遅れや混乱として露呈しました。2019 年、行政手続きのオンライン利用率は 7.9％と、ＯＥＣＤ29 か国において最下位となっています。

このようなデジタル敗戦といわれる状況の中、デジタル庁の発足を始めとしたＩＣＴの推進は、今日の我が国における喫緊の課題となっています。

教育においても、コロナ禍がＩＣＴによる学習支援が遅々として進んでいない状況を露呈させました。ＩＣＴ機器の不足などのＩＣＴ環境の未整備、教員のデジタルデバイド(情報格差)、生徒の家庭の通信環境の未整備などです。コロナ禍に伴う令和元年度末からの一斉臨時休業では、ＩＣＴによる学習支援環境を整わせる暇もなく生徒の登校がままならなくなり、その対応に四苦八苦した学校が多いと仄聞しています。

このような学校におけるＩＣＴ環境・指導体制の実態とＩＣＴによる学習支援の方向性や、そのＩＣＴ教育推進のプラットフォームとなる教育課程の編成や実施状況について、商業教育対策委員会は、令和３年５月に、「新学習指導要領に基づく教育課程の実施に向けた諸課題－Society5.0 時代の新しい商業教育の実現のために－」として情報収集や現状分析、考察を行いました。Society5.0 時代の新しい商業教育の実現のために、教育課程とＩＣＴに係る現状やその課題を俯瞰するためにお役立ていただければ幸いです。

その後継としての本冊子「社会に開かれた魅力ある商業教育の実現に向けて－Society5.0 時代の新しい商業教育の実践例－」は、コロナ禍におけるＩＣＴ推進の救世主として、そして、Society5.0 時代における新しい商業教育の推進のバイブルとして役立つのではないでしょうか。先ほどの冊子によって教育課程とＩＣＴに係る現状やその課題を俯瞰した後にお読みいただきますと、ＩＣＴ推進の必要性が一層明確になろうかと思います。具体的には、ＩＣＴを活用した授業について先進的な取組を実践されている学校の事例をロールモデルとして、自らの学校の環境にふさわしくなるようにカスタマイズしてみるのです。

本冊子の特徴は、各事例の「６　この授業におけるＩＣＴを活用した【学習場面】」を設定しているところです。各学校の学習場面において強化したい点や困っている点に当てはまる事例を見つけロールモデルとします。あるいは、巻末には、「ＩＣＴを活用した授業の実践事例一覧」が掲載されていますので、それを基にロールモデルを複数見つけて、良いところ取りをしてもよいかもしれません。

一方、「４　評価方法」については、令和４年度から年次進行で実施される高等学校学習指導要領に伴う「観点別評価」の実施という過渡期にあることから、十分に踏み込んだ内容となっていないことは否めません。この点については、各学校において、文部科学省や各都道府県教育委員会の通知を踏まえて創意工夫が求められます。今後、観点別評価の実施を踏まえた議論や総括が必要になってくるでしょう。

本部提案テーマ年度別一覧

昭和６０年　５月　理産審産業教育分科会「審議のまとめ」と「答申」の対比について
昭和６０年１０月　理産審産業教育分科会「答申」に関連した各県の商業教育の取り組み状況
昭和６１年　５月　企業側からみた商業高校卒業者の受け入れ傾向について
—アンケート調査に基づいて—
昭和６１年１０月　就職状況の変化に対応する進路指導対策について
—アンケート調査に基づいて—
昭和６２年　５月　商業科に関する新しい小学科の設置状況について
昭和６２年１０月　生徒の急減期における商業高校としての対応
昭和６３年　５月　教育課程審議会の答申をふまえた商業教育の展望
—アンケート調査に基づいて—
昭和６３年１０月　将来展望にたった商業教育のあり方—アンケート調査に基づいて—
平成元年　５月　時代の変化に対応する商業教育の展望
—新学習指導要領に基づく教育課程の編成例—
平成元年１０月　高等学校学習指導要領の実施にむけて
—教科「商業」にかかわる一問一答集—
平成２年　５月　問題解決能力や創造性の育成をめざす商業教育の具体的展開
—課題研究」の研究と実践の推進—
平成２年１０月　高等学校移行措置を生かした商業教育のあり方
—新学習指導要領の取り扱いと学校における対応—
平成３年　５月　２１世紀を拓く商業教育—そのあり方を求めて—
平成３年１０月　２１世紀を拓く商業教育—その具体化にむけて—
平成４年　５月　生徒の個性を伸ばす商業教育—新たな創造を目指して—
平成４年１０月　新学習指導要領の趣旨を生かす教育課程の編成
平成５年　５月　商業教育に関する「聴取り調査」報告
平成５年１０月　商業に関する学科の特色化・個性化について
—教育課程を中心として—
平成６年　５月　進路の多様化に対応する商業教育—大学進学—
平成６年１０月　進路の多様化に対応する商業教育
—専攻科及び高等専門学校の構想—
平成７年　５月　進路の多様化に対応する商業教育—就職指導—
平成７年１０月　高等学校教育の改革—現状と商業高校の課題—
平成８年　５月　社会の進展と商業教育の充実
—これから求められる専門教育の育成—
平成８年１０月　社会の進展と商業教育の充実
—商業教育における基礎・基本の内容をさぐる—
平成９年　５月　２１世紀を展望した商業教育の在り方について
—「生きる力」の育成に対応するための商業教育—
平成９年１０月　２１世紀を展望した商業教育の在り方について
—社会の変化に対応した商業教育—
平成１０年　５月　完全学校週五日制における商業教育の在り方
—新しい情報処理教育の在り方について—
平成１０年１０月　完全学校週五日制における商業教育の在り方
—地域や産業界との連携と開かれた商業教育について—
平成１１年　５月　社会の変化や産業の動向等に対応した商業教育の在り方
—新学習指導要領に基づく教育課程編成上の課題—
平成１１年１０月　高等学校学習指導要領の実施に向けて
—教科「商業」に関する一問一答集—
平成１２年　５月　高等学校学習指導要領の実施に向けて
—新学習指導要領に基づく教育課程の編成例—
平成１２年１０月　就業構造や産業構造の変化に対応する就職指導のあり方
平成１３年　５月　２１世紀における商業教育—大学から見た商業教育—
平成１３年１０月　２１世紀における商業教育の在り方—商業高校からの大学進学—

平成１４年　５月　　２１世紀における商業教育の在り方―商業高校が育成する商業高校生像―
平成１４年１０月　２１世紀における商業教育の在り方―商業高校における学校改革―
平成１５年　５月　２１世紀における商業教育の在り方―商業高校における起業家育成教育―
平成１５年１０月　２１世紀における商業教育の在り方
　―学校・企業・地域等との連携を考える―
平成１６年　５月　全商本部提案要約集―平成元年～平成１５年度―
平成１６年１０月　次期学習指導要領に向けて―現行学習指導要領と教育課程(商業)―
平成１７年　５月　２１世紀における商業教育の在り方―生徒の職業観・勤労観を考える―
平成１７年１０月　次期学習指導要領に向けて―現行学習指導要領と教育課程(商業)Ⅱ―
平成１８年　５月　学習指導要領改訂への提言(中間まとめ)
平成１８年１０月　学習指導要領改訂への提言
平成１９年　５月　生徒の個性を伸長する学校経営のあり方について
平成１９年１０月　生徒の個性を伸長する学校経営のあり方について　　※　冊子なし
平成２０年　５月　これからの商業教育の実践―商業教育を担う人材の育成について―
平成２０年１０月　これからの商業教育の実践―商業教育を担う人材の育成について―
平成２１年　５月　新高等学校学習指導要領の実施に向けて
　―教科「商業」に関する一問一答集―
平成２１年１０月　新高等学校学習指導要領の実施に向けて
　―新学習指導要領に基づく教育課程の編成例―
平成２２年　５月　新学習指導要領に基づく教育課程編成上の諸課題
平成２２年１０月　新高等学校学習指導要領と今後の商業教育
平成２３年　５月　キャリア教育の現状と課題について
平成２３年１０月　キャリア教育・商業教育の在り方について
　―生徒のよりよい進路実現を目指して―
平成２４年　５月　新高等学校学習指導要領の趣旨を生かした商業教育の推進　そのⅠ
　―魅力ある商業教育の発展を目指して―
平成２４年１０月　新高等学校学習指導要領の趣旨を生かした商業教育の推進　そのⅡ
　―魅力ある商業教育の発展を目指して―　　※　冊子なし
平成２５年　５月　思考力・判断力・表現力等を伸ばす商業教育の推進　そのⅠ
　―商業教育の質の向上を目指して―
平成２５年１０月　思考力・判断力・表現力等を伸ばす商業教育の推進　そのⅡ
　―商業教育の質の向上を目指して―
平成２６年　５月　全商本部提案要約集―平成16年度～平成25年度―
平成２６年１０月　次期学習指導要領改訂に向けて
　―現行学習指導要領に基づく教育課程（商業）の実施状況と課題　そのⅠ―
平成２７年　５月　次期学習指導要領改訂に向けて
　―現行学習指導要領に基づく教育課程（商業）の実施状況と課題　そのⅡ―
平成２７年１０月　学習指導要領改訂への提言（中間まとめ）
平成２８年　５月　学習指導要領改訂への提言
平成２８年１０月　地域創生に資する商業教育の在り方について
平成２９年　５月　地域創生に資する商業教育の在り方についてⅡ　―次世代の商業教育に向けて―
平成２９年１０月　グローバル化社会に対応した商業教育の在り方について―次世代の商業教育に向けて―
平成３０年　５月　グローバル化社会に対応した商業教育の在り方についてⅡ―次世代の商業教育に向けて―
平成３０年１０月　商業高校の現状とこれからの商業教育を担う人材育成
令和　元年　５月　新高等学校学習指導要領の実施に向けて―教科商業科に関する一問一答集―
令和　元年１０月　新高等学校学習指導要領の実施に向けて―新学習指導要領実施に向けた先進事例集―
令和　２年　５月　新学習指導要領に基づく教育課程編成上の諸課題
　―魅力ある商業教育を創る開かれた教育課程の編成に向けて―
令和　２年１０月　魅力ある商業教育を創る開かれた教育課程の編成に向けて
　―新学習指導要領に基づく教育課程編成例―
　※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う研究協議会中止のため本部提案なし
令和　３年　５月　新学習指導要領に基づく教育課程の実施に向けた諸課題
　―Society5.0時代の新しい商業教育の実現のために―

商業教育対策委員会

令和３年度

1.委員長	武石　仁	県・水戸商
2.副委員長	内田　靖	県・浦和商
4.委員	西木成男	県・深谷商
5.　〃	山本俊之	県・鹿島灘
6.　〃	海老沼　正	県・土浦第三
7.　〃	蓮實芳守	県・鹿沼商工
8.　〃	小林　努	県・高崎商
9.　〃	橋本準一	県・熊谷商
10.　〃	常世田信幸	県・一宮商
11.　〃	森　豊巳	県・君津商
12.　〃	武藤秀樹	市・甲府商
13.　〃	小塩明伸	都・千早
14.　〃	小川　孝	都・第五商
15.　〃	石山智典	都・大田桜台
16.　〃	河合俊直	県・平塚農商

社会に開かれた魅力ある商業教育の実現に向けて

― Society5.0時代の新しい商業教育の実践例 ―

発　　行　　令和３年９月25日

発行編集　　全国商業高等学校長協会

商業教育対策委員会

〒160-0015

東京都新宿区大京町26番地

ＴＥＬ　03-3357-7911

ＦＡＸ　03-3341-1039